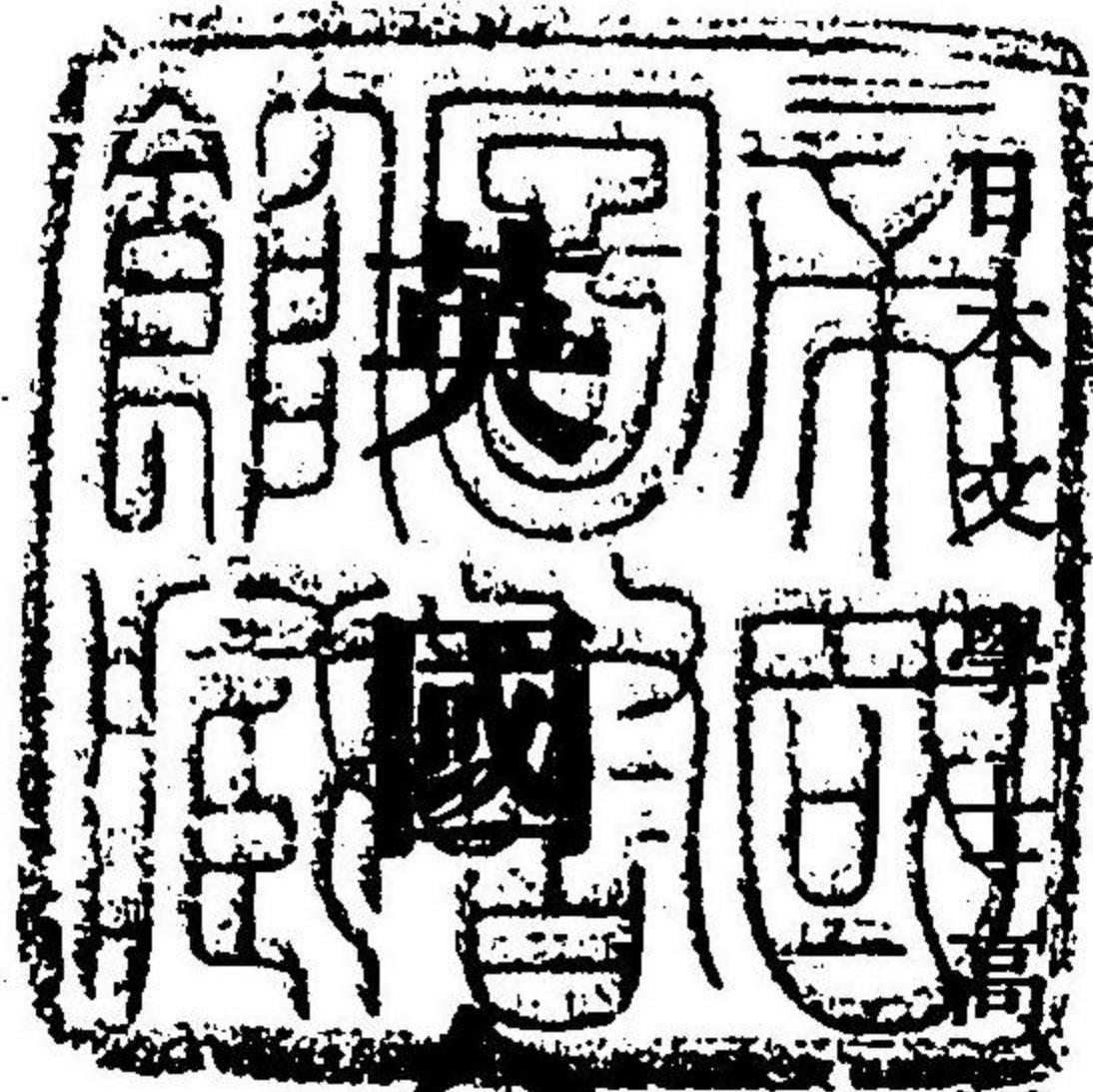


英國ジヤスチン、マツカルシー著

日本文藝社
高田早苗譯



今代史 卷之一 完

東京專門學校藏版



英國今代史卷一 目次

第一編

第一章	ウイクトリア女王崩去	一
第二章	政事家及政黨	二九
第三章	カナダとダバルの卿	五六
第四章	科學及運輸交通の便	九六
第五章	勞狀黨及其主義	一六
第六章	宮女問題	一四九
第七章	女皇の結婚	一六八
第八章	阿片戰爭	一九四
第九章	進歩黨内閣の衰勢及顛覆	二六八
第十章	宗教家の運動	二四五
第十一章	カナルの變	二七〇
第十二章	英愛聯合廢止の運動	三二八

第二編

第十三章	ピールの政治	三六七
第十四章	自由貿易及び穀物條例廢止同盟	三九三
第十五章	兇年に遭ふてピール已むを得ず其政策を變更す	四四〇
第十六章	ヂスレリー氏	四六九
第十七章	饑饉、商業上の恐慌及び外國の陰謀	五〇九
第十八章	券狀主義及青年アイルランド	五四二
第十九章	ドン、バシファイコ	五九七
第二十章	僧侶職位法案	六四二
第二十一章	ハイドパーク萬國大博覽會	六八三
第二十二章	パルマトストン	七〇四
第二十三章	一帝國の勃興「公爵」の死去	七五一
第二十四章	クラッドストン氏	七九五
第二十五章	東方問題	八一四

第二十六章	パルマリストン卿安くに在る	八六五
第二十七章	クリミヤの進撃	九〇四
第二十八章	戦争の終局	九三八
第二十九章	當代の文學(其一)	九七二

英國今代史卷の一漸く茲に完結を告げぬ其第二卷及第三卷も引續き講義録に掲載すへきなりと雖も他の原稿豊富且此原著も頗る浩漭の著作にして到底茲に譯載し盡すを得ず甚だ遺憾とする所なり然れども第二卷及第三卷は此卷と共に『女皇の御宇』と題し早稲田叢書として早速刊行するに至るべし諸子乞ふ其刊行を待ちて更に講讀する所あらん事を

明治三十二年十二月

譯者白す

英國今代史目次終

英國今代史

緒言

英國今代史は英國當代に有名なる政治家マヤスチン、マツカルテ一の著にして筆を今上ウヰクトリア女皇の即位に起し、其の御宇の間に起りたる政治上、社交上、さては文學上の事件に至るまで詳述せる珍書なり。英國最近の史に通じ兼ねては歐洲近時の事情を搜らんとするものゝ爲にこゝに譯載すと云爾。

譯者誌

英國今代史 卷一

英國 ジヤスチン、マツカルター原著

高田 早苗 譯

第一章

ウイリヤム四世王崩去
ウクトリヤ女皇即位す

紀元一千八百三十七年六月二十日午前二時半ならずする時、ウイリヤム四世王
ウクトリヤの宮殿に崩去、新主迎立の使者は馳せてケンシントン宮殿に向
へり。是より先き四世王の病に臥してより其の日甚だ遠く且つ其の危篤の報傳
へられて後も一たび快復の徴候を表はし、侍醫は其の久しからずして平癒すべき
を信ずるに至りしことありき。然れども四世王は始め即位の時春秋既に高く此
時に至りては方さに頽齡に在りしかば其の病の快復は實に望むべからざりしな
り、故に其の再び危篤の徴證を示してより復た救ふべからざるに至れり。ウイリ
ヤム四世王の崩御は正に我國史に一時期の終をなすものなり、即ち吾人は王の崩
御と共に我英國に於ける君主親政の時代は全く終はれるものと信ずるを得べし。

ウイリヤム王は必ずしも名のみ立憲君主たりと謂ふにあらず。王は實に一個立憲主義の代表者たるを失はず則ち立憲政治の主議を了解し且つ之を採用するに於て其の繼嗣の女皇が王に優る如く王は先代の二王に遙に勝る所ありしなり。我國に於て政治上諸般の事が皆漸次の發達をなし來れる如く立憲政治の主義も亦徐々として發達したれば之を成文に求め法典に尋ねんことは得て望むべからず即ち英國憲法の形骸を成典の中に求めんとするの困難なるが如し立憲政治の主義も明かに成典の形に於て之を見るべからざるは勿論なりとす。ウイリヤム四世王は其の愛憎に由て大臣を任免し且つ此の權を以て當然君主の存すべきものとしたり。其の父王も在位中は庶民院の決議を無視して其の愛する所の大臣を職に留めたり。今此れ等の行爲を非行なりとするの明文を憲法若くは其の他の法律中に求めんとするは容易にあらず。然れども今日に於て君主若し其の愛憎を以て大臣を進退し若くは庶民院の發表したる意思を無視して大臣の任免を行ふか如きことあらば吾人は之を以て我國憲法上の自由を迫害し若くは甚なくとも之を危險に陥れたりとするは勿論なるべし。故にウイリヤム四世の代に

於ては我英國に猶ほ國王親政の主義行はれたるものと謂ふべし。而して其の崩御と共に國王親政の長き歴史は終局を告げたるものとす。思ふに世人はウイリヤム王の時代の如く爾く近代に於て我國に國王親政の主義實際は行はれたりと言ふを見て疑訝に堪えざるものあらん。然りと雖も此の時に至りても親政主義は設令公然國民の承認する所とならざりしとするも兎に角國王の公然之を實行したるは明かなりとす。

ウイリヤム四世王崩するに臨み人君の威品を失はざりき。概して之を言ふに古來君主は皆死の運命に處するの道を知るものゝ如し。蓋し其の万民の上に位して群臣の服従を受け國家の大禮朝廷の儀式に於て常に首座元位を占むるより自然言語動作に威嚴を生じ死生の際に於ても從容として其の威品を失はざるものは。始めウイリヤム四世王の未だ王位に上らざるの時に於てや其の諸弟の如く言動稍粗暴傲慢なるを免かれざりき。其の海軍士官たりし時の如き屢々上長官の命令に背き殆ど訓導すべからざるを以て遂に其の現役を免し唯だ進級例の儀式に従て其の官等を進めたることありき。又其のクラレンス公たりし時國內有

覇者の賛成したる諸般の政策に頑固の反對をなし人望を失ひしことありき。奴隸貿易の廢止に反對したるか如き其の一例なり。又嘗て貴族院の討論に於て其の弟と爭論し今日庶民院の最も激烈なる討論に於ても聽く能はざるが如き暴言激語を吐きたることありき。然れどもウイリヤムは責任の加はるに従て改善するの人なりき即ち其の一親王たるの時よりも一國王となりたる時は遙か賢良の人なりき。先王ジョージ三世が終身會得する能はざりし立憲君主の第一要義即ち國民の利益のためには國王の意思持説も時に之を枉げざるべからずといふ義理はウイリヤム王能く之を了解するを得たりしなり。

ウイリヤム王の崩御の際に於ける言動は實に其の一生中に於て最も人君たるの態を得たるものなりき。一千八百三十七年六月十八日朝覺むるや其のウテータロー戰勝の記念日なるを知り近臣に告るに此の日限りは必ず存命して佳節を送らんことを欲すとの意を以てし、ウエリントン公が毎年此の日捧呈する所のウテータロー役に用ゐたる軍旗を急に齎らしめ親から手を以て鷲の旗章に加へ之に依て朕の元氣は回復したるを覺ゆといへり。ウイリヤム王は即位以來毎に

ウテータロー戰勝の記念宴會に親臨せしが此の日ウエリントン公は王の病篤きを以て宴會を延ばさんと欲して使を遣はして王の意を問ひしにウイリヤムは例年の如く宴會を催すべき旨を答へ且つ特に教旨を下して賓客皆歎を盡して宴を終はるべきを諭したり。此の時ウイリヤムは温言を以て侍臣に語りつゝありしが其の言辭悽愴にして死期の迫りたるが爲め自然一種の靈威を得たるものゝ如くなりき。王は幾度か侍臣をして所勝をなさしめ且つ之をして其の一生中誠實なる信教者なりしとを證明せしめたり。而して王の最後の政務は一罪人を特赦するに在りき。是れ特筆するの趣味あるものにしてウイリヤムに優るの明君と雖も斯の如き慈仁の政を以て其の一代を結ぶ時は更に一層の光彩を其の治世に添ゆるものと謂ふべし。ウイリヤムの將さに崩せんとするや侍臣は猶ほ之を勵まして王の病必ず回復して尙ほ多年天下を治むるを得べしと言ひしに王は無邪氣に之に應じて國家のため尙ほ十年生き延びんことを望むといへり。蓋し王は其の身一たび國家人民を捐つれば英國は殆ど存在する能はざるに至るべしと固信せしなり。吾人今日より之を看れば王の意見甚だ迂濶なるが如しと雖も然れ

ども當時ウイリヤムが國家の前途を憂ひたる心事に就ては彼のピット若くはミラポーが其の死後己れに代はる者なきを憂ひて死期に苦悶したると同一視して吾人は其の仁徳を追稱せずんばあるべからず。始めウイリヤムの年少の時に於て國民は其の將來勇壯剛健の海軍士官となり赫灼の功業を成して海國人民の光譽を揚ぐるに至るべしと信じ、ロバート、バインズ氏の如き乃ち五十年前之を稱して年少なる王族の好水手と言ひしが、此の點に於てウイリヤムは國民を失望せしめたり。然れども其の一旦王位に上りて責任の加はるに及んては其の人物徳業全く國民の豫想外に出て善良の君主となり愛國の王となれり、これ實に其の壯時の親友と雖も全く豫期せざる所なりき。

ウイリヤム四世の崩するや上下兩院に於ては其の慣例として稱徳の演舌あり。其中メルボルン、プローハム及クレーの三卿の演舌は必ずしも儀式的賛辭とのみ見るべからざるものあり。即ち三卿の演舌の中には衷心ウイリヤムの徳を感稱するの語調あり、且つウイリヤムの畢竟立憲的君主たるを失はずして重要な場合に於ては國家の政略の爲めに一身の愛憎を忘れ國民の利益のためには其の私情を

舍つるの君主たるを見て多少驚怪したる所なきにあらず。此の點より觀ればウイリヤム王は尠なくとも愛國の王と稱するを得るなり。今日の世はウイリヤム王の時代よりも大に進歩したれば君主にして政治上吾人の驚嘆を得んには更に一層高尚確實の資格を要すべし。然れども吾人ウイリヤム王を批評せんには今代の標準を以てすべからず過去の時代に觀て之を批判すべきのみ。即ちメルボルン卿若くはクレー卿の賛辭も吾人は此觀念を以て之を採覽すべく、而して又此觀念に本きてウイリヤム四世は其の教育よりも又其の少時の屬望よりも遙かに善良の君主たりと概言するを得べきなり。

ウイリヤム四世王(ジョージ三世の第三子)崩じて子無し。是に於て王位は其の弟ダント公(ジョージ三世の第四子)の女に歸せり。アレキサンドリナ、ダウングトリア公主即ち是なり。公主は紀元一千八百十九年五月廿四日ケンシントン宮殿に生れたれば此時いまだ十八歳の弱齡なりき。始め公主の生るゝに先ちて數月ケント公薨したれば公主は全く其の母の教育に依て成長したるものなり。而して母公の教育は智徳共に完美にして公主は嚴毅にして獨立自恃の精神を有する

と共に慎重節儉にして二事を苟くもせざるべく教育せられたり。當時の親王若くは諸公主の教育に就て歴史家の傳ふる所に關して世人多くは冷然として之を問はず。然れどもヅヰクトリヤ公主の智徳共に周到完美の教育を受けたるは得て疑ふべからざるなり。

先王の崩御は天下到る所に於て大に人心を動かしたり。此の時皇姪ヅヰクトリヤは最も自恃の精神に富み自重の氣象あるを示したりと稱せらる。ヅヰクトリヤは當時實に非常の責任を荷ふて立てる者にして特に各政黨大に激動して皆其の希望を此人に繫けたれば其の責任益々重大なりしものとす。是れ一千八百二十七年七月四日皇額アルバート親王が其の父に贈りたる書中の言なり。此言の如く先王崩御の時に於て年少のヅヰクトリヤ女皇は實に沈着自重の言動を以て群臣を驚嘆せしめたりしなり。ウイン女史當時の狀を記すること詳かなり。曰く『カンタビユリーの大僧正博士ハウレト、チャンパーレーン卿及びコニングハム侯の四人は先王の崩御をヅヰクトリヤ公主に報する爲めウインドルの宮殿を去りてケンシングトンの宮殿に急げり。其の出發せしは夜の午前二時にして

ケンシングトンに到達したるは翌朝の五時なり。守門の吏未だ起きず依て門を叩きて待つと多時にして宮殿の門始めて開く。四人門に入り庭前に佇立すると稍々久しくして後宮内の下室に導かれ此處に待つとまた多時にして一人の來り問ふものなし。是に於て復び鈴子を鳴して宮人を招き公主の近侍に見へんことを求む。曰く、國家の大事を奏せんと欲するを以て近侍に由て其の意を公主に通じ幸に拜謁を得んと。宮人旨を領して去り久しうして來らず、四人又鈴子を鳴して狀を問ふ。然る後近侍出て、告げて曰く、公主睡り闌はにして之を起すを憚ると。四人乃ち均しく、爾ふて曰く、臣等國家の大事を以て晨を冒して來る陛下善く睡ると雖も之を起さざるを得ずと。是に於て公主夜服にして出て來り四人を見る。頭髮少しく兩肩に懸り双涙を帯び深く先王の崩御を痛むもの如し。然れども威儀儼然として容姿亂れず。直ちに使を遣はして時の首相メルボルン卿を召し、十一時に至りて樞密會議を開き、大法官先づ恒例の宣誓をなし、然る後女皇は出席の内閣大臣及び樞密顧問員より順次服従の宣誓を受けたり云々。グレヒル氏は彼のハンボルト若くはバルンハゲン、フオン、エンセ等の如く國王の

人物若くは尊王の義を賛稱して之を記述するを好むの人にあらず。然れども尙ほ左の如き言をなして當時の狀を説けり。曰く『ウィリアム四世王は昨朝午前二時過に崩じ年少の女皇は同十一時ケンシングトンの宮殿に樞密會議を召集したり、是朝女皇の言語舉動は滿堂の人をして感嘆措く能はざらしめたり。女皇の年少にして未だ經驗に乏しきと其の深宮に成長して世人に遠さかり何人も女皇の人となり知らざりし事實とは、自ら衆人の好奇心を喚起し、此國家非常の際に於て女皇の如何の言動をなすへきやとの事は群臣の均しく知らんと欲する所なりき。故に召集令を發すると共に樞密院顧問等先を争ふて來集し暫時にしてケンシングトンの宮殿に一大集會を見るに至れり。是に於て先づ第一の事務は即位の禮式を女皇に教ゆるに在り、是れメルボルン卿の豫じめ講究したる所なり……女皇に先づ貴族に一揖したる後玉座に即き敕語を朗讀したり。其の聲明晰にして滿堂に通じ毫も恐慌の色なし。女皇の服裝は甚だ簡略にして喪服なりき。敕語朗讀の後、女皇は蘇格蘭教會保護の誓書に欽署し次に樞密顧問員へ順次各宣誓を行へり。是時二人の皇叔先づ起て女皇の前に拜跪し、玉手に接吻して服

從の宣誓をなせしが女皇は之を見て親族平生の關係と今日政治上の關係と全く反せるを知りて自から安んせざるものゝ如し、眼邊少しく紅色を呈したり。然れども女皇の二叔に對する舉動は甚だ温雅にして均しく之に接吻の禮を行ひ然る後親から起てサセックス公の傍に行きたり、其の玉座を去る最も遠く且つ老衰して玉座に近づく能はざるを以てなり。此時女皇は代る々々其の前に進みて宣誓を行ひ玉手に接吻すもの甚だ多きを見て稍々驚けるもの如くなりき。然れども女皇は何人に向ても一言を發せず、又其の人の位階黨派の差によりて待遇を異にすることなく、皆一樣の容色を以て之に接したり。余はメルボルン卿及び内閣大臣及びウエリントン公等の女皇に近づける時特に注意して女皇の舉動を見たり。而して女皇は始終一樣の威儀態度を以つて全躰の式を終へたり。但だ時にメルボルン卿を顧みて助言を求めたるのみ。これとても極めて稀れなりき云々。

サー、ロバート、ピール氏は此時の狀に就きクレピル氏に語て曰く『余は女皇の風姿舉動を見て實に驚嘆したり。余は女皇の其の位置を自覺して沈毅自重なるを見

て實に一驚を喫したり』と。ウエリントン公も亦其の粗朴なる語調を以て人に語て曰く『若し女皇にして余の女なりとせば余は當時我女の一層善良の動作ありしを望まず』と。クレビル氏ハ『又曰く此日正午十二時に於て女皇は樞密會議を開きたりしが女皇は恰も從來斯かる政務の外何事をもなさざりしかの如く容易に其の會議を統督したり。此時ランスダウン卿及び余の同僚は會議の議案に關して頗る混雜を生じたりしが女皇は之を見て知らざるもの如くなりき。女皇の當時いまだ年少にして身材伸びず容色の美また人に勝る所ありしにあらざると雖も其の風姿舉動の實に優美温雅にして近く之に接したるものは皆其の徳風に感動し、余の如きも遂に免かるゝ能はざりき。約言すれば女皇の舉動は善良の感情及び意識より自然に出てたるものゝ如く、將來更に重大の國事に於て吾人は女皇の判断と識見とに充分の依頼をなすを得べしと今より確信するは稍々粗忽なるを免れざるべきも、女皇の此時の動作及び其の人心に與へたる感動は女皇のため甚だ有益なりしは明かなり云々』。

らさりしを以て女皇の舉動如何を知らんと欲するの好奇心は特に深かりき。斯くの如く皆に一般世人が知らざりしのみならず王室と最も親密の關係ある政治家及び宮人と雖も女皇の平常に就ては全く無智なりき。クレビル氏の言は其の實見せしものゝ外は一概に信ぜべからざると雖も今姑く其の言に依れば女皇は其の母の注意によりて是まで全く深宮に秘置せられたるものなり。氏の言に曰く『ソットリヤ公主は我寢室の外に一夜だも眠りたるとなくレーゼン男爵夫人の外何人とも同居せしことなければ、公主の知人と雖もケンシントン宮殿の宮女と雖も、將た又公主の保傅たるノーサンペランド公爵夫人と雖も、公主の如何なる人にして又如何なる人となるべきやを毫も知ること能はざりき云々』。

抑もソットリヤ女皇前の二王の朝廷に於ては、ケント公爵夫人をして其の女を深宮に秘置せしむるの事情甚だ多かりしなり。ジョージ二世は譬へば學問材能なきチャールズ二世の如く、ウィリヤム四世の普魯西のウィリヤム、フレデリック王の天材なきものゝ如きなり。二王の宮廷に於ける平生の風儀は今日下等の飲食店に於ても殆ど見難き卑陋猥褻の點ありき。故に當時の朝廷の風俗を記した

る書冊を讀む者は何人と雖も、ケント公爵夫人が此朝廷の交際に其の女を秘置して出さざりしを見て、其の用意の慎重なりしを感謝すべきなり。

是時女皇の公文に名を署する單にヅヰクトリヤといへり。是れ衆人の意表に出てたるものにして、女皇は必ずアレキサンドリナ、ヅヰクトリヤと署名すべしとは衆人の豫想せし所なりき。クレピル氏一千八百十九年十二月二十四日の日記に記して曰く『始めケント公爵は露西亞皇帝に對する好意のためにアレキサンドリナの名を其の女に與へたるものにして、女皇は始めヨルヲアナと稱すべかりしが、公爵はアレキサンドリナの名を固持して動かさざりしより、遂にアレキザンドリナ、ヅヰクトリヤと稱するに至れり云々』と。左れば女皇が一旦登極するに及んで單にヅヰクトリヤと稱せしは洵に賢智の舉と謂ふべきなり。何となれば斯くする時は御名の上に外國との自然の關係を存することなく、將來我國の歴史に於て純潔の面目を保つを得たればなり。

新君即位の儀式及び其の始めて貴族院の玉座に臨御して親から國會の延會を命じたる例式等に關しては之を詳記するの要なく、又其の翌年即ち一千八百三十八

年六月二十八日に執行したる盛大なる即位祭の如きも之を叙説するを須めず。然れども即位祭に佛國のソールト將軍の參列したる事に就ては一言を費すの價値なしとせず。ダルマシヤ公ソールト將軍は半島の役に於てムール及ウエリントン公の勁敵にして、ルイツインに於てオールバード軍隊の司令長官たり。彼のウチイタリロリの大戦に於ては實に奈破翁麾下の勇將たり。ヅヰクトリヤ女皇の即位祭に於て將軍は佛國政府及び人民を代表して特命全權公使となり、英國に派遣せられたり。此日將軍は倫敦に於て全都の市民より最も熱心に歓迎せられ、將軍の馬車の通過する所、將軍の白髪の頭首の現はるゝ所に於て、無數の市民は四方より群集して將軍を歓迎したり。常日の盛式を目撃したる人の言に曰く『當時兩足の踵まで金剛石を以て輝きたる埃太利公使エスターハゼイ親王と雖も、群衆の注目を惹くことソールト將軍の如くなる能はざりき』と。此比較は今日より之を観れば一笑にだも値せざるものゝ如しと雖も、當時の事情を考ふる時は頗ぶる趣味あるものなり。當時に於てエスターハゼイ親王といへば即ち直ちに金剛石を暗示したるものにして、親王の金剛石は實に當時の輕文學の中に輝けるもの

と謂ふを得べし。メリト、ワルトレー、モンテীগ女史嘗て華麗のものを形容して之が比較をセツト氏の金剛石に取りたることあり。エスターハセイ親王の金剛石は本朝の初期に於ける文學者に取りて亦た同一の形容詞とされるものなり。されば倫敦の一大祭典に於て、ソールト將軍の白髭がエスターハセイ親王の金剛石よりも一層人目を惹けりと謂ふは必ずしも將軍の面目にあらずと謂ふを得ざるべし。將軍も當時實に英人の歡待を深く感喜したるものゝ如く、數年の後ち佛國々會に於て、議員がキソ一氏の佛英同盟策を攻撃するものありしに當り、將軍は最も熱心に佛英同盟を賛成してキソ一氏を助けたり。當時將軍の國會に於て演説したる言に曰く「余は我國家の獨立を捍衛するため最後まで發砲して英人と決戦せり。既にして余は倫敦に行けり。而して倫敦に於て余は如何に歡待せられしやは佛國人民の普ねく知れる所ならずや。英人は皆なソールト萬歳と稱して余を迎へたり。余は戰場に於ける英人を知れり。再び余は平和に於けるの英人をも知得したり。余は熱心なる佛英同盟論者なることを再言す云々」と。蓋し實際の歴史は必ずしも内閣大臣及び外交家の外交政略に依りてのみ成立するもの

にあらず。故に女皇の即位祝祭に於て倫敦市民がソールト將軍を歡迎したる一事は、素と内閣の外交政略には相關する所なしと雖も、其の英佛二國民の感情を調和し、ウチーターールの怨毒を滅殺するに於て甚た効力ありしは斷して疑ふべからざるなり。

女皇の位に即くや數日を経てモンテフィオル氏倫敦のシエリフに選舉せられたり。猶太人にして此の官に就けるものは實に氏を以て嚆矢となす。既にして女皇の倫敦市に行幸せらるゝや士爵を授けたり。在昔王室の金を猶太人に借りし時代一たび去りてより爾後猶太人にして王室の榮典に與りしもの氏を以て始となす。此二事の如きは朝廷の爵秩及び制度の上に於ける古今變化の中に在て特に注意すべき所にして、信教の自由平等主義の擴張は我女皇の御宇の一特色なりと雖も、君主及び倫敦市民が前後に猶太人を禮遇して此主義實行の端緒を開きたるは洵に聖代の吉兆と謂ふべきなり。

ケンシントン宮殿に於て女皇に奉呈したる服従の宣誓書に首署したるものはカンバートランド公エルネストなり。カンバートランド公は當時生存せる女皇の

叔母中最も年長の人なり。

此事實と共に一事の記すべきものあり、他なし。此時を以て我王室と一外國との聯結の破れたること、是れなり。此聯結や久しく我國の利益と他國の利益とを連結したるものにて、國民の常に不快に思ふ所たり。英國史を按ずれば、何れの時代を問はず、我王室と他國の王位とを連結したる一事の如く、國民の不快を買ひしものなきを知るべし。即ちかゝる事態に就ては、國民自然に嫉疾の念を起すを免かれざりしなり。是れ蓋し止むを得ざるの人情といふべし。英國の君主たるものは英國の君主にして可なり、何ぞ他國の君主を兼ねるの要あらんや。ヅ井クトリヤ女皇の即位は實に種々の吉兆のこれに伴ふありしものとす。而して此吉兆の一は、二は女皇の婦人たるの故に本づくものなり。蓋し國民は一般に以爲らく婦人にして一旦王位に登るときは、幾分か我朝廷の空氣を清潔ならしむるを得んと。ハノーバルと我國との關係は單に君主一身上に本づくものにして、即ち英國の君主は又ハノーバルの君主たるべしと云ふにあり。而してハノーバルの王位繼承法は男子にあらざれば王位に登るべからざるを規定す。故にウイリヤム四世王

の崩するやハノーバルの王位は其の弟カンペーランド公エルネストに歸せり。是れ實に英國人民の最も喜びし所なり。英國とハノーバルとの間に於ける關係は、我國民の常に不快とせし所なるは既に前述せるが如し。且つ又カンペーランド公を失ふは當時我國民の決して悲む所にあらず。ジョージ三世の子は概ね皆な人望を有せず、就中カンペーランド公は最も不人望の人たり。一千八百三十五年ウイリヤム四世の發見して之を天下に暴露したるオレンツの隱謀、即ちヅ井クトリヤ公主の權利を奪ひカンペーランド公を王位に登らしめんとしたる隱謀に於て公は必ずしも間接に受動的の關係を有したるのみにあらず、は往々人の信ずる所なり。此隱謀は其の主動者自から稱して、カンペーランド公を立てずんばウエルリントン公自から英王とならんことを恐れたるに依ると云ふ。是れ實に浮淺笑ふに堪えたるの口實と云ふべきのみ。抑もカンペーランド公のひと爲りや、傲慢粗暴にして時としては殘忍に近き舉動あり。其の平生の操行殆んど今人の夢想だもする能はざる所にして、彼の羅馬帝タイベリヤスの時代もしくはヒートル大帝の朝廷に適當したる舉動あり。且つ世人の風評往々にして公の

欠點を過大に云ひ做したれば世人公の名を以て最も隠險邪惡の符徴となしたるもの少なからず。加之往々罪惡の符徴となしたるものもありき。蓋し公に關する世評の一部は世人一般に公の性質を嫌惡して其の勢力の上らんことを恐れたるに基するものもあらん。然れども公の平生傲慢粗暴放恣にして喧嘩を好むの人なりしは斷じて疑ふべからず。斯かる性質の人物は小説中に之を書くときは愚直にして直言忌まざるの人となるを常とす。然れどもカンパーランド公は斯くの如き人にあらずして隠險詐謀の人たり。公の人と争ふや實に放言して放まらず、又人と談話するや實に蘊蓋なく露骨を極めたり。公を以てもし直言忌まざると云は、即ち斯くの如きのみ。ウエリントン公は平生公の惡む所なり、曾てグレンビル氏に語て曰く「余嘗てジョージ四世王に問ふにカンパーランド公の甚だ不人望なる理由を以てせり、王答へて曰く、是れ他なし、渠は人の父母夫婦朋友もしくは情人情夫の間に立てば必ず離間を試みざることなければなり」と。公のハノーバル王位に登るや先づ第一に其の憲法を廢止したり。此憲法はハノーバル王國の國民全眸の同意制定したる所にしてウイリヤム四世王の裁可を経たるものなり。

此時新王即ちカンパーランド公は英國の貴族に書を送りて曰く「此國に於ては急進主義實に當時の政綱たり、故に下級官吏と雖も皆な多少此の主義に染まざるものなし。然れども余は今此民主主義の羽翼を絶てり」と。公は實に強硬の政略を以て其の政治を始めたり。即ちゴッチンゲン大學の有名なる教授七名をば其の憲法廢止に反對するの抗議書に署名したるの故を以て免職したり。此七名の中には當時歴史及び文學の教授たる有名なるゲルヒナス氏あり、東洋學者にして又神學者たるエツルド氏あり、ゴヤコツフグリュム氏あり、政治學の教授たるフレデリックダールマン氏あり。ゲルヒナス、グリュム及びダールマンの三氏は單に其の職を免ぜられたるのみならず實際放逐の身となれるものなり。三氏の國境を出るや無數の學生はこれを送りて國境に至り以て惜別の意を表せり。當時諸氏が新王の專恣の改革に反對せる行爲は敢る其の本職を忘れて政治に關係したるの嫌なく、又國家の治安を妨害するの文書を發行したるの嫌もなかりしかば、特に世人の義としてこれを稱賛する所たりしなり。是時に當りゴッチンゲン大學は其の國の國會に代議士を出したり。而して七名の教授が署名したる抗議書は單

に此大學選出の議員に宛てたるものにして、且つ其の云ふ所は憲法中止の故を以て新選舉に關係するを欲せずといふに過ぎず。即ち教授の行爲毫も罪となるべきものなきは明かなりと云ふべし。此事件よりしてハノーベルは爲めに一大粉亂を起し遂に兵力を以てこれを鎮壓するの必要を生ずるに至れり。是時に當り英國人は皆な以爲らくカンペーランド公にして一度は本國を去らば我國とハノーベルとの關係は之を絶つことを得べしと。而して其の他の點に於て我國に利益あると否とは其の間はざる所たり。然るに此分離は如何に我國を利せしかは後日に至りて甚だ明かなるに至れり。夫れ英國君主の召せる王冠にして一千八百六十六年の普埃戦争のために動搖せられたりとせば如何、是れ疑ひもなく非常の失躰なりと云はざるを得ず。又我國の天子にして他國の王位を有するに方り、他の無關係の戦争のために暴力を以てこれを奪はれたりとせば、我國家の面目は非常に汚辱せられたりと云はざるべからず。又我英國人にして單に其の王室の私有物のために其の國の利益若しくは名譽と全く無關係の戦争に加はるとせば、實に無稽の甚だしきものと云ふべし。ヅキトリア女皇の即位を去

ると既に久しく政治上及社會上の變化既に甚だしければ、今日より即位當時の國民動搖の狀を想像するは頗る困難なり。然れども其の上下洵々として國內大に激動したるは甚だ明にして、當時卓識有力の政治家或は文章を以て或は口舌を以て保守黨のカンペーランド公の爲めに革命を起すべきを説く者あり。或はアン女皇の崩せし時の如き危険の將さに來らんとするを説く者あり。又一方に於てはヅキトリア女皇は其の大臣の補導により再び舊教主義を實行して國家は無政府の狀態に陥いらんとを國民に訴ふる者あり。タイムズ新聞の如きは論じて曰く『年少の女皇が今日其の一身及國民を委托したる現内閣の下に在りては、我教會及國家に對するアイルランド舊教徒の反亂の成效に關する豫望は即ち野心家の空中樓閣と云ふべし云々』と。タイムズは又女皇の舊教徒となり舊教徒と結婚するは換言すればコーベル家の遺囑を踐むは實に英國の王威を失墜するに外ならずとのとを大聲疾呼するの必要を感じたり。又一方に於て急進黨の新聞特にアイルランドの諸新聞は舊教徒が女皇を廢し若くは女皇を殺してカンペーランド公を立てんとするの隠謀を其の紙上に明言して憚からず。有名なるオーコ

ンチル氏の如き又公開演説に於て公言して曰く「若し必要の場合に於ては女皇の生命名譽を捍衛するために五十萬のアイランド勇士を募るを得べし」と。又ヘンリーグラタシ氏はダブリンの或集會に於て公言して曰く「若し女皇陛下にして一度保守黨の手に落ちるとあらんか余は陛下の生命のためには一橙子だも堵せざるべし」と。更に氏は其の修辭的文句を進めて曰く「若し保守黨の末輩にして一二陛下の周圍に近つき夜間其の玉膳の料理に與かるとあらば女皇は其の夜を以て永眠の人とならんことを恐る」と。今日よりこれを見れば是等の言は殆んど眞面目に之れを口にする能はざる程荒誕無稽に聞ゆと雖も他の反對黨の口調に至りても亦實にこれに譲る所なかりしなり。即ちカンタヒユリ選出の保守黨議員アラットシヨイ氏は或公開の席に述べて曰く「自由黨内閣の根據は實にアイランド舊教徒及び暴徒の團躰にして舊教徒僧徒の庶民院に選出したる者なり是等の人々は頑迷固陋の蠻族を代表する者にして其の文明の度や實に新スイーランドの土人に優る所なく而して最も英倫を疾惡するの心を有するものなり。然るに斯くの如き人に新教國英倫女皇の擁護を托するは抑も何等の大怪事ぞや嗚呼

我女皇は實に朋黨の女皇なり大法官其の人の如く一黨人たるを免かれず」と。又ランカウシヤイヤに於て保守黨の晚餐會あるに方りて一辯士は是れと同意の説をなし女皇及び其の大臣を論難したり。之れがため時の陸軍都督は此會に列席せる士官に書を送りて大に之を叱責したり。即ち士官が斯くの如き宴會に列席して斯くの如き放言激語を聞きながら尙ほ其の席に留まれるを怒れるなり。「勿論以上の如き放言暴論は當時國民一般の思想を代表したるものと信ずることを得ず。慎重の政治家着實の人民は皆な年少の女皇が羅馬の舊教徒となるべきを恐るゝことなく又其の内閣が一國を擧げて羅馬の欲に供することなきを信せしや明かなり。又英國の王位を不入望のカンペーランド公に捧げんとする保守黨の隱謀あるべしとは思はざりしなり。余輩が斯くの如き空論僻見を擧げたるは唯だ當時の人心の狀躰を一層明かならしめ以て斯くの如き論說の行はれたる時代に於て政治社會の狀態は果して如何なりしやを更に明瞭ならしめんがためのみ。即ち余輩は女皇陛下の即位したる當時國歩の如何に困難にして人心の如何に動搖したりしかを讀者に知らしめんがため又當時の我英國の狀態及び我國

民の政治的智識の幼稚なりし状況を讀者に知らしめんがためのみ。蓋し當時國民一般に政治上に於て無知にして徒らに情熱に驅られ、爲めに立憲政治の運用を困難ならしめたるは得て疑ふべからず。地方の保守黨は概ね皆な自由黨が國王に迫りて君主政治の衰頹を表すべき政略を行はしめんとするの決心を有することを信ぜり。故に虚心平氣の有識者ありて此點に關して彼等に説き自由黨の政治家は決して斯くの如き決心を有するものにあらず、其の名譽利益及位置は全く英國の光譽福利と相關聯して離れざるものなれば、君主政體を荒廢せしむるの政略を運行するの恐れ決してあるべからずと論ずるも、激昂せる保守黨は敢て之に服せず。サフ、ロバート、ピール氏の如き着實なる政治家の言を引用して之に反對を試むるや必せり。ピール氏の如き人と雖も尙ほ其のラムウナルスの選舉人に向て演説をなすに當り左の如き言をなしたり。曰く「余は我國の憲法が其の僞友の犠牲となり我英國が亂暴なる民主政體の下に蹂躪せらるゝを坐視する能はず、余は必ず我國家を斯る厄變の内より救ふべし」と。又一方に於て達識の士ありて保守黨に反對する人々が大に保守黨を畏惡し保守黨を以て國民の自由國家の平

安及び王位の鞏固を害するものとなすの不可を説くも、是等の人々は直ちにダルハム卿の宣言書を読みて之に反對を試むべし。ダルハム卿は嘗てサンダーランの選舉人に向て宣言書を發するに方りて左の如き言をなせり。曰く「如何なる事情ありとも如何なる危險に逢ふとも、余は我國の憲法の基礎とする所の大原則を防禦するに躊躇せず云々」と。余輩今日より之れを觀ればロバート、ピール氏及びダルハム卿は當時實に激烈を以て選舉人を悦ばせたるに過ぎず。ピール氏と雖も敢て亂暴なる民主政體の我國家を蹂躪するを恐れたるにあらず。ダルハム卿も亦我英國に於て自由のために戦ふの危變を知らんことを實際豫期したるにあらず。然りと雖も人心の非常に激昂したる當時に於て、ピール氏及びダルハム卿の如き責任ある政治家の斯くの如く言動をなすを見て、世人の益々其の疑懼を大にし其無根の議論を主張するに至るは自然の勢といふべし。

要するに當時我國民は甚だ激昂の狀にありしものなれば、其の我國家と社會とを非常に動搖するの出來事連りに簇生したりしは之を想像するに難からず。蓋し前二王の朝に於て國民の王室に對する服従心は頗ぶる緩弛し、且つ君主政治の効

用に於ける一般の信用も亦大に薄らぎたり。而して君主親政の古來の制度も甚だ不規則となり、一方に於ては今日吾人が知るが如き純粹の立憲制度は未だ實驗さるゝに至らず、彼の議院改革案を通過せしめたる政略及び方法の如き、即ち議院の改革を將來に拒むの甚だ危険なるを知りて施したる政略の如きは、當時の人民よりこれを觀るも其の所謂立憲政治と稱するものゝ價值を高むるに足らず。是れより少しく前に當りて國民は舊教徒解禁のことは内閣に於て公義の觀念に本づきて之れをなしたる者にあらず、唯だ此の後に之れを峻拒するの遂に内亂を生ずべきを恐れて之れを實行したるものなるを知れり。而して有識にして獨立の志を有せる人民は之れを見て内閣大臣の深謀遠慮もしくは其の制度の必要の利益に本づきて之れをなしたるものとは見做さず。此時に當りて社會人民の不平は至る所に充満して、經濟上の原則の如きは國民一般殆んど皆な之れを了解する能はず、各階級の利害は互に衝突して人々皆な其の利益の競争の爲に殆んど狂亂に陥あらんとせしなり。蓋し當時各階級の人民は必ずしも私利私欲の念に驅られたるにはあらず。衷心眞に各階級の利害は必ず相衝突すべきものなるを

信じて他の階級の人はい階級に對して戰を挑むより自家の防衛の必要上他を排して自から其の利益を保護するに至りしもの以外ならず。

第二章 政治家及政黨

ゾットリヤ女皇の位に即くヤメルボルン卿其の首相たり、卿は當時及其の後も常に女皇のために親愛せられたる所にして且つ女皇は深く卿を尊敬したり。メルボルン卿は其の性質温良にして人に對するや甚だ丁寧なりき。されば其の政敵と對しても寛厚にして政友に至りては實に親切を極めたり。卿は所謂強き人にあらず。或文學者の言を借りて之を云へば卿は善事の未だ起りつゝあらざる所には自から奮て之れを起さしむるの人にあらず。其の夫人カロライン、ラムは嘗て我夫は人の道徳を注視監督するの人にあらずと稱して、自己の非行を辯護したることありき。然れどもメルボルン卿は年少なる女皇の忠實なる輔導者なり。女皇又幸にして自己の意見を捨て、全く他人の助言に依頼するが如きことなく、自から明確なる意思を有するの君主なり。之を要するにメルボルン卿は蓋し一個の政治家といふを得ず、其の親切なる性質を除く時は卿の最も稱すべき性

質は皆な消極的なり。

不幸にして卿は其の善真なる天性を以て稱せらるゝを好まず、却て磊落放恣の人と稱せられことを務めたり。故に事實事務に熱心なりし時も勉めて怠惰放恣の風を装ひ傍人より之れを一見すれば人生の事務は以て毫も卿の心を惹くに足らざるが如くならんことを欲せり。即ち卿は其の天性に有せざる放恣輕佻の假裝者となれり。卿の嘗て商業社會の代表委員に面接するや羽毛を弄し、ハーフアクシオンを弄しつゝありしが此事に就て奇説あり。卿を知る人は曰く、此時卿は全力を盡して委員の云ふ所を聽きつゝありしなり、卿は前夜を徹して其の問題を研究したるものにして其の毫も之れに注意せざるが如きは其の本心にあらざ、其の羽毛を弄するが如きは全く矯飾にして其の本色を現はさざらんとして實際非常の苦勞を覺えつゝありしなり云々」と。シドニー・スミス氏亦此ことに就きて妄評をなしたることあり曰く「眞實のことを言へば子爵は夫れ詐欺人と云ふべきか。子爵の身邊のことは皆な其の磊落放恣また如何ともすべからざるの人たるを思はしむ(中略)。余は子爵が平生斯くの如く養成したる放恣輕佻の假面を揚擧して

人の感情を損ふを悲しむ。然れども個の子爵大臣は實際正直にして勉強の人なり。余は子爵を以て放恣若くは粗暴の人となす能はず。蓋し子爵は善良の知識公正の主義を有するの人に外ならず、唯だ之れを矯飾して政治的輕佻者の風を装へるのみ云々と。

斯くの如く假面を被るのことは眞に大才雄略ある人なるときは幾分か恕すべく否な寧ろ人心を收攬するの効あるものなり。若し夫れ眞に英雄豪傑の人にして時に見識に類するの舉動をなす時は之を見るもの爲めに全く其の心を奪はるゝことあり。即ちペイロンの詩中にあるハル親王の如き若しくはサアダナパラスの如き人物は之れがため益々人心を收攬することあるべし。彼のバルマーストーン卿の人望を得たる所以は亦大に此理に本つく所なきにあらず。即ち其の眞の才能智識と其の磊落放恣なると互に相映して一個喜ぶべきの偉人を見るを得たり。然れどもメルボルン卿に至りては其の矯飾や毫も斯くの如き結果を奏する能はず。卿は決してバルマーストーンの如くなる能はず。卿は唯だ天下最も太平の時に於て宰相たるに適するのみ。卿は辯論に長ぜず、故にリンドハルスト

氏の痛切なる論難若しくはプローム卿の残忍猛烈なる攻撃に對しては全く之を防ぐ能はず。當時國會に於ける論戦は實に人身攻撃の甚しきを極めたるものにして余輩今日に於て到底之れを見る能はざるなり。貴族院に於ても尙ほ激烈なる論戦を爲しプローム卿の残忍激烈なる論鋒は毎ねに冷靜なる貴族院の空気を熱騰せしむるに充分なりしものとす。

メルボルン卿が當時年少皇女の殊寵を得たりといふのことは大に内閣攻撃の熱度を高めし原因たるや蓋し疑ふべからず。始め女皇の位に即くやウエリントン公は自黨の將來に關し嘆息の語をなせり。蓋し公は年少の婦人王位に登るときは保守黨は將來決して政權を握るの期なしと信じたるなり。公曰く『余は細語密話に長ぜずヒル氏亦優美の態度をなす能はず』と。ウエリントン公の心を以て之れを見れば婦人は以て強硬なる立憲政治をなすの能力を有せず又男子の如く國家の政治のために一身の愛憎を捨つる能はずと信ぜしものゝ如し。是れ等の感情は皆な進歩黨内閣に對する反對の念を強くするに足れり。メルボルン卿の常に宮廷に出入し屢々年少女皇に拜謁することは大に他の媚嫉を招き不平を來

せしは勿論なり。或は曰く『メルボルン卿の屢々宮廷に出入するは他意あるにあらず、唯だ其の輕快の性質を以て女皇に吹き込まんと欲するに過ぎ』と。或は曰く『メルボルン卿の目的は女皇の寵遇を得て己を以て一日もなかるべからざるものと信ぜしめ、且つ其の親戚朋友及び門下の士を以て女皇を圍み以て英國の政權を掌握し黨派の消長世界の變動は一切之れを顧みずして終身其の國家の權柄を握らんとするにあり』と。吾人今日より此等の論評を考察するときは頗る趣味あるを覺ゆ。若しメルボルン卿をして佛國の古の宮内總裁の如く其の眞目的は自ら國家の主宰となり君主を其の掌上の塑像の如くならしむるにありとせば、卿の宮廷に出入するは實に危険のことなりと云ふべく、從て之れを嫉妬畏惡するは其理なきにあらず。然れどもメルボルン卿は決して斯くの如き人にあらず。否な卿は却て保守黨の信任すべきことを女皇に忠告するの人にして即ち卿の自から云ふごとく保守黨にも少しく分け前を與へよとの助言を女皇に呈するの人なり。是れ余輩の私言にあらずして歴史家の言明したる所なり。されば卿は決して權勢を貪るの人にあらず、又決して權勢を得若しくは保つために不正の手段を

用ゆべき人にあらず。而して一方に於ては年少女皇の人物性質は深く卿を感化したるものとよし。是に於てか卿の眞個の放恣輕佻の風も一變じて女皇の一世を最も幸福ならしめ其の治世を最も太平の代たらしめんことを眞面目に希望するの人となれり。女皇も亦常に卿を親信敬愛するの念を懐けり。此事は女皇の大臣掌中の木像たるを恐るゝの念世人の胸中を去りし後一般に明かなるに至れり。

然りと雖も女皇即位の時に當り首相メルボルン卿は決して人望あるの大臣にあらず。當時内閣の事情に關しては政治上若しくは一身上何等の利害の關係をも有せざる傍觀者と雖もメルボルン卿の如き人物の指導を以て新朝の幕を開くを快しとせず。メルボルン卿が代議士の前に於て羽毛若しくはハークションを弄するを見て不快の念を起し怒りて辭し去りたるものあり。プローハム卿の如き人の非常なる氣力及勉強はメルボルン卿の輕佻浮薄なる風と全く正反對をなすものにして、二者各々假面を被むる所ありしは勿論なるへけれども、彼れと是れとを比較するときには國家の事務に非常の熱心を矯飾するは政論沸騰の時

に於て特に成功すべきは明かなり。新朝の始まるに方りて内閣は實に貴族院に於て二大強敵を有せしなり。此二者實に恐るべきの人物にして、其の一人來るもメルボルン卿より遙か強き大臣も尙ほ之と戦ふに困難ならざるを得ず。然るに種々の事情のため此二大強敵は一致してメルボルン卿に反對するに至りしなり。二大強敵とは誰ぞや、其の一人はプローハム卿是なり。英國今代史に於て卿の如き強くして又奇しき人物は余輩これを見ること能はず。卿は多才多能加ふるに殆んど鬼神の如き勉強力を有せり。單に勉強力を有するに止まらず、業務に關して一個の積極的情欲を有したりしものとよし。其の不撓不屈の氣力は恰かも天下の萬事に當りて其の活動の地を求めされば已む能はざるものゝ如きなり。常人の終生の時間及び氣力を盡して尙ほ足らざるの勉強も卿に取りては唯だに一つの慰安に過ぎざりしが如し。假りに之れを譬ふれば卿は業務の惡魔に魅入られたるものと云ふべきか。卿の精神體力は決して消耗せざるなり。卿の元氣は嘗て其の身を離るゝことなきなり。而して其の自信の念は無限なり。卿は自から信じて以爲らく、余は他人よりも善く天下の万物を知り他人よりも善く天下

の万事を爲すを得るの人なりと。卿は専門家其の人よりも其の専門の事を熟知す。そのことを人に示すを以て自から快しとなせり。又卿の浮誇の心は廣大無限にして爲めに其の天才の人を感嘆せしめたるが如く其の浮誇心は殆んど人を絶倒せしめたる者あり。さればフローハム卿の浮誇及不撓の精神は永く滑稽文學の大材料なり。然り而して卿は疑ひもなく國會の大辯論家なり。卿の辯論の風は放胆粗笨に過ぎ今日の如く修辭を勉めて情熱は之れを避け又誘大を避けんとするの時に於ては實に不適當の辦法と云はざるべからず。又其の舉動は粗暴にして往々亂暴に近きことあり。其の態度も亦不恰好にして奇怪なりき。然れども聽衆の上に於ける其の雄辯の勢力は又た疑ふべからず。而して此辯論の勢力は老後に至りて尙ほ衰えず。通常の人なりせば政論に加はる能はざるの時に至りてもフローハム卿はなほ能く情思富麗の大辯舌を爲すことを得たり。卿は第一流の辯論家と云ふを得ず、其の演説は百世不朽なりと云ふを得ず。其の人物の勢力と其の當時の事情とを別にして之れを見るときは卿の演説は以て大に人を悦ばしむるに足るものにあらず、又趣味あるものにもあらず。蓋し卿の辯論は

英國風の辯論にあらず。而して其の演説は深遠なる哲理的趣味なし其思想淺薄なり。又バルサ氏の演舌を千古不朽らしむる所以の雄辯の資料なきなり。然れどもフローハム卿が當時に成功したる如き事物を他人の全じく永久の成功を以て之れを爲さんこと到底望むべきにあらず。凡そ政治法律といひ文學美術といひ科學及び辯論といひ將た又商工上の事務といひ卿は一として之れに通じざるなく自から稱して此等の事皆な教師の力を以て之れを人に教ゆることを得べしといへり。卿の大法官となる、オーコンネル氏これを評して曰く『若しフローハムにして法律の少しを知るものならば氏は万事の少しを知るものたるべし』と。或人又更に刻切の辭を下して曰く『新大法官は世界萬物の僅かを知り法律と雖ども其の僅かを知るものなり』と。

フローハム卿は多年の間國民の一大勢力となり、社會と政治上の大改革を成就するに於て實に生きたる一大勢力なり。卿の才能を以て絶大となし其の浮誇心を以て無限なりと云はれ、又一方に於て其の人生の自由及教育に盡したる功績は廣大無量と云ふべきなり。植民地に於ける奴隸賣買の反對者として内地に於ける

政治改革の主張者として又法律の改正國民の教育信教の自由平等の主張者として卿は不屈の精神と不撓の熱情とを以て之に従事し絶大の成功を得たる人なり。今其の政治的生活を分つときは先づ二段となすことを得べし。第一は國民の擁護者及び改革者より一千八百三十年一躍して大法官となりしまでの年限是れなり。第二は一千八百三十五年四月進歩黨内閣再造の時掛冠して獨立不羈の政治的批評家となりし時期是れなり。進歩黨が突然ブローハム卿を内閣より退けたる所以は今日に至るまで未だ明瞭ならず。世人の通評によれば卿の豪宕不羈にして残忍に近き性質は到底卿を内閣に置く能はざりしによると云ふ。或は又彼のチャタマ卿が嘗て國家重大の事件ありし時世評を受けし如く卿は一時其の精神に異状を生じたるによると云ふものあり。

ブローハム卿の人と爲りは其の進歩黨のために受けたりと信ずる害惡を忘れ若しくは恕するの人にあらざるは勿論なり。故に一度野に下るや乃ちメルボルン卿の最も激烈なる反對者となるに至りしなり。

メルボルン内閣の第二の強敵をリンドハルスト卿となす。リンドハルスト卿は

其の政治的生涯の永きと及事務に堪能なるの點に於てはブローハム卿に相似たり。卿は亞米利加のボストンに生る。卿の貴族院に於てなせる演説は今日未だ中年に達せざりし人これを聽けるものありと云ふ。卿はヒール及バルマリスト、クワッドストーン及ヂスレリー、ブライト及ゴブデンの諸政治家が各々其の大手腕を比べたる時に於て實に其の伴侶に入り國會の大討論家の一人たり。卿の辯論の風は甚だ明直潔白にして其の舉動態度は頗る優美なり。而して其の音聲亦清明にして且強大なりき。卿の明直潔白の議論とブローハム卿の激烈豪壯の辯論とは全く正反對をなせり。卿は凡そ事に當るの必要を見る時は實に非常の氣力を現はすと雖も天性は蓋し放逸の人にしてブローハム卿の天性精勤なると亦正反對をなせり。リンドハルスト卿の政治上の主義は亦明瞭を欠くものあり。常に保守黨と交はり保守黨内閣より官職を受け、保守黨のため演説をなし、保守黨の政敵を非難攻撃して、卿は遂に全く保守主義の人となりしと雖も、其の一生の歴史を通觀すれば卿は必ずしも保守主義を固守せるの人にあらず。即ち時勢の變化に従れ其の政治的方針を變せんとしたるの跡歴々見るべきものあり。卿

は明快なる討論家として實に國會に於て其の右に出るものあらざりき。然れども卿は大辯論家の熱情若しくは天才を有するものにあらず。ブローラム卿の多才多能にして其の情思の富贍なるに比するときは卿の材能や實に偏狭なりと云はざるを得ず。卿は辯論家として常に千遍一律なり。其の演舌するや常に同様の程度に達し其の上に出でず。又其の下に下らず。此事實は正に以て卿の大辯論家にあらずるの確證となすに足れり。蓋し大辯論家なる天質は詩人の天質と均しく人間の自由意思を以てこれを取捨する能はざるものなり。

右二人は實に當時貴族院に於ける二大討論家なり。此時に於てメルボルン卿は上院に於て内閣員の椅子に居るべき第一流もしくは第二流の討論家は一人もこれを有せず。左れば某記者が評せる如く貴族院に於ける内閣の位置は恰かも坐礁したる船中の人が四面より敵の襲來を受けて進退これ谷まれるものに似たりしなり。

ウ・タ・ト・ヤ・女皇の新に位に即くや國會の改選を行ふの必要を生ぜり選挙競争は頗る活潑に行はれたり。諸黨各々種々の術策を用ゐて勝敗を争ひ今日に於て

は殆んど見るべからざる奇謀妙策も頗ぶる行はれたり。然れども其の結果は各黨從來の状態を著しく變動するに及ばざりき。但し全軀に於ては保守黨の利益に歸したり。保守黨即ちトリーリイを呼ぶコンサーヴァチヴ(Conservative)なる語を以てするは此時に始まれり。コンサーヴァチヴといふ語を保守黨の意義に用ゐたるはウイムソン、クロイカー(Croker)氏なるもの實に其唱首たり。是れより前き數年前クロイカー氏クヲイターリ雑誌に一論文を掲げ所謂保守黨即ちトリーリイ黨は其の最も賛成する政黨なれども之を呼ぶにコンサーヴァチヴなる語を以てせば更に妙なるべしとのとを説けり。これコンサーヴァチヴなる名稱の始めて起る所なり。新選挙の時に於てジョン・ラッセル卿ストラウダの懇親會に於て演説するに方り此新名稱に就て冷評を加へて曰く「若し此新名稱にして保守黨を悦ばしむるに足るとせば又保守黨は自今以後進歩保守兩黨の舊區別を廢すべしと云はば余はコンサーヴァチヴアチーヴと云ふ此新名に對しレノオーマー(Reformer)の名稱を取り以て從來の反對を維持すべきのみ」と。レノオーマーは改革者の義なり。保守黨即ちコンサーヴァチヴアチーヴスは新選挙に於て勝利を得たりと云

ふも實にこれ徹々たる勝利にして、殆んど勝利の名を付するに足らざるなり。新國會の組織せらるゝや庶民院に於ては實に異人奇材の群集したるを見る。即ち其の天才を有するもの將來に望あるもの等偉人傑士の多き實に古來その比を見ざる所にして又文學者の多き近代の國會に多くその類例を見ざる所なり。即ち有名なるギリシヤ史の著者クロフト(Grote)氏はロンドン市より選出せられ後のリットン(Lord Lytton)卿は當時エドワルド、リットン、ブルワー(Bulwer)と稱し急進黨を以て國會に入り、デズレッリー(DIsraeli)氏亦此時始めて國會議員となれり。チャールズ・フラー(Charles Fox)氏はその壯快の天質を以て意氣揚々として國會に來り、サア、ウイリアム・モレスウサルス(Molesworth)氏は後の所謂哲理的急進黨の標本として庶民院に入り來れり。獨り該派の有名なる議員ロバート・バック(Robuck)氏は此時落選して一時傍觀者たり。又グラッドストーン(Gladstone)氏は五年以前より既に國會に在り、後のカリアイル(Lord Carlyle)卿は當時モルペス(Lord Morpeth)卿と稱し亦國會に入りて文學美術的年少貴族の標本と看なされたり。又有名なるジョン・ラッセル(Lord John Russell)卿は是より少しく前に庶民院首領としての政治的生活を

始めて國會に在り、パルマー・ストーン(Lord Palmerston)卿は即ち外務大臣たり。但し卿は未だ其の天才を有するの信用を世人より得るに及ばざりき。是より先きグレビル(Greville)氏は曾て卿を評して『二十年間官海に在りて未だ嘗て何の名を顯はすこと無き人』と云へり。さればパルマー・ストーン卿の知己が氏の前に卿の才能及び器局を稱揚するに方り氏は頗ぶる驚色を示したることあり。パルマー・ストーン卿は其後幾何もなく國家及び國會を支配するの才能を顯はしたれども、當時これを看破したるは僅かに卿を熟知したる人々に過ぎざりしなり。此時に當りロバート・ピール(Robert Peel)氏は保守黨の首領たり。後のデルビー(Lord Derby)卿當時のスタンレー(Lord Stanley)卿は尙ほ庶民院に在り。是より先き卿は愛爾蘭教會問題に於て進歩黨と分裂し去て保守黨に入り、後其の最も有力なる首領となり又最も有力なる國會的辯論家となれり。此國會に於てオー・コンネル(O'Connell)及シェイル(Shel)の二氏は即ち愛爾蘭國民黨の代表者として其の雄辯を振へり。斯くの如くなるを以てヴァクトリヤ女皇の朝に於て最初に召集したる庶民院は實に辯論及び才能に於て古今に冠絶したるものにして、爾後四十年間

英國の政界に於て大雄辯家と稱せられたるものは皆な此國會に列席したるものにして、唯だコブデン (Cobden) 及びブライイト (Bright) の二氏のみ此國會に之れを見る能はざりしのみ。コブデン氏は當時ストックホルム市の候補者として選挙競争を試みたりしが失敗して其の後四年を経るまでは國會に入る能はざりき。而して此一千八百三十七年の國會にマコーレー (Macaulay) 及びローエバック (Roebuck) の二氏を見る能はざりしは誠に偶然の出来事と云ふべきのみ。さればコブデン及ブライイトの二氏を除く時は其の後の四十年間は此國會に列したる者を除きては我國會史に第一流の雄辯家一人をも加ふる事なかりしものといふべし。

内閣は庶民院に於て強大の勢力を有する能はざりき。且つ又内閣は假令兩院に於て一層有力の代議士を有せりとするも當時内外の事情は到底自から強大なりと信する能はざるものありき。他なし内閣に屬する黨人は其の結合甚だ脆弱にして鞏固の統一をなす能はず。激烈なる改革論者は内閣の改革政策を以て足らずとなし之に不平を抱き自由貿易派は新に一大黨を組織して全く獨立の運動を

なさんとするの勢あり。斯くの如くなるを以て内閣は勢ひオライコンチル氏及び其の一味の人々の不確實なる援助に依頼するの止むを得ざるものあり。且つ又内閣は貴族院に於て自黨に雄辯の議員を有せざると共に庶民院に於ても亦討論の才能に長ずるの黨員を多く有せざりき。然るに反對黨の首領サア、ロバート、ピール氏は庶民院に於て最も強大の勢力を有し、其の實際政治家及び國會的辯論家として非常の才能を有するも、且つ當時保守黨政治家の中に稀れに見る所の一大資格を有したり。即ちピール氏は經濟學の原則に通ずる確實の財政家たり。ピール氏人と爲り高大嚴峻を以て自から持し。其の政友は勿論政敵と雖も皆之を尊敬したり。蓋し氏は多くの親友を有せざりしならん。氏の性質は恬淡にして其の友人に脈々たる親愛の情を示すが如きは蓋し其の爲さざる所たり。再言すれば氏は天性遠慮深き人にして其の舉動態度は嚴厲にして親むべからざるものあり。彼のリヒテル (Richter) 氏の嘗てシルレル (Schiller) を評したる言の如き蓋し亦之れをピール氏に適用するを得べし。即ち氏は他人より之れを見れば危岩の近くべからざる如く、巨石の動かすべからざるに似たり。願ふにピール氏は

寛厚の性誠實の情も亦た之れを有したるは蓋し疑ふべからざるも氏の意識の鋭敏なるより却て此性情に假面を着するに至れり。氏の感情の英敏なるも其之を發表するに欠如たるは恰かも正反對をなし爲めに他人より之れを觀れば怯懦の如くなるを覺えしめたり。然りと雖も庶民院に於ては氏の真正の才能及び性情は沛然として顯はるゝなり。即ち庶民院に於ける討論の空氣は實にマコーン氏の所謂酒のアチソンに於ける如く。氏に取りては實に一大勢力にして、一度此空氣中に入れば其の隠れたる絶妙の才能智識は忽然として四面に發洩するなり。ピール氏は實は庶民院の完全なる支配者なり。氏の庶民院に於けるや即ち人が其の目的及び方法を演説するに於て爲し能ふ限り大雄辯家たるを失はず。又人が毫も想像力なくして達し得る限りに於て實に一大雄辯家の列に入りたるものなり。蓋し雄辯とは理想と感情とを完全に發表するものと云ふを得べし。而して此感情なるものは常に多少の想像を伴ふものなり。ロバート・ピール氏は毫も想像を其演説に交へず而して雄辯に於て時としては其の大主眼たる感情に至りて殆んど皆無なりし。ピール氏の論鋒は明確高大にして論理に富み且書冊

及び政治社會并に商業社會より引用したる種々の例證に富む。其の他人の議論を辯駁するや如何なる混雜の議論と雖も其の究極の歸點まで之れを推究して其弱點を曝露し人をして到底逃るゝに路なからしむ。氏の演説は之れを評して高尚の理論及び善良の意識の最も力強き言語の中に包まれたるものと云ふことを得べし。然れども更に又特異の點なきにあらず。即ち其の演説は其の論理法に於ても亦其の修辭法に於ても庶民院の意識の眞の中心を打ちて自から之れを感動せしむべく構造せられたり。即ちピール氏の演説は國會の感情及び意識の中樞を打ちて之れをして覺えず感動せしむるの力を有したるものなり。

スタンレー氏はロバート・ピール氏よりも遙かに元氣あり又感情ある辯論家たり。而して其の政治的生涯の爛なるに方りては殆んど天才の雄辯に近づきしことあり。然れどもスタンレー卿は赫灼たる國會的黨人に過ぎず。後に英國首相となるに及びても亦た此の黨人の上に出る能はざりき。卿は近世の政治家及び政黨の首領に要する智識を有すること甚だ少く、經濟學及び近代科學の發見及び進歩に於て茫乎として知る所なく卿の如く活潑なる政治社會に立ちて周圍の人民皆

な是等學問の議論をなすの間に立てる人にしては殆んどあり得べからざる程无智无學なりき。卿嘗て自から評して曰く『余は科學時代前に養育せられたる人なり』と。然れば卿の學問は古典學を研究して希臘羅馬の文學を味ひたりと云ふに過ぎず。然れども之れとても頗ぶる疑はしく、卿の希臘及び羅馬國民の歴史を事實充分に學得したりと云ふは余輩これを信ずる能はず。卿は希臘の文明と羅馬の文明とは其の精神に於て一大差異あるを全く了知せざるものゝ如きなり。要するに卿は古の所謂高雅なる紳士と稱すべく決して當時の文學者と稱するを得べきにあらず。然れども卿は歐羅巴諸國の政治の狀態に通じ不撓の精神を有しマコーレー氏が評したる如く生れながらにして國會に於ける討論術に達したるが如くなりしかば當時内閣大臣にして卿と辯論を較するを得るものは一人もなかりしなり。

ジョンラッセル卿は即ち當時庶民院に於て進歩黨の首領たる人にして其の外見よりは實質に於て一層強き人なり。卿は大膽勇敢にして其の政友を信ずること最深く、其の政敵を蔑視して自から高しとすること最も甚しきの人なり。シド

ニー・スミス氏が卿の自信自重の無限なることを説明したる言は世人の皆な記憶する所なれば今こゝに贅するを須めず。トーマスマリア氏嘗てラッセル卿の政界を退かんとするを聞き詩を送りて之れを諫止したることあり。詩中の言に曰く『此年少政治家の天才は雌鷲の太陽に向て飛揚せんとするがごとし』云々と。ムリア氏は又我國は汝の如き一大光明を此の暗き地平線より失ふことを欲せずとの言をなして卿を諫めたり。後世の觀察者がラッセル卿の眞價を知りて卿は討論家をして冷淡に且つ規則正しき論法に著名なるも政治家として創作力を欠くの人となすに及んでは、詩人の言と是等觀察者の所信とは遂に調和するを見るべからずと雖ども、ラッセル卿の名聲一度彼の詩人シエルレーの如く寧ろ天才ある磊落の偉人なりと云ふにありしは明かなり。余輩を以て之れを見ればラッセル卿は其の友人及び崇拜者の信ずるよりは少き天才を有し其の友人若しくは政敵の信ずるよりは更に多くの實際的能力を盡したるものゝ如し。卿は雄辯の人となる能はざりしと雖ども甚だ英敏の討論家となりしは得て疑ふべからず。即ち卿は政敵の議論の弱點を駁撃するに於て最も巧妙なる討論家にして冷淡にし

て深酷なる批評に於ては特に其の長所なり。前に余輩の引用したる時に於てム
 ーア氏はラッセル卿の雄辯を稱して曰く「卿の雄辯は淡水の石に當りて泡となり
 遂に水蒸氣となりて消散するが如きものにあらざ、河流の學問及び詩想と云ふ一
 の溜池を通じて更に清流となるが如きものなり」と。今詩人の誇言及び其の友人
 を過稱するの僻を尤めずして虚心に之れを味ふときは此言必ずしもラッセル卿
 の盛時に於ける演説の評として強ち悪しきものにあらざ。即ちラッセル卿の辯
 論の細き流れは徐々として進み傍觀者よりは到底排して進むべからずと見ゆる
 種々の障礙を通過して其の目的地に達するなり。蓋しラッセル卿の劍法はリチ
 アード (King Richard) 王の劍法にあらざしてサラヂン (Saladin) の劍法なり、よく其の
 自家の流義を以て充分敵を斃すを得る也。抑も我英國の政黨政治は國會史をし
 て政治上の一大決闘の連續記録なるが如く思はしむるものあり。即ち二人常に
 政界に相對峙して、一は政府黨の首領となり、一は在野黨の首領となり、以て決闘を
 なすが如し。而して兩者は勝敗を以て其の位置を變じ、勝者は内閣に入り敗者は
 在野黨となる。余輩は今政黨政治の得失及び其の消長をこゝに論議すること能

はず唯だこゝには數言を費して止まんのみ、曰く政黨政治は我國の政争に非常の
 活氣を興へ種々の光彩を添ゆるは疑ふべからず。又實際の戦争の光景及び熱情
 を現はすことを得。時としては政府在野二黨の首領其才能及び辯論の力を同じ
 うし之れがため其の黨員は各々其の主領の勝敗に關して互に相争ひ天下の公衆
 は之れがため單に政治的に止らず批評的に於ても二大派に分かれ、以て非常の奇
 觀を呈することあり。吾人今日に至りても尙ほフォックスとピールとの孰れか
 政黨の大首領たる力量を有し何れか最も雄辯なりしやを相争ふなり。將來に於
 てグラッドストーン及びヂズレリーに就ても亦同一の問題を起して世人の相争
 ふは蓋し想像するに難からず。ラッセル卿及びピール氏は多年の間雌雄を争へ
 り。其の將來に於て政治學者の比較論争する所となるや想見するに足れり。余
 輩も亦章を追ふて之れが比較論評を試むることあらん。此には唯だ左の如く云
 ふて止まらんなり。ピール氏は大に創作的精神に富みラッセル卿は庶民院を支
 配するに於てピール氏の如き大勢力を得る能はず。ピール氏の善く人言を納れ
 他人の思想を信重するを見て世人或は氏を以て創作力に乏しきものとなすもの

あらん。後年政治的感情の甚だ盛なるに及んでピール氏を憎むものは特に此種の言をなすものあり。然れども此評の當らざるのみならず其本つくところの理由も亦全く非なり。我腦より作り出すものの外は悉く皆な創作にあらずと云ふは誠に兒童の見なり。政治上に於ても亦美術の上に於ても所謂創作とは吾人の學び得たる所若しくは人に教へられたる思想を利用し若しくは適用するにあり。ピール氏の天性の大政治家たる一大確證は其のユンゲンもしくはヅヰリアース(Villiers)及フライト等が庶民院に於て稱道しつゝ有りし進歩主義を實際の法律となすべき時代の來るを容易に認識したるにあり。是れ實に天性政治家の才識あるものにあらずんば能はざる所なり。更に又ラッセル卿は如何と云ふに卿は實に天性の改革者なり。卿は始めフオックスの下に屬し自由主義の教育を受けたる人なり。卿は固く其の主義を守り自由主義の最も大膽なる擁護者の一人なり。卿は實にピール氏の上に大利益を有す。即ち氏に比し更に進歩したる學派に於て始め教育を受けたればなり。然れども卿はピール氏と感情の乏しき點に於ては相似たりと雖も天才の雄辯家の列に於ては遙かにピール氏の下にありき。ピ

クトリヤ女皇の第一國會の開會の時に當りてはラッセル卿の庶民院主領の位置に居る日未だ淺く卿は未だ經驗中にありしを免かれず。其の友人中には卿を以て其の首領たるの眞實の資格よりは卿の自信の遙かに大なるを誹るものありき。政府黨及び在野黨の二首領に次て庶民院に於て最も著名の人物をオーコンチル氏となす。氏はアイルランドの大煽動家なり。余輩後章に於て氏の事に就て詳説する所あるべし。當時庶民院の大演説家のなかには又リチャードラファシエール氏なるものあり。氏は有識の人物とともに天才の雄辯家と稱する人なれども今日氏を知る者少なきはけだし一奇と云ふべきなり。ヒーコンスフイールド卿嘗て小説を著はして大にシエール氏の雄辯を稱しカンニンク氏を貶したることありき。又クラッドストーン氏は嘗て音聲及び發言に非常の欠點あるにも拘はらず演説家として大に成功したる三名士を擧ぐるに方リシエール氏實に其の一人に數へられたり。其他の二人はドクトル、チャルマース(Dr. Chalmers)氏及びドクトル、ニエーマン(Dr. Newman)氏なりクラッドストーン氏はシエール氏の音聲を評して『錫瓶』の轉回して音を發するが如し』と云へり。然れども更に語を進めて曰く、

「他人にありては余は決して斯くの如き音聲を聞くを欲せず。然れどもシエール氏に至りては然らず。氏にありては斯くの如き音聲も其の大演説の部分となすものにして何人と雖ども之れを聞くを以て苦痛を感じず。氏は實に一大辯論家にして余の信ずる所を以てすれば氏は多くの準備ある演説家にして、一語一句皆な生々たる想像に富み熱誠の感情其の中に溢ふれ其の語辭非常の力あり。蓋し其の態度と音聲と才智とは相待て完全の大演説家をなすものなり。余が氏の演説を聞てよりこゝに三十五年の久しきを経と雖ども今一度之れを回想すれば恰かも今日氏の演説を聞きつゝあるが如きの思ひをなすなり」と。斯くの如くシエール氏の辯論はグラッドストーン及びヂスレリーの如き異色の二大雄辯家を感嘆せしむるに足るの力ありとせば必ずや氏は大雄辯家たりしならん。然るに後世の人は之れを記憶する點なく其の雄辯を認知せざるに似たり。豈に頗ぶる怪むべきにあらずや。蓋しこれ氏を以て雄辯家なりとするも氏の能は唯だこれに止まり國會若しくは我國の政治上に於て世人は氏の遺蹟を發見する能はざるより、遂に其の雄辯をも忘るゝに至りしものか。氏の政治的生涯は第二流の人とな

りて遂に英國公使としてフロレンスの小朝廷に終るに至れり。余のこゝに氏を特筆する所以は其の始め赫灼たる名聲を博すべきの望みあり又其の雄辯は氏の演説を實際聞きし人の記憶に永く存し、且つ氏はオーコンネル氏の政治的生涯を説明するの好材料たるを以てなり。氏は實にオーコンネル氏の幕下にありて其黨の副首領たる人なり。オーコンネル氏とは後章に再びこれを説くべきを以てこゝには略したれども、シエール氏は余輩又た再びこれを説くの機なきを以てこゝに一言したるなり。

當時の國會は斯くの如くラッセル卿を以て甲黨の首領となしピール氏を以て乙黨の主領となし、オーコンネル氏及びシエール氏等獨立黨として内閣を助け、又グラッドストーン氏漸く其の頭角を現はさんとし、ヂスレリー氏始めて庶民院に出で、その外バルマーレストーン卿あり、スタンレー卿あり、グロート氏ブルウアー氏、ヨセフ、ヒューム (Joseph Hume) 氏及びチャールズ、ブラー氏並びにワルド (Ward) 氏、井リアース (Villiers) 氏、サフランシスマルマット (Sir Francis Burdett) 氏、スミス、オーブリエン (Smith O'Brien) 及び急進黨のアルネバヤチスと稱されてダンコム (Dancombe)

氏等の諸名士ありたれば實に著名の國會と云ふべきなり。

第三章 カナダとダルフム卿

ヴィクトリヤ女皇御宇の太平の希望を第一に攪亂したるものは英領カナダより起れり。一千八百三十七年十一月二十日新國會は始めて成立し翌年二月一日まで休會すべき筈なりしに、カナダより忽ち一大警報の來るありて、内閣は止むを得ず最初の目的を變し、一月十六日國會を開會せざるべからざるに至れり。是れより先きカナダに於ける騷動は既に破裂して反亂となりしなり。

當時カナダの事情は甚だ奇異なりき。下カナダ即ち西カナダは始め其の大部は皆フランス人種の住居する所となりしが、此佛人種は人文の日に進歩開明に赴くの中に於て、頽然大革命以前に佛蘭西に行はれたる思想及び習慣の多くを保持して動かず。今日政治上及び社會上の進歩變動甚しきを経たる後に於ても、歐人にして下カナダの諸都府を旅行するに方りては、一千七百八十九年前の佛蘭西の國狀を記する書籍によるの外は到底見る能はざる如き古風の小佛蘭西を諸處に發見するを得べき也。斯くの如く未開の狀態は近代文明の氣運の及ぶ能はざるが

如き偏僻の小村落に限らず。商工業の盛にして英倫の人民及びアメリカ人并びにフランス人の雜居するモントリアル府に於いても歐洲の旅人は直ちに羅馬府に於いても見る能はざる如き古風の舊教主義の行はるゝを見るを得べきなり。クエベックは其の位置形勝の美に於いてはエチンバラ若しくはフローレンスも尙ほ及ぶ能はざるの都會なり。然れども旅人もし市内を巡見して其の古風の穹門の下を過ぎり奇異の街頭に立つに方りて大革命以後殆んどフランスにも見る能はざる如き奇古の社會の存在するを見なば、一種奇異の感覺を起すや必然なるべし。ヴィクトリヤ女皇の即位の頃に方りては此の佛國人の中古風の特質は甚だ著大なりしや勿論なり。斯くの如くして下カナダは其の古風の風俗習慣を固守し永く中古の夢を食り以て周圍の繁忙なる社會が盛んに商工業を勉強して其の所謂進歩と稱するものを求むるに汲々たるを傍觀せしなるべし。然れども其の隣人及び新來の市民は下カナダをして斯くの如く疎懶にして中古の狀態に衰退せしむるを欲せず。都會の中には英國及び其の他の諸國より移住せる活潑の商工あり此等の人々は決して舊世界の風俗習慣を恪守するを欲せず。決してこ

の天與の富源を徒らに荒廢に歸せしむるを欲せざりしなり。又た一方に於て上カナダは殆んど全く英國より來れる人民を以て充たされ、蘇格蘭の殖民は其の固有の氣力を以て此所に來り愛爾蘭北部の人民も亦た此所に移住せり。但し愛爾蘭南部より來れる移住民は概ね合衆國に行けり。この合衆國は多少英國に反對の風ありて且つ羅馬舊教の此の地に行はるゝを信せしを以てなり。フランス人は蘇格蘭人の如くカナダに移住せり。是れカナダには英國の國旗翻りて本國の宗教行はるゝを信ぜしを以てなり。而して數多の英倫人も亦た此所に移住したるは勿論にして而して彼等は皆な成るべく英國の制度を此の殖民地に移植せんことを希望せしものなり。始めウルフ將軍の戰勝によりてカナダを佛國より取るや人民は皆な下カナダに住し上カナダの住民は極めて少なかりしなり。而して下カナダの人民は殆んど皆な佛國人種なり。カナダ一度英國に歸してより上カナダの人口増加は實に驚くべきものありき。而して是等の人民は大英國及び歐洲大陸の殖民國の二三及び合衆國等より移住せる人民の増殖したるものなりとす。

以上説くところの如くなるを以つて事物の表面より觀察するも此の殖民地の開發を計り其の制度の發達を遂げしむるに於いて多少の困難を惹起すべきは蓋し想像するに難からず。下カナダの佛國人種が英國政府の立法を見て、其の古風の習慣に關涉し英國人種の利益をのみ計るものとなし、嫉妬怨恨の念を抱きたるは明らかなり。又た英國人種は本國政府の其の殖民地に施す政策を見て、軟弱不充分となし、己等を助けて更らに強硬の政策を施し殖民地の開發に盡力せざるを怨みしや亦た明らかなり。斯くの如くなれば本國政府は其の所謂臣民に對し斯くの如き場合に於いて特別の困難を感じざるを得ず。殖民地人民の本國の制度を敬重するの事實適ま以つて彼等をして過激疎暴ならしむるに足るものあり。彼等は本國政府の畢竟殖民地の利益となるべき英化政略を強行して殖民地の開發を勉めざるは何のゆゑたるを解する能はず。是に於いてか本國政府は再婚の婦人と相似たる苦境に陥めり。婦人は其の前妻の子と己れの子とを公平に待遇して偏頗なからんことを力むと雖とも、其の一言一句皆な諸子の不平を買ひて、前妻の子は我が繼母は己れの實子のためのみを計りて毫も我等を愛せずと訴へ、其

の實子は汝の眞實の子なれば一層親愛せざるべからずと訴へ、到底安心の時あるべからず。英國政府のカナダ殖民地に於ける當時の事情實に斯くの如くなりしなり。

左れば本國政府は如何に賢明の政略を施すもカナダの如き殖民地に於て制度の運用を直ちに圓滑ならしむることは甚だ困難と云はざるを得ず。然るに當時内閣の政略は決して賢明なりと云ふを得ざりしもの如し。而して其の政略如何と云ふに即ち當時カナダの事情には必然免かるべからざる利害の衝突を一刀兩斷の方法を以て處置せんとするにありしが如し。即ち一千七百九十一年の憲法と稱する一法律を以て英國政府はカナダを二分し、一を上カナダと云ひ一を下カナダと稱し、二者各々其の政府を異にし、上下各々左の如き制度を以て之れを治めんとしたり。即ち一人の大守を置き之れに英國君主の敕任する行政會を添へ別に一の元老院の如き立法府を設け之れに更に一の代議士會を加へしなり。行政會は或點に於て本國の樞密院に似たり。元老院の議員は英國君主の敕任する所にして之れを終身議員となし、代議士會は四年の任期を以て人民の選舉に出るも

のとなせり。英國國會は又同時に僧侶保護法を定め殖民地を未墾地の七分の一を以て新教僧侶の扶助に充てたり。是れ實に將來紛議葛藤の生ずべき一大原因なりしなり。

英國政府が斯くの如く一千七百九十一年カナダを上下二部に分ちたるは名實ともに永くこれが區別を保つとを得べしと信じたるを以てなり。曰く下カナダは全く佛國風に上カナダは全く英國風に生存するを得べしと。又所爲らく斯くの如くせば吾人が今日甲制度を以てモリリヤス殖民地を治め乙制度を以てマルタ殖民地を治むる如く上下のカナダ各々其の自家の制度を以て安全に之れを治むるを得べしと。

然れども斯くの如き政策を企圖したる人々は全くカナダの地理を考察せざりしものと云ふべし。上カナダは下カナダを通過するか若しくは合衆國を通過するにあらざれば歐洲若しくは東半球全陸の諸國と交通をなすの道殆んど之れなきの事實は直ちに此問題を決するに足るものなり。而して當時第一に最も大なる困難の起りしは下カナダなり。下カナダに於ては英國君主の敕任せる元老院の

議員の多數と殖民地人民の選舉に出でたる代議士會の多數とは常に利害を異にし兩者の衝突始終絶ゆることなかりき。而して本國政府は此際に方りて殖民地政治機關中の最も危険なる一機關を保護したり。所謂ブリテン黨と稱するものにして専ら本國の利益を計り本國主人の命令に服従して運爲するもの即ちこれなり然り而して元老院の多數は常に代議士會の多數の決議を排斥して毫も顧みる所なきなり。爭論は第一に政費供給の問題に關して起れり。政府は代議士會の攻撃したる官吏を免職せず。全く代議士會の意向を外にして殖民地の公金中より隨意に其の給料を支拂ふの權を主張せり。是に於て代議士會は此金を供給するを拒みしかば政府は當時其管理中にありし公金を流用して其の目的に使用せんとしたり。是に於て殖民地は元老院を人民の選舉に出づることとなし殖民地の政府は隨意に殖民地の公金を處置するの權を有せざることを規定せんとしたり。此時に當り下カナダ人民は善惡悉く代議士會の意見を一致採用するの勢なりしかば余輩は代議士會を稱して直ちに殖民地とは云ふなり。此要求に對し本國政府及び庶民院は元老院を民選となすことを許さず。又殖民政府に司法

及び行政事務に必要な費用は代議士會の協賛を経ずして隨意に之れを支辨することを得るの權利を與へたり。此事は殖民地人民の大多數を成したる佛國人種に告ぐるに汝等の希望は政府毫も之れを顧みるものにあらず殖民地は英國君主の敕任したる元老院及び其の他の官吏より成る一小プツテン黨の意志に従ふて之を支配すべしとのことを明言したるに全じきなり。此爭論に於て殖民地に於ける民黨の多數果して正しきか、又は吏黨果して不正なるかは今ことに研究するの要なし。當時單に人種の相異よりして感情の衝突を來したるは元より論なし。佛人と英人とは到底之れを混和する能はざりしは勿論なり。ダルム脚の有名なる報告に於て云ふが如く、或地方に於ては佛國人と英國人とは決して公會に會同したることなく唯だ陪審官選舉の日に於て僅かに會同することありしのみ。是れとても其の目的は交親にあらずして却て裁判事務を妨害するにありき。英人は其の平生の作業に於て佛の法律及び先例に従ふの苦痛を訴へて止まず。當時土地法及び其の他の法例は古風の佛法なりき。而して此佛法は刑事止の事件に於て英法の障害を受け殖民地全軀の法律は大混雜を生じたり。是に於て代

議士會は遂に將來に向て一切の政費を供給するを拒み本國政府に向て殖民地人民の困難を訴へたり。殖民地太守の專恣壓制を訴ふる其二なり、元老院の組織を不可とする其三なり、政府の随意に殖民地の公金を流用するを不正となす其第三なり、適に殖民地代議士會を停會する其四なり。彼等の本國政府に訴へし所約ぬ斯くの如し。

下カナダに於て遂に反亂を起すに至りたる此運動に於て最も著しき首領をルイ・ジョゼフ・パピノー氏となす。氏は其の才能氣力及び其の尊敬すべき性質を以て社會の好位置に上りたる人にして、始め下カナダの代議士會に於てセント・ジョール市を代表し後ち其の議長となりし人なり。氏は殖民地太守の政略及び太守を助けたる本國政府の政略に反對する運動に於て首領となり、各所に集會を開き大に殖民地人民を煽動したり。氏は激烈なる言語を用ゐて演説をなし、且つ合衆國人民の反亂を企て、成功したる例を引いて殖民地人民を扇ましたり。氏は又殖民地人民の困難を調査し之れを宣言するため一大國民會を召集することを企てたり。時の太守エズナオルド卿は之れを見て此事に加はりたる民兵の士官を免

職し以て之れが鎮壓に着手せしが、パピノー氏亦た此等士官の一人なりき。次に太守は代議士會の多數の議員を反逆の嫌疑ありとなし之が逮捕の令狀を發したり。是に於て若干の人々は直ちに外國に出奔したれども其他の人々は遂に逮捕せられたれば、其の友人及び同志の人々は直ちに之れに反抗を試みて遂に公然の反亂を見るに至れり。

此反亂は軍事上の意味に於て重大事件なりと云ふを得ず。始め其の破裂するや軍人社會は一時驚懼して反徒は一二の勝利を得たりしが。司令長官は直ちに奮起して是が鎮壓に從事し大に強硬の手段を用ゐたりしかば反徒も頗ぶる勇氣を奮て抗戦し、兩軍の死傷頗ぶる多かりしかども、遂に大事に至らずして鎮定に歸したり。然れども此騒動は亦た上カナダにも蔓延するに至れり。上カナダに同じく其太守及び本國政府に怨望を抱き、政府の官吏は所謂同調を以て之れを任免するを不可として之れに反對を試みたり。然れども上カナダに於ける反亂的運動は人民全體に涉りしにあらざり。但し人民中に多少の不平家ありしは勿論なり。又其の共和的運動に同情を表する人々が合衆國の國境より來りて人民を奨励し

たるは明かなり。又下カナダに於て反亂の破裂したるを見て其の響にならぶて革命を企てんとしたる慷慨家の起りたるは得て疑ふべからず。然れども全軀に於ては上カナダの反亂は全く輸入的なり。而して戦史の上より之れを見れば殆んど記するに足るものなく唯だ太守の断行したる鎮壓策の奇俠なりしを以て僅かに注意を惹くものあるのみ。太守を誰とかなす。勇敢倜儻なる軍人にして又旅行家たるサア、フランシス、ヘッド氏即ち其人なり。氏は始めウオードワードに戦ひ後ち種々の官職を経たる後當時一千八百三十五年ケンタッキー州の救貧委員の事務を執りつゝあり、此時俄かに上カナダ太守の任命を受けて此地に來りしものなり。上カナダの反亂に處してヘッド氏は管に之れを處分するの才能あるのみならず遙かに其の以上の人物なることを示したり。氏は當時及び將來のために總べて反亂に對し道徳上の勝利を得んとを決心したり。氏は全世界に示すに其の支配の下にある地方の政治は到底區々反徒の妨害を企るも其の目的を達する能はざる所以を以てせんとしたり。即ち氏はセクスピアの院本中のハリ親王がヘンリー四世に背きたる反徒の首領に對せしが如き落々たる舉動を以て上カナ

ダの反民に當れり。氏は國內の兵士として悉く下カナダの官軍を援助するため之れに赴かじめ反徒をして充分に其の謀を熟さしめたり。氏は反徒をして其の暴舉の日を自由に遷ましめ攻撃の準備整ふを待て靜かに民兵及び政府に賛成する人々を集め其の力を以て直ちに反徒を鎮壓したり。是れ實に一轉瞬のことなりき。蓋し氏は其の治邦に於ては人民の反亂の如きは毫も常備兵の力を借らずして之を鎮撫するを得べしとの事實を天下に示さんとの心を有したるものなり。殖民地人民は氏の斯くの如き舉動を見て大に之れを喜び相共に其の勇武を稱揚したり。此一舉や實に道徳上の効力を顯はす大にして古人の所謂僅かに其の鞭を示して反亂せる奴隸を服したりと云ふの一事と其の趣を同ふせるものと云ふべし。然れども本國政府はサア、フランシス、ヘッド氏の政略を以て必ずしも是なりとせず。其の意蓋し以爲らく若し反徒にして合衆國より來る同情義士の助けを得て其の勢力を加ふるが如きことあらば太守の道徳策も甚だ危険にして常備軍の必要を見るに至るべしと。是に於てヘッド氏は遂に其の職を辭したり。其の忠勇及び勳功は天下の俱瞻する所なりしかば天子之れに男爵を授けて之れを

賞じたが。氏は單に其の政略を賛成したる人々の感嘆する所となりしのみならず、之れに反對したる人々と雖とも亦た其の奇策を稱賛するもの頗ぶる多かりき。蓋しヘック氏の政略は當時其の奇警に過ぎて殆んど無謀の如く見ゆるものありしと雖ども氏は決して世人の云ふ如く危道を踐みじにあらず。即ち若し其の所謂道德策にして失敗するときは更に有効の方法を以て之れに應ずるの成算充分熱したるものにして、即ち其の第一策の敗るゝととも第二策を以て之れに當るの準備ありしなりとは世間往々之れを主張する者ありき。蓋し強ち無稽の言にはあらずるべし。

カナダ反亂の報一度本國に達するや國內の人民も亦た激昂して是非の論大に起れり。本國に於ても反亂其のことは同情を表せざるも殖民地の訴ふる所の困難に就ては同情を表する者決して少なきにあらず。是に於て各所に集會を開きカナダの紛亂は主として政府が殖民地人民の請求したる救濟法を拒絶したるに本づくとの決議をなすもの頗ぶる多かりき。經濟改革の木鐸たるヒューム氏の如きは國會の内外に於て熱心に殖民地人民の運動を賛成したり。此問題に關し

國會に於て討議をなすに方り、サー、ロバート、ヒール氏は上カナダの反徒の首魁をマッケンザードと呼べる人といへり、ヒューム氏は卓越なる名士を呼ぶに是れ等の言を以てすべからずと論じ且曰く『カナダにマッケンザードといふ人ありといふはロバート、ヒールといふ人ありと云ふと同じ』と。既にしてマッケンザードは脚は政府よりカナダ處分案を提出せしが其要は一時下カナダの憲法を中止し本國よりカナダ總督を派遣し反徒處分の全權を之れに與へ且つ兩カナダの憲法改正の權を之れに與ふべしと云ふにあり。該案は始め種々の點に於て反對を受けたり。此時ロバート、マッケン氏は國會の外にありしが下カナダの代理委員として國會に來り兩院に出席してカナダのため本案に反對の演説をなさんことを請求したり。氏の要求は暫時評議の上許可せられたりしかば氏は先づ第一に庶民院に於て反對の演説をなし次に貴族院に於て同様の演説をなしたりき。其の主旨とする所は此處分案は本國政府の壓制に起因せる騒亂の故を以て下カナダの憲法を中止せんとするものなれば不正なりと云ふに在りき。當時の批評家は曰く、世の演説家は皆な聽衆の意向に投ずるを務むるものなるにロバート、マッケン氏の演説は最

初より聴衆の意向に反し之れをして已に反對せしむるを目的とせしものゝ如し
 と。然れども氏の演説は頗ぶる道理あり又効力あるの演説たるを失はざりき。
 特に氏の容貌は甚だ若くして殆んど丁年以下の少年の如くなりしかが其の聴衆
 を動かすこと一層強かりしといふ。

然りと雖も政府提出の處分案は大膽に於て之れを採用せざるべからざる所以
 甚だ明かなりき。國會全體の意向は曰く今日の場合に於て政府の過去の政略を是非
 するの時にあらず。宜しく速かに才能の士をカナダに派遣して善後の處分をな
 すべしと。是れ實に正當の意見なり。是に於てマヨソン、ラッセル卿はダルハム卿
 を擧げてカナダに派遣するとなしたり。世人皆な其の人を得たるを稱したり。
 ダルハム卿は非常の性質を有したる非常の人物なり。余輩卿の當年に於て政治
 上著名の位置を占め非常の事業を爲し全時代の人々の眼に於て非常の人物と見
 做されたることを考ふるときは其の近代に於て人の其の名を回想するもの少な
 きを見て竊かに驚かざるを得ず。ダルハム卿は英國名族の家に生れたり。ラム
 トン家即ち是れなり。ラムトン家はノルマン戦争以後引き続き英蘭の北部に

住し第十二世紀の頃より其の男系の相續は一度も亂れしことなしと云ふ。但し
 ラムトン家は貴族の家にあらず。其の富は主として鐵山より之れを得たり。鐵
 山の収入は多年の間實に莫大の價格を有したりと云ふ。然れどもラムトン家は
 殆んど一世紀間地方豪族の列に加はり其の家族中には一千七百三十七年より一
 千七百九十七年十二月タルハム卿の父の没するまでタルハム市を代表して庶民
 院に入りたるものあり。ダルハム卿の父ウイリアム、ラムトンは熱心な
 る進歩黨にしてフォックスの友人たり。其の子ジョージ、ジョージ、ラムトンは一千
 七百九十二年四月ラムトン城に生まる。氏其の齡三十歳の時クレイナク
 シに於て一婦人と小説的結婚をなしたり。幾も三年にして夫人は死せり。氏は
 暫時騎兵隊に入りて軍人となれり。最初の妻の死後一年を経て氏はクレイ卿の
 長女を娶れり。當時年二十四なり。是れより先き氏はタルハム市より選舉せら
 れて國會に入り幾度もなくして熱心なる改革論者として其の名を著はしたる。
 氏の庶民院に在る中演説するも極めて希なナヒバ一度演説すれば必ず改革論
 を唱へ然らざんば保守主義非自由主義の法律を傳授するものに反對するを常とせ

り。一千八百二十一年氏は自から國會改革案を提出したり。一千八百二十八年に至りダルハム男爵として貴族に列せらる。一千八百三十年十一月クレイ卿の内閣組織せらる。ヤダルハム卿は玉璽尙書となれり。傳へ云ふ卿はクレイ卿の上に殆んど完全なる支配力を有せりと。氏人と爲り多感多情にして且つ精悍無前なり。其の感情の激する所往々其の同僚を戦慄せしめたり。當時の記者卿と其の同僚と紛争激論したる状を記するもの頗ぶる多し。卿の政敵及び其の友人中或は曰く「ダルハム卿は内閣に於て其の反對者と議論する時は暴言を以て之れを壓倒し、内閣首相たる其の義父と雖ども反對者のために一言を添ふる能はざることありき」云々と。卿は改革主義を信すること最も深く其時勢の如何又は其の反對者の性情如何は全く之れを度外に付し去り一意急激の改革を断行せんとしたるものなり。即ち卿はカトリックの所謂習慣の尊嚴なるものに對しては毫厘の尊敬とも與へざるなり。卿は其の希望する所は最も熱心に之れを希望し寸毫の餘裕をも有する能はず。然ればダルハム卿のクレイ卿に取て畏るべき子たるは云ふまでもなく、又當時爾かく改革熱に浮かされざる内

閣員に取ても等しく畏るべき人たるは必ずしも卿を畏惡する人々の言を待て之れを知らざるなり。改革案の討議に於て卿の貴族院になしたる演説を見れば卿の激烈なる演説の一般を窺ふを得べし。此演説は卿の反對黨を罵倒したる一大議論にして其の言語の過激殘酷なる言語の自由大に過ぎて放言暴論の盛なりし時代の人と雖どもなほ驚駭せざる能はざりし程なり。此時ダルハム卿は其の前夜エギゼタ・僧正のなしたる演説のために特に憤怒しつゝありしかば其の演説も自から激烈なりしものとす。卿は僧正の演説を以て粗瀆野卑にして且つ惡意ある騰怒の演説なりと論じ、歴史上の事實を全く轉倒するものなりと罵れり。爲めに氏は議長の注意を受けたるのみならず一議員は以上の言を取り消すべしと主張したり。ダルハム卿之れを見て毫も驚かず。冷然として直ちに答へて曰く、「余は余の使用したる言語を以て最も叮嚀優美なりとは辯護せず、然れども余は之れを以て僧正に關して余の云はんと欲する所を言明したるものと信ず、余は僧正の演説の騰怒にして虚偽の言ありしことを信ず、故に余は其の然る所以を陳べたり、余は今此事を再び諸君の前に陳べんことを希望す、余は今前言を取り消すの機

會衆諸君は與ふる能はざる云々と。此返答に對して再び争議するものなるが如く、脚は充分其の氣はんと欲する所を陳ずることを得たり。然れども最後に脚は其の言の餘りに激烈なるを悟りて少しも顧みる所ありしが如く、議員に向て其の激語を吐きたるは家事の不幸に依りて精神少しも憚めるを以て知らず議らざることに至れるものなれば寛恕を乞ふと云ひ、因て脚は其の長子の新たに死したるをも議院に告げたり。

その如く、脚は其の言の餘りに激烈なるを悟りて少しも顧みる所ありしが如く、議員に向て其の激語を吐きたるは家事の不幸に依りて精神少しも憚めるを以て知らず議らざることに至れるものなれば寛恕を乞ふと云ひ、因て脚は其の長子の新たに死したるをも議院に告げたり。

その如く、脚は其の言の餘りに激烈なるを悟りて少しも顧みる所ありしが如く、議員に向て其の激語を吐きたるは家事の不幸に依りて精神少しも憚めるを以て知らず議らざることに至れるものなれば寛恕を乞ふと云ひ、因て脚は其の長子の新たに死したるをも議院に告げたり。

その如く、脚は其の言の餘りに激烈なるを悟りて少しも顧みる所ありしが如く、議員に向て其の激語を吐きたるは家事の不幸に依りて精神少しも憚めるを以て知らず議らざることに至れるものなれば寛恕を乞ふと云ひ、因て脚は其の長子の新たに死したるをも議院に告げたり。

その如く、脚は其の言の餘りに激烈なるを悟りて少しも顧みる所ありしが如く、議員に向て其の激語を吐きたるは家事の不幸に依りて精神少しも憚めるを以て知らず議らざることに至れるものなれば寛恕を乞ふと云ひ、因て脚は其の長子の新たに死したるをも議院に告げたり。

ヨングラッセル脚ヲ招き之れに改革の起草を托したり。更らに脚は改革案調査委員會を組織するの議を起し、ラッセル及ビ各議員の意見を採り、ラッセル脚は一改革案を起草したりしが、是れラッセル脚の委託に本つきて起草したる所に於て其後をラッセル脚は然れども、脚の自から記入したる修正とて之れを刊行したり。此時ラッセル脚の目的にして成就することあれば匿名投票の法は當時政府の宣言書中に見えしなるを、且つラッセル脚は内閣に於て討論中其の同僚をして其の意見に服従せしめたることもありしと云ふ。余一言にして脚を評すれば當時内閣の急進論者にして且つ之れに適當したる氣力を有し之れと共に彼のモリス、ハグ、氏の有せしと稱せらるる壯服なる無分別を有し自家の意見に就て非常の勇氣を有するものと云ふべき。人心は驚かすべし。

此時以後のラッセル脚の上は於ては、脚の意見は依然未だ改し、脚は其の同僚の意見は異議を呈せず、且つ其の意見は、ラッセル脚の意見に就て非常の勇氣を有するものと云ふべき。人心は驚かすべし。

の後ち露西亞に派遣せられたりしがこれ蓋し内閣の人々が國內より卿を除かんとするに出でたるものにして後ち卿は露西亞駐劄の全權公使となるに至れり。卿は其の始め露西亞に使してより全權公使に至るの間に於て一度英國に歸り來り種々の企圖をなして頗ぶる人心を騒がしたり。卿は國內の極端自由主義論者のために多くの希望を以て迎へらるゝの人なれども又一方に於ては近時の政變を以て頗ぶる極端に走り急進に傾きたりとなす人々のために畏悪せられたり。然りと雖どもダルハム卿の大才異能は其の政敵と雖も之を否認する能はず。卿は政治上の大難事あるに當りては其の平生の習慣及信念の爲に其の識見を感亂せらるゝとなく直ちに事物の真相を看破するを得る人なり。卿は決して後世の所謂美滿的救済法と稱するものを主張するに躊躇せず然れば尤も卿を好まざるの人々も雖もなほ卿を以て無事に苦むシイザルの徒となじ其の治國の材能を現はすには充分廣大の舞臺を要する人たるを疑ふ能はず。而してカナダに於ける政治上の困難はダルハム卿をして此大才異能を試験するの機會を得せしめたるものなり。卿のカナダに行くや世人皆其の大名を博するか或は非常の失敗に陥

るか二者必ず其の一に居るべしと信せり。之を再言すれば卿の遠征は假令一國を成敗するとなしとするも少くも其の一身の政治的生涯を成敗せしむるに足るべしと信ぜり。ダルハム卿は實に尤も赫灼たる希望を以てカナダに赴けり。卿の行くや二人の名士を伴ふ、チャールズ、ブラント及エドワード、ギボン、ウエークフィールドの二氏はなり。二氏は當時卿の事業を助くるに於て尤も適當の人と稱せられたる者なり。是時ダルハム卿は心竊かに以爲らく其の身は今一箇のデクテートルとしてカナダに赴く者なりとデクテートルとは主宰者の義なり當時英國人及殖民地人民も亦た之と同様の見解を以て卿の遠征を送迎したるは得て疑ふべからず。余輩は卿の遠征を以つて假令一國を成敗するにあらずとするもよく卿の政治的生涯の敗を定むるに足るべしといひたり。然るに卿の實際施設したる所は稍此預言と異なる者なり。即ダルハム卿は克く一國を成したるも其の政治的生涯を敗りたり。卿は爾後カナダに於て真好の結果を奏したる政治制度の創設者たり。卿は上下のカナダをしてカナダ領(Dominion of Canada)の名を以て近隣の諸殖民地と聯邦を組

刑を目的として反逆の罪ありと自認したる人々は、大赦令に與るを得ざらしめたり。ダルハム卿は是等の罪人は皆之をバルムダに追放し、是等の人々及び先に出奔したる首魁等にして政府の許可なくしてカナダに飯り來る者は反逆の罪を以て之を論じ死刑に處すべきとを布告したり。此布告の普通法の上より之を觀察して適法ならざるとは必ずしも法理上の推論を待て之を證するを須みず。ダルハム卿はバルムダに人を追放するの權を有するものにあらず。卿はバルムダの上に何等の權力を有せず。又バルムダの官吏に政治犯人を繋留するの權を委託するの權を有せず。且つ卿は政府の許可なくしてカナダに飯來する人々を死刑に處するの宣告をなすべき權を有せず。英國の法律に於ては追放人の繋留を脱して本國に歸るを以て死罪となすの規定あるなし。然れば斯の如き行爲は全く不合法なるは勿論なり。換言せばダルハム卿の斯の如き布告を發するは即ち全く越權の處置なり。ダルハム卿は明かに此事實を知れり。即ち卿は斯の如き行爲に於て其の決して英國の普通法に準據せざるとを自認したり。蓋しダルハム卿は寛猛二つながらチクテートルの精神を以て事に當りし者にして其意蓋

し以爲らく當時カナダの事情は通常法律の行用を以て之を處置するを得ず。故に余は非常の權力を委託せられたるものなりと。按ずるに政府の許可なくして歸國する追放人を死刑に處する布告は殖民地國會の制定したる法律に於て先例の存する所なれどもダルハム卿は決して斯かる先例に準據したる者にあらず。當時卿は多數の罪人を有したれば通常法律の手續を以て下カナダに於て一々之を審問するが如きは無替の事なりと信せり。當時獨立公平の陪審官を得て之が陪審を以て罪人を處刑せんとは到底なし能はざる所たり。即ち陪審官に依て之を裁判すれば罪人は皆無罪と宣告せらるべきや明かなり。果して然らば英國君主の威嚴も之か爲め益々汚濁せられざるを得ず。然り而して殖民地人民はカナダ太守の下に於て普通法の公平なる施行を得んとは到底望むべからざるとなし、太守に信任を置かざると既に久しかりしかば當時下カナダの人民は一般に以爲らくダルハム卿は其一味の徒黨を以て陪審官となし以て罪人を審判し直ちに之を有罪となし刑罰に處するは勿論なるへしと。然るにダルハム卿は決して斯の如き非理不正の動作なかり若かはカナダ人民は皆其意外に驚きたり。

夫れダルハム卿の身を以て罪人處分の方法を考ふれば自から反逆に關係せることを自白せる人々を追放の刑に處し又は嚴酷なる刑罰を以て出奔したる反徒を恐嚇し之が歸國を妨遏するの外他に良策なかりしや明かなり。而して其大赦令は實に寛大を旨としたるものなれども反徒の首魁をして無事に殖民地に止まるを得せしむるは其の忍ぶ能はざる所、又之を普通法に照して審問の手續をなし彼等をして實に刑罰を免かれしむるのみならず、却て公けの名譽を得せしむるが如きは亦決して忍ぶ能はざる所なりしや明かなり。

ダルハム卿の他の處置も亦越權の罪を免かるゝ能はざるものあり。始め卿をカナダに派遣したる命令書には卿の總て一の會議の賛協によりて其政を行ひ、各法令は必ず此會議を組織する議員の五名以上の副署を要するを規定せり。ダルハム卿のカナダに來りし時は前太守サー、ゼー、コルボウン氏の指名したる顧問員ありて憲法中止の當時に於ける假政府の如き機關をなし居たりしが卿は之を廢し其指名に出でたる會議を以て之に代へたり。此會議は主として其秘書官及其幕下の人々を以て構成したる者なれば即ちダルハム卿手製の顧問院なり。蓋し

ダルハム卿は其周圍の才智ある補佐員の助言と其有爲の精神とを以て殖民地の救濟法として尤も適當なりと信ずる一方策を其胸中に畫き、之を實行するに於て何人よりも自家を尤も適當の人物なりと信せしなり。而して當時の出來事は卿の意見の正當なるを證したり。卿の反徒處分はカナダを改造するの大事業を成就する爲めに一大掃除を行はむとするにあり。然れば卿は此目的を達する爲めに普通法の形骸の爲めに妨害せらるゝを好まず。余輩既に前言せる如くダルハム卿は實に其尤も善良と信ずる方法を以て殖民地の制度を改造するの任を帯びて派遣せられたる一个のキャラクターと固く自信せしなり。されば後日普通法の限域を越へたりとの非難を受くるに方り、卿は冷然として之に問ふて曰く「全軀の憲法が中止せられたる地方に於て如何なる憲法上の原則が其効力を有するを得べきや人民の金錢は其承諾なくして横奪せらるゝ國に於て英國憲法の何等の原則か能く行はるゝを得べきや、代議政治は全く亡び、軍法は普通法に代り、陪審官の審問は唯だ裁判の目的を破壊する爲めに存ず、且全社會の憤怒輕蔑を招くの外陪審官の審問は何等の効用もなき國に於て英國憲法の何等の原則か能く完全に

行はるゝを得べきや』と。

然りと雖どもダルハム卿よりも幾分か克己忍耐の性を有する人なりせば其カナダに於て大改革を始むるに當りて爾かく激烈の反對を惹起することなきを得たりしや疑ふべからず。然かれどもダルハム卿はカナダに於て自由の恢復の爲め又た憲法政治の回復の爲に其權力を用ひむとしたりたる一个のデクテートルなりしとは余輩常に之を記憶せざるべからず。されば卿の反徒を處分する方法は專擅なりと雖ども然かれども是れ全く仁愛の爲めに然る者にして徒らに專横を好みしものにあらず。故に卿は公然宣言して曰はく『反徒を處分するに通常の刑法を以てし、殖民地人民の一般の感情に於て全く之に賛成を表し反亂の破裂する前は其意見却て當時の政府よりも正當なりし人々に汚名を被らしむるは余其の是なるを知らず』と。又曰く『余の反徒をパルムダに追放したるは唯だカナダより之を除去せんとしたるに過ぎず。別に他意ありしにあらず。又たカナダに販來する追放人を死刑に處するの規定を爲したるは是等追放人の決して販來せざるを信じたればなり』と。

然りと雖もダルハム卿の政略は本國に於て最も嚴酷の非難を受け、尤も激烈の攻撃を受くるを免れざりき。思ふにダルハム卿の越權の罪にしてパルク氏がワレン、ヘスチンクスに負はせたる罪の如く重大なりと假定するも其の貴族院に於て攻撃を被ると此上に出る能はざりしなるべし。當時卿を攻撃する者は曰く『卿は何等の審問若しくは審問の形式を経ずして人を絞殺するの權を行ふの法令を發したる者なりと』余輩を以て之を見れば當時ダルハム卿の政敵は卿の反徒處分法の善悪は暫く之を措き其處分法はカナダ殖民地の政治上及社會上の組織を改造する一大政略の一小部分をなすに過ぎざるを忘却したるものゝ如し。即ち反對者はキーベックより發したる法令の發布其の事を以てダルハム卿のカナダに於ける事業の始めにして又終りなるが如く見做して之を攻撃したる者の如し。且つ卿の政敵は卿のカナダに於ける旅費の巨額なるを攻撃して止まず。疑ひもなくダルハム卿は豪華を好み東洋流の虚飾に類するものを愛せしは明かなり。其のカナダに在るや奉養の盛なる王者に擬せり。然かれども卿は其事業の爲にも自ら報酬を受けず。且つ其旅費さへも政府の支辨を仰がざりしは人の知る所な

り。後ち卿は貴族院に於て陳べて曰く「其のカナダ行は少なくとも一万磅の私財を費やしたり」と。夫れ然り是を以て經濟改革の木鐸たるヒュム氏はカナダに於けるダルハム卿の費用の大なるを攻撃せし人々を諷刺して「從來政費の過大に毫も反對せしとなき人々の一朝忽然として節儉の痙攣を起したる者なりといへり」。當時内閣は貴族院に於ける討論の勢力に於て甚だ微弱なりき。是より先きダルハム卿は貴族院に於て多くの敵を作れり。されば是等の政敵は是時を以て好機會失ふ可らずとなし卿及び内閣を併せて之を攻撃したり。按ずるに當時卿を攻撃したる者の中には憲法の原則を侵害するの危険を憂ふるの至性より公正の反對をなしたる者なきにあらず。貴族院に於ける卓越の判事及法律家は現行法律の正當に行はるゝを希望して此點より卿を攻撃したる者あるは得て疑ふべからず。然かれどもダルハム卿の行爲を攻撃する者の中には多少政治上若しくは私交上の怨恨より之に激烈の反對を唱へし者なしとは到底信ずる能はず。此時に當り貴族院に於ける有力の人物は概ね皆なダルハム卿に反對を唱へたり。プロローハム卿及リンダハルスト卿の如きは一時連合して政府に反對し其カナダ政略

を攻撃したり。プロローハム卿は自ら曰く「余は始めよりカナダの鎮壓政略に反對し、今は乃ち其不合法の政策に反對する者なり」云々。然かれどもプロローハム卿がダルハム卿の宣言の目的を以て毫も法律の形式によらずして人を絞殺する者なりと信ずるが如く誤解するを見て余輩は恠訝に堪へず。余輩はプロローハム卿の眞實斯の如くダルハム卿の宣言の目的を誤解したるや否やを疑はざるを得ず。ダルハム卿のカナダに於て普通法の規則を破ると如何に甚しきにもせよ、其目的は寛仁の道に在りて敢て暴逆を行ふにあざりしは甚だ明瞭の事實なり。然るにプロローハム卿は怡もセツヤナスの如き奸人を攻撃するか如く其雄辯を以て激烈の攻撃をダルハム卿に加へたり。勿論プロローハム卿の攻撃は世人皆な卿のメロポルン卿及其内閣併にダルハム卿を疾悪するの事實を知るを以て其道徳上の効力を減じたるは明かなり。世人或は曰くプロローハム卿は凡べてダルハム卿のなしたる事物に反對の感情を抱くべき特別の理由ありと。按ずるに一千八百三十四年エヂンバラ市の改革黨がクレイ卿の爲めに宴會を開くに方りプロローハム卿及ダルハム卿亦之に到席したりしが、プロローハム卿の席上演説を請求せられて

演説するに方り過激なる改革論者を非難するの言語を發し過激論者が從來の改革を以て足らずとなし、更に政府に迫りて非常の改革を遂行せしめんとするの不可なるを説きたり。卿は更に論歩を進めて此問題を詳論し頗る巧妙の言辭を以て聽衆を喜ばせたり。ダルハム卿之を見て己を攻撃する者となしたりしが是れ蓋し其理由なきはあらず。是に於て自から起て演説するに方りブローハム卿の演説に正面の答辯を試み、其演説を以て己に向て挑戦したるものと説き、激烈の言辭を以て之を駁撃したり。之に於てブローハム卿の演説の効力は全く消滅し、卿は恰もダルハム卿の如き性急の人と挑戦して席上の騷動を惹起したる罪人となれり。然れば今也ダルハム卿のカナダ政略を攻撃するの好時機に際し前年のエヂンバラ宴會に於ける出來事を回想して大にキーベックの法令を攻撃せむとするの心を起し、其奮怨の爲めに一層激烈の非難を加へむとはブローハム卿の如き残忍なる政治的劊客に取ては敢て異むべきにあらず。

内閣は微弱にして遂に反對者の意見に屈下したり。内閣は最初ダルハム卿の法令に賛成を表したりしが後ち幾何もなくして之を抛棄するに至れり。然かれど

も内閣はブローハム卿の意見の如く直ちにダルハム卿の政略に反對してキーベックの法令を非認するとを宣言せず。ダルハム卿は米國の新聞より初めて本國政府の己を捨てたることを知り、直ちに辭職して英國に皈るの決心を表したり。卿の此決心を通知するの書狀は本國政府の卿の法令を非認するの公文と海上に於て行違へり。此時ダルハム卿は生來の放膽性急の本色を以てキーベック市なるセントルイ城より宣言書を發し、殖民地人民に向て本國政府の行爲の不當なるを訴へたり。此宣言の本國に達するやタイムズ新聞はダルハム卿を稱してロイド、ハイセヂシヨナー——といへり。當時傳へ稱して曰く英國君主の代表者は反亂の殖民地人民に向て其輔弼大臣の政略の非を訴へたりと。是に於てダルハム卿の召還は勿論避くべからざるのとなり本國政府は直ちに公文を以て卿の英領北亞米利和太守の職を解きたり

ダルハム卿は本國政府の公式の召還を待たずして本國に皈れり。卿の英國に皈るや一個失意の人として來れり。然れども政府の卿に對する汚辱の宣言を不當となすの人々は國民中に頗る多かりき。然れば卿のフリマウスに上陸するや、政

府は官名を以て卿を迎ふるを禁じたりと雖も數多の人民は大に之を歓迎したり。マヨン、スチユアト、ミル氏、ダルハム卿の爲めに輿論を喚起するに於て盡力したりしことを其自傳中に記して曰く、ダルハム卿は諸方より痛く攻撃せられ、其政敵の爲めに讒罵を被り、怯懦なる友人の爲めに棄てられたり。而して眞實卿を辯護せんと欲する人々も辯護の辭を知らざりき。卿は失敗し且つ信用を失ひて消然本國に皈りしものゝ如し。余は其始めよりカナダ事件を尋究したり。余はダルハム卿の賛成者中の賛成者なり。卿の政略は余の施行すべき所の者と殆ど同一なり。余は實に其政略を辯護すべき位置に在る者なり。余は一論文を書して之をウエストミンスター、雜誌に掲げ、卿の爲めに大に辯護し、單に卿の罪の宥恕すべきを説きたるのみならず、却て之に名譽と賞讃とを與ふべきことを主張したり。他の記者は之れを見て直ちに賛成を表し、同一の口調を以て大に卿の功を賞讃したり。後ち幾何もなくしてダルハム卿は其の英國に上陸したる時非常の歡迎を受たるは全く余の論文の功なることを余に陳謝したりしが、其内には幾分の眞理あるべしと余は信ず。余は該雜誌に於て余の述べたる言辭を以て危機一髪の際に於

て人心の向背を決するの力ある言語に類するものと信ず。譬へば高處より石を轉するに方り一指を動かして其向ふ處を定むるが如し。則ち余の言は則ち其第一着手なり。按ずるに是より後政治家としてダルハム卿に關する凡ての希望は消滅したるを見る。然かれどもカナダ政略及一般の殖民地政略に關しては卿の爲めに吾人は大に利益を得たり。即ち卿の政略は正鵠を得たるものなり。而してウエイクフィールド氏の獎説に基きてチャレス、ブラー氏の書きたるダルハム卿のカナダ報告は新時代を開きたるものなり。該報告の言ふ所は完全なるカナダ内政の自治を首唱し、二三年の中にカナダに於て十分の實行を見たるものにして、且つ其後歐羅巴人種の凡て他の諸殖民地に廣く行はるゝに至れるものなり云々」

ダルハム卿の報告は其政敵及び最も多くの公平なる批評家の俱に認めて甚だ有益の報告と爲す所なり。ミル氏の言へる如く此報告は單にカナダのみならず凡そ其他の肝要なる殖民地の政治上の成效及び社會の繁榮の基礎を作れるものなり。該報告は先づカナダに於ける人民の不平及人文の退歩の原因を詳説したる後ち、殖民地の政治は成るべく之を殖民地人民の手中に皈し、殖民地人民をして立

法及行政の事に當らしめ、本國政府は唯だ殖民地と本國との關係に影響を及ぼす事件則ち政府の組織及政體に關する事件、若しくは外國の關係及貿易を規定する事若しくは官有地の處分に關する事件に限り之に關涉すべき事を論じたり。ダルハム卿は又た殖民地に善良完全なる地方制度を設け、又た裁判官の獨立を保ち、殖民地太守及其秘書官を除き其他の官吏は殖民地立法部に責任を負はしめ、更に又た僧侶扶助に關する從來の法律を廢止すべきとを説きたり。最後に卿は上カナダ及下カナダは政治上復び之を合同して同一の立法部を形成し、英佛人種及凡ての地方をして其代議士を立法部に選出せしむべきとを論ぜり。ダルハム卿の報告は又た以上の目的を達するが爲めに法律を制定する場合には更に左の如き規定を之に添ゆ可きとを説きたり。曰く他の英米諸殖民地にして其立法部の請求する所となり且つカナダの同意を得る時はカナダ聯合に加入するを得べしと。斯の如くして始めフォックス氏の不當と考へたる上下カナダの區別を廢し、カナダは一國を成すべき者たり。而してダルハム卿は之をして聯邦組織を採らしむべしといへり。約言するにダルハム卿はカナダをして其内部の政治に關しては

自治の州とならしめ、以て聯邦の萌芽を養成せんとを主張したる者なり。余輩は今我英國政府が漸次にしてダルハム卿の建言の旨意に基く法律を國會に提出し之を通過したる順序方法を詳説するの要を見ず。已にして殖民地事務大臣中の最も柔弱なる大臣クレネルグ卿は國會に於けるカナダ行政の攻撃其一原因と爲りて辭職したりしかば、ノルマンビー卿之に代りて殖民大臣となり、後ち數月にしてマヨーン、ラッセル卿之に代りて殖民省に長官たり。卿は實に十分の熱心と氣力とを有したる人なり。ダルハム卿に襲ぎカナダ太守の職に就き然かも其弟子とも稱す可きをシデンハム卿と爲す。卿は自由貿易の主張者の一人にしてチャールスバウレット、タムソンとして最も能く世人に知らる。卿はカナダの政治を行ふに於てラッセル卿の熱心なる協力を享けたり。已にしてラッセル卿は庶民院に一議案を提出したりしが其目的はカナダ政治の基礎を永久に決定する方策を定むといふにあり。然かれどもダルハム卿の版圖せし後ち叛亂の餘波尙ほ全く治まらずして爲めに一時政治家の注意を惹きしかば、該案も急に通過の運に接する能はざりき。一千八百四十年に至り該案始めて國會を通過し、由是上カナダ下カナダは

ダルハム卿の建言に基きて聯合せらるゝに至れり。其後更に法律を制定して僱保護法を改正し、凡そ諸宗の教會及門徒の一般の扶助を目的として新法律を作らりたり。是に於て近代のカナダ州を形成したる大政策を實行するの道は始めて開けるに至れり。

ダルハム卿は其建言したる政策の成功を見るまでは生存する能はざりき。政府提出のカナダ法案の國會を通過してより數日を経て卿はホワイト島のコウニスに没せり。時に一千八百四十年七月廿八日なり。年四十八を超へざりき。是より先き卿は身軀の健康を害せしが思ふに其カナダ遠征に關する苦痛煩悶は卿の体力を害したるは得て疑ふべからず。卿の如き鋭敏にして且つ倨傲の性質を有する者がカナダ遠征後に於けるが如き屈辱を受けて忍ぶ能はざりしは多言を待たずして明かなり。卿は實に多感多情にして事物に非常の熱心を現はすと共に彼のスイフトの心を苦しめたりといふ。猛烈なる憤怒の性情を有したる人なり。卿は其政治的生涯に大欠點を有せり。他なし克己忍耐の性情を欠きたると是なり。凡そ世の大人豪傑の士は他人の未だ己を知らざるに方りては此忍耐の性情

を以て平然世の毀譽褒貶に當り以て世人の其眞價を知りて毀貶變じて褒譽となるの時を待つなり。ダルハム卿は實に此美德を欠けり。然れども卿の一身上の生涯は失敗に終りしとするも其カナダ政略は赫々たる成功を後世に遺したるものといふべし。即ち卿の此政略によつて殖民地政治の主義確立したるものとす。勿論ダルハム卿の發意して而してシアンハム卿の之を實際の制度となしたるカナダ制度の構成に於ては多少の欠點あるは疑ふべからず。其上下兩カナダを併せて立法上の聯合をなすの規定の如きは實に一時の方便にして唯だ當時の急に應ずるの策として採用せられたるものなるは勿論なり。ダルハム卿は此外別に良法の存するを知らば此を捨て、彼を取りしや明かなり。然かれども卿は當時完全なる聯邦組織の方法を發見する能はざりき。要之に卿の政略の成功は其確立したる主義の上にある。他の殖民地制度はカナダ州の殖民地制度と等しく皆な今日の富強安全の源を此主義に歸するものなり。さればダルハム卿の將さに死せんとするに方りては此等救濟せられたる殖民地人民の感謝の聲は宛然として其耳邊に響きしならんといふも取て空想なりといふ可らず。

第四章 科學及運輸交通の便

九六

イクトリヤ女皇朝の發端は余輩特に近代文明の代表者と稱する科學工業貿易等の上に於ける大發明及其應用の發端と相伴ふを見る。而して其發端に於て電氣力を通信の業に應用し、蒸氣力を大西洋の航行に適用し、且つ鐵道事業一般に發達して一ペニ一郵便制度又た開始せられたるの時代は歴史上に特筆大書するの一大時期たるは勿論といふべし。學者或は此等改良發明の事業を以て人類の眞正の進歩となすの不可を説き、之を以て人類の自利を目的とする極めて下等の動物の性情より出たる者となし、毫も貴重するに足らずと論ずる者あり。世人皆近代文明の機械的進歩をのみ唱道して其他を顧ざるに方りては、此の如き矯激の學者出で、其間に異議を挟み、其所謂文明の事業を罵倒せんとする者あるは必ずしも異しむに足らず。凡そ世間には論理の學を以て機械の學よりも遙かに貴しとなすの人物あるは到底免かるべきにあらず。然りと雖も如何に高大優美の思想を有するの人も、雖も人類の生活を機械の力を借りて一層容易ならしむるを見て好んで其利器を捨て、不便を感ずるが如きは其爲さざる所なるべし。即

ち如何なる哲學者と雖も好むで便利の器械を利用せざる如きことは決してなかるべきなり。在昔ギリシヤ人は尤も美術に心を傾け尤も科學上及器械上の發明を日常の事務に適用するに熱心なりし時に於て國運尤も盛にして人民は尤も繁榮なるを得たり。余輩はイクトリヤ女皇の朝は其文學美術及哲學に於て自ら一時期をなすとを後章に於て觀察せん。今此には其工業的科學の發達を論じて止まんまり、而して余輩今此工業的科學の進歩を觀察する時は其人類生活の狀態を變化すると甚しくして、過去四五十年間の歴史をして其前時代の歴史と全く其趣を異にせしむるを知るべし。即ち我英國に於ても社會人民の生活一度工業上の發明の爲めに變化せられしより、今日の英國社會の狀態は第十八世紀の社會の狀態を去ること實に非常にして、十八世紀後半の社會の狀態か彼のバストン、レタアス時代に於ける英國人の狀態を去るの甚しきよりも一層甚しきを見る。第十八世紀の英國人は數百年前の祖先が海陸を旅行したると殆ど同一方法によりて旅行を爲せり。其通信の方法も亦其祖先と多く異なる所ありしを見ず。而して其市街及家屋の如きもベロイ氏のロンドンに在りし時と大差なく、其點燈の

方法の如きも甚だ之に異なる所なかりしなり。又た空氣流通及灌溉の思想の如きも數百年前の古代と殆ど相似たりしなり。然るに吾人は今日に於て此等の事物全く一變したるを見る。されば今日の人にして試みに五十年前の生活の狀態に返ると假定せば其到底堪ゆる能はざると恰も太古ローマ人がナリテンを占領したる時に溯りしが如くなるべし。即ち彼は一步毎に顛覆して到底何事をもなす能はざるを知るべし。然れば人生日常の事物を以て其心を勞するに足らずとなし高く自ら標置するの哲學者より之を見れば、此社會の變化は道徳上及哲學上何等の價值なしとするも、此變化の歴史上甚だ緊要なるは得て疑ふべからず。吾人若し假りに人生を以て一個の供觀場に過ぎざとなし、大人君子より之を觀れば唯だ其奇妙の變化あるの點に於て多少の趣味あるに過ぎざとなすも、若し古今孰れの生活を好むといはば此等大人君子と雖ども必ずや我女皇朝の初期に於けるが如く其生活の狀態の變化せんことを望みしや蓋し疑ふべからず。

我國に於て教授ホイートストン (Wheatston) 氏及クーク (Cooke) 氏の二氏が始めて傳信機發明の專賣特許を得たる年に於て米國の電氣學者教授モールス (Morse)

氏が同じく傳信機を發明して其國會に補助を請願したるは東西相應するの一奇事といふべし。モールス氏米國々會の採用を得ずして其翌年我國に來り專賣特許を請願したりしが遂に採用せられず。氏は既に時後れたりしなり。此時既に英國人は氏に先ちて其の發明の專賣特許を得たり。後幾許もなくしてユーストンスクアアとカムテン、タウンとの間に電信を架設し之れが試験をなしたり。此試験はホイートストン及クークの二氏が專賣特許を得て後ち直ちにロンドン及北西鐵道會社の手を以てなしたるものとす。彼のロバート、ステフェンソンは此新奇なる試験を見物せんが爲に來りたる一人なりしなり。千八百三十八年に至りロンドン及パーミンクハム間の鐵道は全通を見るに至れり。リバープール及プレストン線も亦た此年を以て開通せり。後ち一年にしてロンドン及クロエドンの鐵道も開通したり。鐵道を以て郵便物を運送するの法律は一千八百三十八年國會を通過す。此年汽車の速力一時間に三十六マイルの速力を以て走ることを得たりとの事實は時間及空間の上に於ける人力及科學の大勝利として、又殆ど信すべからざるの出來事として、社會の耳目を驚かしたりき。

首府ロンドンよりバルチックに至るの距離は二百十哩にして十時間を以て之を旅行するを得べしとの豫望は當時の人心を動かしたること恰かも吾人が少年の時に於て天人仙女の奇談を聞くが如くなりき。而して現世紀の初めの頃に於て此旅行は六十時間を費したりといふの記事と對照して更に一般の趣味あり云々。是れヴィクトリア女皇朝の初年に於て英國の鐵道に關する奇談を吾人に殘したる某記者の言なり。余輩は同じく記者の中より英國及合衆國の間に汽船の航通を開くを得べきや否やといふ當時の問題に關する珍談を發見するを得べし。記者は曰く今や學者間の一大問題たる大西洋の汽船航海を實驗するの準備は非常なる仕組を以て進みつゝあり。思ふに久しからずして四百馬力若しくは其以上の蒸氣力を有する一大汽船は今日の人智の程度に於て能く大西洋を航行するを得べきや否やの問題を決定するを得む。蓋し斯の如き大企業は或は失敗するとなきを保せず。是れ實に諸學者の均しく疑ふ所なり。余輩は成功の希望に於て甚だ熱心なり。而して若し此希望にして失望を見るに至ることありとするも余輩は過去の人智の進歩より之れを推考する時は漸く経験を積み更に發見の才

智を應用するに從て此大航海も甚だ遠からずして成就するの時期あるべきを信す。然るに此経験は完全に成功したり。一千八百三十八年の初めに於てゼシリアス號、セグレート、ウエスターの汽船及ロイヤル、ウガルヤム號の三隻の汽船は英國とニ共對バルチック間の航海を首尾克く成就せり。即ち當時の人の言ふ所を聞くに曰く今や汽船を以て大西洋を航行するの容易なるはロンドン及マルタ島の間を航行するの容易なるが如きに至れり云々。當時クレイト、ウエスターン號は十五日を以てアマステルよりニューヨークまでの航海を成就し。次でシリアス號はマルタ及ニューヨーク間の航海を十七日にして成就したり。是に於て大西洋を汽船にて航海するを得べきや否の問題はクレイト、ウエスターン號及シリアス號の二船によりて決定せられたるが此航海の實際安全なるや否やに關しては更に疑なき能はざりき。是より前七七年間地中海の郵便物は汽船を以て之を運送したるとありしが大西洋の如き海上の一の寄港すべき處もなき大洋を航行するに充分の石炭若しくは薪材を一汽船に積むを得べきや。是れ實に當時の疑問なりき。然るに實際の経験によりて始め出帆の際積み込みたる燃料を以て毫も不足

を告げずして大西洋を航行するを得るの事實は明かなるに至れり。抑も汽船を以て大西洋を渡りたるはシリヤス號及クレイト、ウエスターン號を以て始めとなすにあらざ、是より先き殆ど廿年前ニューヨルクに於て製造したる一汽船サベンナ、號なるもの大西洋を横ざりてリバープールに到着したるとあり。後數年を経て英國製の一汽船は和蘭政府の郵船にして和蘭と蘭領西印度の間を數回航海したるとあり。其後一汽船は亦た喜望峰を回航したるとありと雖も是等の航海はシリヤス號及クレイト、ウエスターン號の航海によりて解釋せられたる問題に關しては實際何等の説明を與ふるに足らず。他なし是等の航海に於ては蒸氣力を唯だ補助として用ゐたるものにして専ら風帆によりて其船を進行せしめたるものなり。されば是等の航海はシリヤス及クレイト、ウエスターン號の航海とは全く其性質を異にするものにして、後者は實に蒸氣力のみを以て大西洋を航海したるものなり。夫れ蒸氣力の單に補助として用ゐらるゝ間に於ては大西洋を航海するの速力及其終航の時間を正確に知る能はざるは明かなり。而して必要なる疑問の存する所は一汽船は能く旅客と貨物との外大西洋を航海するに十分なる

燃料を積載するを得るや否やとの點にあり。シリヤス號及クレイト、ウエスターン號の航海は即ち此疑問を決定せしものなり。後此事に關しては毫も議論の起るを見ざるに至れり。クレイト、ウエスターン號のプリストル、ニューヨルク間の航海を成就したる後二年を経て汽船キウナルドの航路は開かれたり。此時よりしてリバープール、ニューヨルク間に於ける汽船航通はロンドン、プリストル間に於けるクレイト、ウエスターン鐵道の往復の如く規則正しき事業となるに至れり。而して之によりて最も利益を得たるものはプリストルにあらざしてリバープールなりき。此時よりして海上貿易の月桂冠は年を追うてプリストルよりリバープールに移り、今日に至りては世界中船渠の整備して完全なるはリバープールに若くもの一港もあるとなし、リバープールの船渠は之を圍むに壯大堅牢なる堅壁を以てし、水深く幅廣く世界の船舶は其中に幅濶し從來ロンドン若しくはニューヨルクの不完全なる船渠に慣れたる万国の旅客をして感嘆措く能はざらしむ。一千八百三十九年七月五日時の主稅尙書は其豫算案を國會に提出したり。而して豫算案中後世より之を見て尤も緊要なる部分は主稅尙書の提議に係る決議案

なりとす。是れ近代の立法によりて生じたる社會の一大改革を代表するものといふを得べし。主税尙書の提議に曰く「現今の郵便税は之は減じて將來法律に定むる所の重量の文書は皆一ペンスの郵便税となすべし。國會議員の郵便免除の特権は之を廢し官吏の郵便免除の特権は嚴に之を制限すべし。而して現今の郵便の收入に變更を來すより生すべき國庫收入の不足を補ふの方法は庶民院適當の時に於て之を議定すべし云々」と。按ずるに此時に至るまで郵便税は甚だ高くして又た不定なりしものとす。即ち郵書の大小輕重及發着の距離の遠近に従て郵便に差等あり。而してロンドン郵便局は又た特別の郵便制度を有せり。即ちロンドンに於ては他の都府間に行はるる郵便と其税額を異にし全國を通じて文書の郵便は平均五ペンスなれどもロンドンよりアライオンに送る文書の郵便は八ペンスにしてアメルヂンまでは一シルリング三ペンス半、ベルファストまでは二シルリング、四ペンスなり。郵便の輕重は斯くの如く不當なるのみならず。一ペンス以上の書状なる時は更に郵便税を加へたり。而して國會議員に一定の距離内に於ては文書の郵便を免除し、政府の官吏は距離の如何を問はず郵便免除の特

権を有したり。今代の人にして郵便免除の特権如何に寛大にして奇妙なりしかを知らざるものは、當時特権を有する人には單に書状に其姓名を記すれば郵便を免かれ、他人の書状と雖も其姓名を之に記すれば同じく郵便を免かれたる事實を聞きて一驚を喫するなるべし。是れ實に不條理の甚しきものにして約言すれば尤も郵便を拂ふの力を有する人々は皆郵便を免除せられ。郵便を出すの力尤も少なきものは總て二重の郵便を拂ひしものなり。即ち後者は自己の文書を郵送するの費用と他の特権ある人々の文書を郵送するの費用を出したるものなり。斯くの如く當時の郵便制度は不條理を極めたるものなれば、人民は頻りに之れが非理を鳴して不平の聲四方に起れり。蓋し當時の郵便制度は種々の欠點の外別に一種特別の弊害を有せり。郵書の密商と稱するものを奨励せしむ是なり。當時郵便事務を掌とれる官吏は殆ど皆な此不法なる商業を營み私利を計れりといふ。ロンドン及マンチエスタドル間に郵送せらるる文書の六分の五は多年の間此方法によりて郵送せられたりと稱せらる。或貿易商の家に於ては郵便を拂ふに封の書状を以て他の六十七通の書状を無税にて郵送しつゝありしといふ。而して

て斯の如き奸策を用ふるは常に重き郵税を免がれんとするのみにはあらずなり。一葉以上の文書なる時は其紙数の加ふるに従て郵税を加重するの規則なるを以て郵便局の吏員は其郵税外の紙数を封入するとなきや否やを驗する爲め屢郵書を開封して所謂信書の秘密を破りしとあり。人民は之を恐れて遂に奸策を用ゆるに至る者甚だ多かりき。斯の如くなるを以て一千八百十五年乃至一千八百三十九年の間に於て我英國の人口は三割の増加をなし旅客車税の如きは二倍と二割八分の増加をなしたるにも拘はらず郵税の収入は毫も増加することなかりき。外國に於ては此間大に郵税の収入を増加し合衆國の如きは當時及其後ちと雖ども郵便制度に種々の欠點ありて我國の制度と比較して僅かに一日の長ありと稱すべきものなるにも拘はらず其郵税の収入は尙ほ三倍の増加を見るを得たり。

ホル氏は後ちにサア、ローランド、ホルと稱し、我國及凡て文明國の廉價にして一様なる郵便制度發明の功を歸するの人なり。氏の方案は世界の郵便制度を有するの國は悉く之を採用するに至れるものなり。ホル氏は名族の家に生る。其父ト

ーマス、ライト、ホル氏は地方の學校教員にして國民の教育に關しては頗る進歩主義を有したり。氏は科學を愛好し又た政治上及宗教上の自由主義を贊成したり。曾て暴徒の博士フリーストリーの家を襲ふに當り氏は大膽に之が防禦に盡力せしかば當時バルミングハム市に於て頗る勇俠の名を博したり。五人の子ありて各皆實際的改革論者として多少の名を著はしたり。長子はマツシエー、ダヴェンポート、ホル氏といふ。バルミングハムの有名なる慈善家にして監獄改良及年少の罪人感化の事に尤も力を盡したり。第三子はローランド、ホル氏にして即ち廉價なる郵便制度の工夫者なり。ローランド、ホル氏幼にして多病なりしが恰も彼のパスカルの數學の嗜好を幼時に於て現はせし如く氏も亦物を數ふるを好むの性を現はしたり。即ち幼時常に籠前に坐して物數を數ふるを以て其樂みとせり。年長するに及び其父の學校に於て數學の教師となれり。其後南オーストラリア事務調査會の顧問となり南オーストラリア殖民地の組織に關して大に力を盡したり。氏が幼時に於て物數を愛せし性質は成年の後先づ第一に郵便局を通過する文書の數、其人口との比例及其郵税并に之を郵送する全體の費用如何との事に

其意を注きたるや蓋し自然といふべし。ヒル氏が現行郵便制度の改良を行はんとするの念慮を早めたるものは當時の郵便制度の不完全に關する一奇談に基づけるものゝ如し。ヤルチナウ女史此奇談を語りて曰く。

「時人コールリツヂ氏少年の時湖水地方を散歩せしに一日郵便脚夫の一貧家の戸口に於て郵書を一婦人に渡すものあり。婦人は其書を取り之を一見したる後一シルリングの郵税を拂ふ能はずとて之れを返したり。コールリツヂ氏は此書狀の婦人の兄弟より來ると聞き自から郵税を拂ふて婦人の拒むをも顧みず之を受取らしめたり。婦人は脚夫の去るを待つてコールリツヂに告げて曰く妾の一身より云へば君は全く無益に金を費したる者なり。何となれば妾と兄弟との間には密約ありて兄弟は若し無事なる時は一週間に一度白紙を封じて書狀を發すべきを以て其時は表面より一見したる後之を脚夫に返戻して郵税を免かるゝとせよ。此書狀は即ち白紙なり故に君の一シルリングは全く無益に費したるなり」と。世人之を聞きて唯だ一奇談となすに過ぎざるべし。然れども當時之を聞きて深く其事實の真相を觀察せんとしたるものあり。ローランド、ヒル氏即ち

是なり。氏は思へらく我兄弟の男女が斯かる不正の手段を用ひて相互の安否を知らんとするに至りたるは郵便制度の中に必ず非常の欠點あるが爲ならん」と。此後ヒル氏は種々の苦心を経て遂に一大改良案を工夫するを得たり。氏は一千八百三十八年に至り始めて一冊子となして之を社會に發表したり。世人其改良案の甚だ新奇なるを見て驚嘆せざる者なし。此冊子は「郵便制度の改良と其必要及實行」と題せり。ヒル氏の改良案は現行制度に於て實際の文書郵送費は甚だ微少なり。而して距離の大に從て稍々其費用を増加すといふの事實に基きて之を工夫したるものなり。

さればヒル氏の改革案は先づ郵税を最小額に減じ同時に郵送の時間を減縮し且つ發着の度數を更に頻繁ならしむべしとの事を主眼としたり。而して氏の改良案の原則は當時郵便局諸官吏の信じたる所に正反對をなせる者なり。郵便局の諸官吏皆以爲らく郵税の高きに從て郵便局の収入もいよゝ大なるべしと、然るにヒル氏は郵税の低きに從て収入は益々大なるべしとの思想を根據となしたり。是に於てヒル氏はすべて其重量半オンスの書狀は一ペンニ一の郵税を課すると

となし。内國に於ては距離の遠近を問はず皆此税額に一定すべしと主張せり。郵便局の官吏は之を見て最初は一步も譲ざるの勢なりき。驛遞總監リッチフィールド卿は貴族院に於て論じて曰く「從來の見聞したるすべての荒唐無稽の改良策の中ヒル氏の策の如きは尤も甚だしきものなり」と。卿は更に説きて曰く「氏の策の如くむば郵便局は從來の十二倍の郵便物を郵送するとなり、其費用は現今の十万磅の十二倍となるに至るべし。是に至りては郵便局の屋壁は破裂すべし。構内の地面は到底郵書及其取扱人を容るゝ能はざるに至るべし」と。余輩は今日より之を見て此議論の奇怪なるに喫驚せざるを得ず。リッチフィールド卿は此改良策は一般公衆の歓迎する所なるが故に之を實行すべからずと説くものなり。卿は當時改良論者の預期するが如き夥多の郵書は決して郵便局に來るとなかるべしといふ普通の論據を採らざりしなり。卿は郵便局に於て到底之を處理する能はざる程夥多の文書を見るに至りべしと論ぜり。今卿の論を簡明に説くときは左の如くなるべし、曰く「郵便局の官吏は到底斯の如き改良策を實行するの困難に當る能はず」と。是れ實に無稽の甚しき議論といふべし。他の郵便局の官吏は

ロチルマバレー氏の論は卿の論に比し幾分か穩當なり。氏の言に曰く「余は本局の長官に向て常に此改良案の到底失敗すべきとを説けり。此改良策を實行するに方り本局の長官の本局全體の妨害によりて其成功を見る能はざるが如き失躰なからんとは余輩の忘るべからざる義務なり。余は竊かに信ず後日に至り此改良策は我政府の之を實行するを欲せざりしが爲め失敗を被れりとの世評必ず起るとあらん。されば後世に至り余輩郵便官吏が此の改良策を實行するを好まざりし爲め政府の上に非難を負はしむるが如きは政府の官吏として余輩の忍びざる所余輩は常に斯の如き失敗を避けんことを勉めざるべからず」と。蓋し當時シドニー・スミス氏の如き剛健不羈の思想家と雖どもなほヒル氏の改良策に反對し其所謂卓越にして且つ概ね意見を異にする老友ノア、ワルバートン氏を喜ばす爲に奇怪なるペンニイ郵便制度を實行して一百万磅の收入を失ふを非常に不得策となしたるを見れば、郵便官吏の如き淺見の人々が毫もヒル氏の改良策の前途を見る能はずして必ず失敗すべしと信じたるは殆ど怪むに足らずといふべし。ワルバートン氏は當時ブリックフォルト選出の國會議員にして他の一議員ワレー

ス氏と共にホル氏の意見を熱心に賛成したる人なり。シドニー、スミス氏は更に説きて曰く「余は進歩黨の内閣を稱揚す、余は此内閣が革命以後の他の諸内閣よりも更に善良の事業をなしたるを信ず、然れども今日斯の如き讓歩をなすに至れるを見て其微弱なるの徴候にして、且つ有識者をして喫驚せしむるの事實たるを信ぜざるはあらず」と

右スミス氏の語によりて之を見るも當時の内閣は世人の預期せし所よりも稍々容易にホル氏の説に従ふの傾向ありしを知るべし。ホル氏の冊子始めて世に顯はるゝや、政府は郵便事務を調査する爲めに既に委員を設けて之が調査に従事しつゝありしなり。委員會はホル氏の改良策の現はるゝを見て直ちに之を取て調査し、郵便局の官吏が其大に収入を減少することを論せしにも拘はらず、之に賛成の意を表して報告書を作れり。國會に於てワレース氏は此改良策全軀を調査するの動議を起し、且つホル氏のいふ所の郵税の賦課徴収に關する方法を特に調査すべきとを發議したり。而して調査委員會の成るや詳細の調査をなし、遂に郵税の統一及印紙を以て之を拂ふの方法を賛成するの報告書を作れり。ホル氏は始め

チャールズ、ナイト氏の助言によりて、郵便印紙の方法を取るに至りしものなり。然り而して政府は頗ぶる熱心を以て此改良策を迎へ、其年の國庫収入は稍々不足を告げしにも拘はらず、更に郵便制度改良によりて或は生せんとする収入の減少をも忍ばんとせり、而して商業社會は改良策の自家に非常の利益ありといふを聞きて大に喜んで之を迎へ相共に之が賛成運動に奔走せり。シドニー、スミス氏が政府の改良策を採用せんとするを見て單に其老友ワルバートン氏を喜ばすに過ぎざと思惟せしは實に誤解の甚だしきものなり。當時改良策を賛成して之が採用を請求するの請願書は商業社會より雨注し若し永久に之を採用する能はずとせば經驗の爲め暫時之を實行すべしと論するに至れり。是に於て政府は遂に意を決して三議案を國會に提出するに至れり。本案はホル氏の意見を表面より採用したるものにして先づ直接に女皇陛下の公務に屬する官文書の外は一切郵税免除の特權を廢せんとしたるものなり。本案は更に又國內に於ては總て距離の遠近を問はず、重量半オンスの郵書は四ペンスの郵税を課すべきとを規定したり。次で一千八百四十年一月十日重量半オンス以下の郵書は皆な一ペンスの郵税

を課するととなしたり。此改良の第一方案は國會の兩院に於て反對なき能はざりき。ウエリントン公の如きも之に反對の意見を有せる旨を説けり、然かれども公は政府既に明らかに此改良策を實行するの決心あれば、貴族院も先づ之に反對せざるを可しとすといへり。庶民院に於てはサー、ロバート、ピール及ゴールバアソンの二氏之に反對を唱へ均しく其の國庫の收入を大減するを攻撃せり。然れども改良案は遂に國會を通過して法律となれり。其の結果の果して如何なりしやは、左の事實を見て之れを推知するを得べし、即ち郵税の苛重なりし最後の年一千八百三十九年に於て、大ブリテン及愛爾蘭に於ける郵書の數は八千二百万通に過ぎずして其内五百五十万許りは無税にして國庫の收入に毫厘の利益なかりしに、一千八百七十五年に至りては英國に於ける郵書は實に十億通以上の多きに及べり。而して人口の増加は此間に於て殆んど二倍するに至らざりしなり。サー、ロバート、ピール氏の郵制改革の主義は今日世界の各文明國に於て沿く行はるゝに至りしとは既に前言せるが如し。余輩更に數言を加へていはんとす。始めローランド、ヒル氏が之が實行を我が英國に唱道せし時に當り、世人の爲めに殆

むど狂人と目せられたるを免かれざりし廉價の郵税は、久しからずして万国普通の郵税となりて世界人民を利益するの時機至らんと。即ち始めロンドンよりサセックス若くはヘアート、フォード、シャイヤ等に文書を郵送するに之を採用して十分利益あるべしと主張して當時の財政家を驚怪せしめ又冷笑せしめたる、小額の郵税を以てロンドンよりサンフランシスコ若しくは日本の東京に郵書を發送するの時代は久しからずして來るべしと。按ずるにペンニー、ポスト即ち一ペンニーの郵税制度は必ずしもサー、ロバート、ヒル氏の始めて之を工夫したるものにあらず。其以前に於ても斯くの如き制度は時に英國に行はれしとあり。一千六百八十三年の頃に於て一ペンニーの郵税を以て文書を郵送するの法は既にロンドンに於て行はれたるとあり。其後幾年をへて政府亦た同様の方法を採用したるとあり。加之一千〇八年に於ては一ペンニーの郵税を多しとして更に半ペンニーの郵税をロンドンに行はんとしたる者あり。然れども其後幾干もなくして政府の方針は此主義を排斥し。郵税を高くするの傾向を生ずるに至れり。されば一千七百三十八年博士ジョーンソンは書をクリフ氏に送り願くは一ペンニー

の郵税を以て君の先きの詩を出版するや否やを通知するの時あらんとを希ふといへり。此時に至りては政府既に一ペンニーの郵税を改めて二ペンニーとなし。後ち漸くにして地方と首府との郵税を區別し、且つすべて郵税を増加するを務むるに至れり。一ペンニー郵税の時代より久しき以前に於てもプリストル市の舊紀を見ればプリストルよりロンドンに一ペンニーの郵税を以て文書を郵送したることを記せり。然りと雖ども當時の一ペンニー若くは一千六百八十三年に於ける一ペンニーの郵税はローランド、ヒル氏の工夫したる一ペンニーの郵税と大に其價格を異にするものにして唯だ其名に於て同じきのみ。實際近代の一ペンニー制度と古代の一ペンニー制度とは全く異なるものなりと謂はざる可らず。

第五章 券狀黨及び其主義

既に前章に於て述べたる如く女皇陛下の始め位に即くに當りて科學工業等の上に大發明頻りに行はれて女皇の御宇は吉兆を以て始めれりと云ふと雖ども、顧みて一面より之れを觀察すれば女皇の御宇は必ずしも慶事のみを以て開始せられたるにあらざるを知るべし。即ち我國社會の狀態は頗ふる暗黒を以て蔽はれた

るを見るなり。一千八百三十七年より八年に至るの冬は實に我國家社會の上における一大痛苦の時期たり。當時我國に於ては佛國文人の所謂下等社會と稱する一階級の中には唯ださへ不平怨望の起るべかりしに年少女皇は輕薄驕奢の大臣の抱擁する所となり貧民の饑餓に泣くの時、於て此大臣は悞樂を以て女皇の歡心を求め毫も百姓の疾苦を顧みずと云ふの風説は一般に行はれたれば下等社會の怨望は一層の大を加へたり。當時斯くの如き風説を事實と信ずべき理由は全く之れなかりしは明かなりと雖ども、此風説は勞動社會及び貧民の間に一般に行はれ、之れがために下等社會は貧乏の苦痛の上に想像の惡政の痛苦を加へたり。是時に當り國民の教育の如きは政府殆んど之れを顧みず。又經濟學の法則の如きは少數の學者のみ僅かに之れを解せしのみ。而して世人の是等の學者を見ること後世の人々が骨相學者若しくは魔術師を見るが如くなりき。左ればトム及び其の徒黨の社會を騒がしたる事件の如き或記者は之れを以て當時人民の非常に無智蒙昧なるの確證となせり。トム(Tom)は破産したる釀酒家にして又實に狂人たり。嘗てカンタヒエリー(Canterbury)及びケンント(Kent)の内外に徘徊して異様

の服装をなし、自からパウダーハムの城主サアウイリヤム、コーテナー(Sir William Courtenay of Powderham Castle) マルタの士爵、マニルサレムの王、マフシー人種の王等の名を稱したり。彼は又自から政治上の大改革家と稱し一時愚民の之れを信用して幫助するもの頗ぶる多きに至れり。後ち癲狂病院に送られたりしが、其の解放せらるゝや恰かも第二の救世主の現はれたるが如く愚民の前に現はれ來れり。是に於て愚民の中之れに服し仰て其の頭領となすもの頗ぶる多きに至れり。彼がクントの貧民の中に其の勢力を得たるは主として其の新救貧法を攻撃したるに由る。此救貧法は當時人民の之れを畏悪すること最も甚だしく殆んど狂せんばかりに之れに反對したるものなり。トムは此等の人民に向て我は全世界を改造するの使命を受けて來れり、又新救貧法の痛苦より我徒黨を救ふがために來れりと揚言し、遂に貧民の己に信服するものを囂聚し、之れを率ゐてカンタピユリーを襲撃せんとしたり。警官の來て之れを鎮壓せんとするやトム自から其の一人を銃殺したり。此報カンタピユリーに傳はり二隊の兵士は鎮撫のため派遣せられたりしがトムは復た自から其の指揮官を銃殺したり。第二軍之れを見て直

ちに進んで暴徒を撃ちトム及び其の従者を殺せしかば騒動は忽にして止みたり。暴徒の若干は其の後殺人罪を以て問はれ有罪の宣告を受けたりしが其の無智蒙昧を憫れむものありしかば遂に死を免かるゝを得たり。トムの死を去ると多年を経るも尙ほ其の徒黨はトムの再び蘇生して其の使命を果すの時あるべしと信するもの甚だ多かりしと云ふ。トムの事件は實に怪誕無稽にして笑ふべく又痛むべきの一慘事なりと雖ども是れ必ずしも我女皇の御宇の初期に於ける空前絶後の事變なりと云ふを得ず。嗣後世に至りても彼のチクボーン蠱惑事件(Titchborn-enchanted)の如き更に荒誕不經の事變を見しことあり。今日に至りても開化せる日耳曼の社會黨の中には尙ほ其の本尊たるフアルチナンドラッザル(Ferdinand Lassalle)の再び蘇生して其の首領となり社會の改革を實行すべしとのことを信するの男女頗ぶる多きを見るなり。トムの事件はグライトリヤ女皇の御宇の開始に於ける一慘事たるは勿論なりと雖ども余輩は是れよりも更らに寒心すべき政治社會上の一大危事あるを見るなり。此事やトムの如き異様の服装をなせる狂人の起せしものよりも又無智蒙昧の貧民の信仰せしものよりも一層危険にして又深き

根柢を有するものなり。試みに左に之れを説かん。始めヴィクトリア女皇の即位を去る僅かに數週にして急進黨はパルシンクハムに一大集會を催し一の宣言書を議定したり。後ち券狀黨(Chartists)の請願書と稱するもの即ち是れなり。此時よりして券狀黨(Chartists)の主義は我國の政治社會を動搖する一大勢力となるに至れり。此運動は今日に至りては毫も政治上に其の勢力を残す所なしと雖ども其の歴史は充分之れを詳序するの價値あり。此運動が實に十年間我英國を動搖したるものにして其の勢力の盛なるに當りては我國の政治及び社會上の制度に對して凡ての下等社會を反亂せしめんとしたるものなり。當時もし我國にして難を外國と構ふるか如きとあらんには此運動の非常に危険なりしや得て疑ふべからず。此運動は無智の人民の熱心なる同情を得たるのみならず他の學問智識あるものも多く之れに賛同したるものあり。此運動は當時の勞力社會の中に鬱積せる一切の不平に訴へたるものにして野心ある政治家は之を利用して一時の名譽を博するを得たるは勿論なり。政治上の改革及び教育の強健明確なる基礎を得るに及んでは此狂暴激烈の運動は自然其の勢力を失墜

して遂に消滅に歸せしと雖ども其の當時にありては實に政治社會の一大勢力なりしなり。此運動は又政治家に一大教訓を遺したり。他なし政治上の激昂運動は其の要求する所に一道理あるにあらざれば勢力は保つ能はず又生存する能はず換言すれば其の要求に道理あるの故を以て畏るべく又成立するを得べきものなりと。券狀黨の運動起るに方りてや全國の貧困無智の人民は數百千人相呼號して之れに加はりたりと雖ども彼等は其の運動の政治上の目的及び主義の如何なるものなるや其要求は如何なる眞價を有するものなるやは毫も之れを知らず。彼等は貧乏なりき。彼等は過度の勞力をなせり。彼等の賃銀は低廉なりき。彼等の生活は全く憐れむべく痛むべきものなりき。彼等は漠然として以爲らく此券狀にして政府の採用を得は更に優等の食物及び賃銀を得べく更に輕易の勞働をなすを得べし又貴族及び政府の官吏は彼等が斯くの如き利益を得るを以て之れを許可せざるなりと。斯くの如き妄想を抱ける人民は政治上如何なる恩典を與ふるも殆んど満足するの時なかるべし。若し其の要求する券狀にして一千八百三十八年に許可せられたりとせば一千八百三十九年に至りては乃ちまた前の

如く新に不平を起すべし。然れども是等貧民の不平は唯だ貧民の不平として孤立せしむるときは毫も國家に危害を與ふるものにあらず。然れども他の政治的團體の相當の理由あるが如く見ゆる要求を有するものの後援となる時は實に恐るべきものなり。然れども斯くの如き團體は政治上に於ける實際の弊害を政府に於て救治したるときは自然消滅に歸すべきものとす。又無智の人民の漠然たる不平は如何に自然にして理由あるが如く見ゆるも貧民の不平其もののみにては政治上に於て甚だ畏るゝに足らず。唯だ他の政治團體の多少の改革を主張し其の改革は政府之れを行ふを得べくして而かも排斥したる場合に於て貧民の不平其の團體を助けて其の勢力を増長するときに於て最も畏るべしとなす。世の政治家中政府假令ひ道理ある改革の要求を満足せしむるの改革を施すも一方に於ては之に満足せざるの不道理なる不平家は尙ほ絶ゆることなければ道理ある改革を施すも遂に何等の効なかるべしと論ずるものあり。是れ實に政治上に於ける俗論愚説の甚だしきものにして世を害するの最も大なるものなり。道理ある人々を爾の味方となせよ而して道理なきの不平は毫も畏るゝに足らざるなり。

これ券狀黨の運動が政治家に教へたる一大教訓にして吾人の永く服膺すべき所なり。

一千八百三十九年十一月廿四日エヂンバラ市(Edinburgh)の懇親會に於て時の檢事總長サージョンカンベル氏券狀黨の主義の滅亡したるを説きこれが冷評的弔辭を陳べ券狀黨は既に消滅したる政治的運動なりと云へり。然るに其の後十數日を出でずして此時まで未だ嘗て見る能はざる大勢力を以て券狀主義は天下に發表せられたり。而して爾後券狀黨の運動は殆んど十年の間英國の政界に於ける一大騒動力となるに至れり。カンベル氏にしてエヂンバラ市の宴會に於て其の友人及び選舉人に演説するに券狀主義の勢力は當時正さに人の耳目を惹き始めたりと云はゞ氏は余輩の今日想像するよりも多少鋭敏の政治家と稱するを得しならん。然れども券狀黨は消滅したりと云ふに至りては實に迂濶を極めたる者にして政界の真相を誤認すること斯くの如く甚だしきものは古來未だ之を見る能はざるなり。蓋しカンベル氏は唯だ一個精敏の法律家にすぎずして決して政治家たる資格を有せるものにあらず。又決して大なる政治的智識を有せる

ものにあらず。故に券狀黨に關する誤想も余輩は之れを不問に附し去るべきのみ。然れども當時更らに學問智識を有するの人と雖ども己の好まざる政治問題を見ること概ね皆なカンペル氏と其の趣きを同じふし粗放迂濶の人たるを免かれざりしものなれば、氏の誤想は即ち當時政治家の狀態を説明するに足るものとす。蓋しカンペル氏は當時二三の暴徒起りて而して直ちに逮捕せられ、法律は其効を現したるを見て券狀黨は既に亡びたりとなせしなり。氏は券狀黨の訴ふる所の原因に就て同情を表する能はず。之れを見て漠然匪徒の不平に過ぎずとなしたれば、此時に至りては既に一切鎮定に歸せりと信ぜしなり。即ち氏は當時漸く社會を騒がし且つ其の後多年の間國家を騒動したる券狀黨の運動には必ず其の原因あらんことを想像する能はざりしなり。又假りに氏をして此問題の原因を探求せんとの心を起すことありとするも氏は到底正當の判断を得ること能はざりしや明かなり。凡そ人をして其の境遇及び感情を全く異にする他人の境遇及び感情に一時其の身を投じて之れに全情を表せしむるの性質即ち之れを假稱すれば戯曲的天性は、眞个の政治家に必須欠くべからざるの要素なり。然れ

ども此性質は第二流以下の政治家に絶へて無くして僅に有る所のものなれば、カンペル氏にして假りに券狀黨の問題に注意することありとするも、多くは無智貧窮なる一群の匪徒が其の不幸を訴へつゝあるを見るの外又何等の發明をもなす能はざりしや明かなり。且つ其の所謂不幸は以て實際の不幸となすに足らずとなせしなるべし。氏の券狀問題を見る即ち斯くの如きのみ、蓋しカンペル氏に限らず凡そ當時の地位名望漸く進まんとする法律家にして人民の不平を以て毫も其の原因なきものと信ずるときは必らず惟はん世の良民は徒らに騒動するものにあらず、政府が其の權力を帯びてこれに靜謐なるべしと命するときは乃ち鎮靜じて再び不平を唱ふるに至らざるべしと。然れども若し所謂戯曲的天性を有し他人の困難に同情を表するの人ありて之れを觀るときは券狀黨の運動も決して二三の人を逮捕して處刑するを以て止むべからず。又一箇富榮の檢事總長の詰責に遭ふて鎮靜するが如きことなき所以を看破すべし。即ち券狀黨の運動は原因にあらずして結果なるを看破すべし。且つ夫れ公平の心を以て此問題を觀察するものは何人と雖ども券狀主義は實際の困難不幸に陥りたる人々の漠然たる

不平を發表したるものなることを覺悟すべきなり。夫れ今日に至りては吾人既に政治的空論の時代を經過したり。往時吾人の祖先を感奮せしめたる政治的用語は今日に至りては殆んど無意義となれり。吾人は人権なる語を聞きて冷笑す。吾人は往時人民なる語が國會に代表權を有せずして王室の特權のため又貴族のため壓制を被ふれる不幸の人民の一群を意味せし時代に於て此語の果して如何なる意義を有せしやを知る能はざるなり。吾人は今日に於て自由なる語を口にすると殆んど稀れなり。人ありもし自由の剝奪と云ふことに關して一理論もしくは講談を試みんとするあらば直ちに其の所謂自由の科學的定義は如何との質問を受けて困却すべし。即ち此人は嘗て若干の勞力者が其の所謂革命なるものに同情を有することをジョン・スチユアート・ミル氏に陳べんと欲してミル氏のために醇々革命とは何ぞや其の全情を表する革命は如何なる種類の革命にして如何なる故ありて同情を表するやとの反問を受けて迷惑したると一般の地位に陥らん。然りと雖ども所謂民權若くは自由等の語が今日何等の活意義を有せざればとて往時に於ても亦均しく何等の活意義をも

有せざりしものと信ずるは大に謬れり。此等の語は今日英國に於て何等明確の思想を包含せずと雖ども古にありても然るべしとは云ふを得ず。ミル氏が英國の勞力者に向て反問したる革命なる語も其始め佛蘭西及び歐洲大陸に行はれたる時に當りては甚だ明確にして又意義深遠の語たりしなり。即ち革命なる語は當時の人々より之れを見れば今日吾人が自由貿易もしくは法皇全權なる語を聞くと同じく直ちに明確切實なる一思想を表はせしものとす。即ち革命と云ふことは當時すべて歐洲を通じて國王の專制權を顛覆することを意味したるものにして又最も之れを言明するに恰適せし言辭たり。而して當時斯くの如き充分の意味を有したるがため今日に至りては無意義となれり。所謂人民もしくは人権もしくは勞働の權利等の語に關しても亦た之れと異なる所なきなり。是等の語は今日に於て皆な空虚にして無意義なり。然れども其の今日に應用する能はざるは全く其の往時に應用せられたるがためのみ。

一千八百三十二年の議院改革案は蓋し必要上階級問題なり。此の改革案の英國の立憲制度のために大功あるは多言を須みず。當時若し政府に於て讓歩する所

なくんば遂に革命を免かるゝ能はざりしならんも此改革案のため斯くの如き慘禍なきを得たり。改革運動の盛なる時に於て政治家の熱心に又最も眞面目に討論したる一問題即ち英國の憲法は代議制度を基礎とするものなるや否やの問題は本案に依て永久に之れを決定するを得たり。今日の人より之れを見れば我國の憲法に代議制度の主義あるや否は狂人と雖とも之れを疑はざるべしと思はん。然れども改革案の討議中に於ては代議主義を否認するは本案反對者の一大論點にしてウエリントン公の如きも之れを否認したるの一人なり。此等の人々は曰く『我憲法の大主義は君主が國事を諮問せんとするものを隨意に國會に召集するの權あるを認むるものにして即ち君主の意志によりて代表權の有無を定むるものなり』と。此思想は議院改革案のため全く掃蕩せられたり。改革案は五十六の指名もしくは腐敗ポロイを廢し(指名ポロイとは國王もしくは政府の指名したる候補者を選擧するのポロイを云ふ)他の三十のポロイの代議士を半減し別にカウンチーに六十名の代議士を加へマンチエスター、リーズ、バクミンガム及び其他の三十九の繁盛なる大都會の從來の代表權を有せざるものに議員を出すの權を

與へたり。一千八百三十一年三月ジョンラッセル卿が改革案を提出したる時演説せる如く一の腐敗したる土堤にして二名の代議士を出し、石壁中の三箇の穴隙にして二名の代議士を出し、其内に一戸の家屋もなき一公園にして尙ほ二名の代議士を出すの時に於て是等の大都會は實に一名の代議士をも出す能はざりしなり。改革案は又ポロイに於て十ポンドの價格ある家屋所有者に選舉權を與へカウンチーに於ては土地の借地所有者及登記所有者にも選舉權を與へたり。然れども本案は勞力社會に殆んど全く選舉權を與へず、單に之を與へざるのみならず從來特別の規定を以て若干の勞力者が有したる選舉權をも之を奪ひたり。例へばランカッシャーイヤーのプレストンの如く多少普通選舉に類せる特別制を施行し來れる地方に於ける勞力者の選舉權の如き是なり。改革案のため此種の選舉權は全く掃蕩せられたり。要するに改革案は從來貴族及土地所有者の共有したる特權を破壊し中等社會に參政權を與へし者なり。是に於て代表の權は從來の如く貴族的社會の專有物に非ずして貴族と中等社會の間に分配せらるゝに至れり。議院改革案の規定する所斯くの如くなるを以て當時の勞力社會の最も有力なる

代表者の言を借りて之を云へば、改革案のために勞力社會は嘗だに遺棄せられしのみならず、又參政權外に運び去られしものなり。而して改革案の因て以て通過するを得たる一大勢力たる人民の激昂運動は主として勞力者の維持したる所なりしかば、其の斯くの如く度外に拋棄せられたるを見て其動功を想ひ、益々憤怒激昂したるも其理由なきにあらず。且又改革案討議の時に當ては所謂佛國革命の大波瀾は大に人心を動搖し、改革運動の貴族的首領と雖も猶ほ之れか爲めに其精神を動搖せられたるを免れず。即ちリホテル氏 (Richet) の所謂革命主義の種子は廣く天下に撒布せられたれば山嶺にも山下にも均しく之を見るを得たりしなり。されば改革黨の中若干の人々は急進主義に走ること後世に於てコナデン若くはフライト氏等の主張せし所よりも尙ほ甚しきものありしなり。例へばダルハム卿の如き即ち是れなり。故に其眞意義は如何なるものなりしや姑く之を措くも、勞力社會より之を視れば改革案にして猶ほ此後に峻拒せらるゝか如きあらば、人民の躍起運動の勢力の如何に強大にして猛烈なるやを示すに必要なる手段を採るに躊躇せずとのことを意味するか如き政説を唱道して之を勞力社會に訴

ふるもの一二にして足らざりしなり。

一方に於て斯くの如き意見を唱説して之を勞力社會に訴ふるものあるに當りて、勞力者は又一方に於て改革案討議の時に於て彼等の勢力は一の恐嚇的勢力として改革論者の背後に保存せられたるものなるに、改革案一たび通過せられてより、彼等は乃ち全く拋棄せられたりとのことを信じたり。夫れ然り、是を以てヴィクトリヤ女皇の即位せし時に當りては總て大都會に於ける勞力社會は皆非常の失望不平の念を起し、女皇に對しても輒忠愛の念を欠くものあるに至れり。是に於て、勞狀黨の運動は改革運動に次て起れり。始め貴族社會より來りて改革運動の領袖と爲りたる人々は或は排斥せられ、或は自から隱退したるものあり。其の中若干の人々は其の始め成さんとしたる事業を成就したることを自信して快く隱退したるものあり。而して一方に於て勞力社會より出てたるもの若くは更に上等社會の中より排斥せられたる人々は勞狀黨の運動に於て煽動者と爲るに至れり。勞狀主義は自由黨の領袖か國家に於て議院の改革は之を將來に行ふを欲せずとの事を公言したるの結果として勃興したるものと稱するを得べし。而してヴィク

トリア女皇の始めて國會を開會したる時に於て此問題は實際の試験を始めたり。即ち庶民院に於て急進主義の一議員は敕語奉答文の修正として一助議を起し、匿名投票の選舉及び國會改選の期を短縮するの議を提起したり。當時之に賛成せるもの二十名に過ぎず。又ジョン・ラッセル卿は將來再び改革問題を起すの企圖に總て反對する旨を公言したり。此公言は多數人民の怒憤失望を來したるは固より論なし。彼等は改革案其者は將來更に大改革を實行すべき最初の手段に過ぎずとの事を初めより確信せしなり。然るにジョン・ラッセル卿は庶民院に於て此後尙ほ改革を行ふは始め改革案の通過を助けたる人々に對して信義を失ふものなりと明言せり。之に反して院外の人民は即ち曰く『自由黨の首領が將來に改革を續行せざるは人民に對して信義を欠くものなり』と。余輩を以て之を觀れば此點に於てラッセル卿の意見是なり。此後尙ほ議院改革を遂行するは到底其の爲し能はざる所なるは甚だ明かなり。我國の如く各社會の利益互に其權衡を保ち殆ど相平均するの國に於て急進の運動を政治上に試むる時は之に次て反動の起るべきは自然の數なり。是時國會に於て政府黨の首領は既に改革運動に對す

る反動の勢力漸く現はれんとするを見たり。此際に於て更に重大の改革を行はんとして上等社會及び中等社會の賛成を得んことは到底望むべからず。然りと雖も顧みて一方を見れば始め改革案の通過に重大の幫助を與へたる下等社會の感念は此に在らずして彼に在り。彼等が改革案一たび通過したる後、前途を望めば茫乎として自家を利すべきものなく、却て其政治上の位置を高むべき改革事業は之か爲め中止せられたるを見て遺憾の情を起したるは必ずしも智者を待て之を知らざるなり。

是に於て國會に於て急進の意見を言明したる自由主義議員の若干は勞力社會の領袖と會議を開き一の宣言書を議定したり。是れチャーター即ち人民の券狀として天下に知られたるものなり。券狀の名はオーコンネル氏始めて之を唱道せるものゝ如し、民嘗て勞力者協會の幹事に謂て曰く、『こゝに諸君の券狀あり。諸君は之を以て運動し、之を得るを以て目的と爲し、之を得ずんば死すとも已まざるの決心を爲せよ』と。然り而して凡そ政治運動に於て嶄新の名稱を發見するは一大力にして新小説に新名稱の必要なるか如く新運動には新名稱の最も必要な

るものなり。人民の券状(Peoples Charter)といふ題目は即ち其名を以て一大運動の開始を意味することを得べし。

余輩今日より虚心平氣に之を観察すれば人民の券状は其の言ふ所甚だ畏るべきものありしを見ざるなり。即ち其中には毫も火藥の臭氣を帯ふるを見ず。券状の要目は六條より成る。男子の普通選挙其一なり、當時之れを單に普通選挙と稱せり。然れども其意は男子の普通選挙なり。何となれば當時券状黨は婦人に選挙權を與ふるの思想を毫も有せされはなり。第二は國會の毎年改選なり。第三は匿名投票なり。第四は財産資格の廢止なり。是れ當時及び其後多年の間國會議員の一被選挙資格たりし者なり。第五は議員の有給制なり。第六は選挙區の平均なり。此六條の中二三條は全く正當の意見なり。而して六條中實際政治家の全然排斥するを得べきもの一もあらず。皆著實に之を研究するの價値あり。特に其三條は實に我國立憲制度の一部分と爲りて今日に實行せらるゝを見る。即ち現今の選挙法は其實質に於ては男子の普通選挙法と見做すを得べし。吾人は又た匿名投票の選挙を行ふと既に久し。議員の財産資格の如きは今日は既に全

く廢せられたり。否な余輩は廢止の言を之に適用するを穩當なりとせず、寧ろ財産資格は其弊害と非理との故を以て自然に消滅したりといふの更に適切なるを覺ゆ。夫れ財産制限の存する時と雖も、無資格者を國會外に全く退くるを得ざりし者にして、當時皆な種々の計策を以て制限法の羈束を脱し法律の効用毫も舉らず。されば反則者の行爲は不正破廉耻と見做すべきものなきにあらずしと雖も、制限法其者の不正非理なるは適さに以て天下公衆をして反則を以て却て正當となすの心を起さしめ、平生篤行の人と雖もなほ其收入を詐り、所得を飾るを以て密商の酒を買い、レースを買ふと同じく毫も罪とするに足らずと信するものありき。全國を平均の選挙區に別つるの議は一大問題にして今日と雖も其是非を定むるに至らず。然りと雖も我が代議制度の早晚此方針に於て改正を見るに至るべきは殆んど疑ふべからず、議員に俸給を與ふるの議は斷じて不可なり。國會の改選を毎年行ふの議も亦た之に反對せざるを得ず、何となれば斯の如きは政治家を以て非常の迷惑を感せしめ、政治生活の殆んど堪ゆ能はざるを思はしむべければなり。然かれども此問題も亦た一概に之を排斥すべきにあらず。一の政治問題

として十分研究するの價值あり、唯だ今日に於て之れが是非の論に耳を傾くる者多きや否やは、余輩の知らざる所なり。券狀黨は之を大別して三派となすを得べし。政治的、券狀黨、社會的、券狀黨及び無所屬派是れなり。甲は選舉權の擴張を目的とする一定の政治的運動者なり。乙はパン税に反對するより此運動に加はりたる者なり。此二派は其目的頗る明瞭にして且つ其要求する所も正當にして道理ある者あり。一として皆な政治問題として多少の研究を値せざるものなきなり。無所屬派は自家の困窮に不平を起し、漠然雷同したる者にして政府及立法者に反對するの聲尤も高きものを仰で首領となし必ずしも一定の目的あるにあらざり。而して券狀黨は須臾にして二種に分るゝに至れり。即ち道德主義及腕力主義是れなり。今券狀黨運動の領袖及賛成者を以て單に騷動を好み私利を計る煽民家と爲すは甚だ不正の論といふべし、其中には大才異能を有し雄辯を有するの人もあり。又は多情の年少詩人あり。學者あり。精神家あり。而して何れも皆な眞面目に其運動に熱心したる者とす。黨中第一の亂暴者フイーヤーカス、オーコンノル氏の如きも、なほ眞面目にして、券狀主義の爲めには大に其の財産を失へりと

いふ。彼れ實に奇異醜怪の人物にして、券狀黨の運動に尤も害毒を與へ黨外の人をして、疾惡の念を起さしめたるは實に此怪物なりとす。券狀黨の運動終りてより四五年を経て白髮四眼の一巨人が花を摘み其香を嗅き奇異の運動を爲して、コベント公園の街衢を徘徊しつゝありしは即ち此人にして曾て大名を天下に博し世人の畏惡を受けたるフイーヤーカス、オーコンノルの末路なり。彼は其没するに先ち狂人となれり、彼が庶民院に於て奇怪の舉動を爲すに當りてや何人も未だ其狂人となりしを知らず。呆然として之を眺めたるとあり。幾許もなくして彼の全く狂人となれるとは明白となれるに至れり。蓋し彼は早くより狂氣の侵す所となりて、其の政治上に於ける怪行奇事は畢竟狂氣の漸く増長したる結果なるべきは殆んど疑ふべからざるに似たり。彼は其得意の時に於ては實に一種煽民家の標本たり。彼は容貌魁梧にして非常の腕力を有せり。且又學問ありて始め上等社會に交り其家門亦た名族に屬せり。彼はに常フイルランド王の後裔なりと稱せしが多少の據る所なきにあらず。彼れ始め風流の人にして壯年の頃は豪奢の生活を爲したり。彼は一種の雄辯を有し無智の人民を感動せしむるに尤も長じ

たり。されば當時彼の意見若しくは人物に毫も重きを置かざるの人にしてなほ彼が如き煽民的雄辯家は未だ見しとなしといふものありき。彼れは勇猛無前にして、選挙競争の時の如き孤立して大多数の保守黨に角逐し毫も譲る所なし。トーマス、クーパー氏は券狀黨の著名なる詩人なり。曾て其の自傳に於いてオーコンノルの事を記せり。曰く「彼はノッチングハムの選挙競争に於て反對保守黨に屬する屠人の群衆中に車上より飛び込み木葉を拂ふが如く之を驅除して進めり。而して此時彼に従ふものは僅かに二人の券狀黨ありしのみ云々」と。又曰く「保守黨の群羊は彼に従ふ券狀黨の人々を盡く追ひ拂ひ遂に彼を倒したり。余の心は震動したり。何となれば余は保守黨の群羊の彼を殺さんとを恐れたればなり。然るに彼は忽ちにして再び人波の中より赤頭を擡げ以前の如く猛然として闘へり」と。

券狀運動の中にはオーコンノルの如き大怪物よりも遙か高尚の徳性を有する者頗る多かりき。即ちトーマス、クーパー(Thomas Cooper)氏の如き漢思に富むの詩人あり。ヘンリー、ビンセント(Henry Vincent)氏の如き高潔の性質を有し、材能に富み且つ

辯論に長ずるの人あり、氏や實に今日に至るまで其の名聲を維持するの人なり。又たエルナスト、ジョンズ(Ernest Jones)氏のごとき誠實にして獻身的の人物あり。氏は其言語よりも事業に於て誠實の人物たるを證し、其材能は殆んど天才と稱するを得べかりしなり。蓋し當時の學問知識ある人々と雖も、券狀黨の要求は正當の理由に基くものありて、勞力社會の困乏は殆んど言語に盡す能はざるが如くにして、國家全體の社會人民を代表するの國會は之が救済に盡力するの當然なるを看取したる時は、此運動に實際協力する能はずとするも多少之に同情を表するに至るべきは自然の理といふべし。斯くの如き人々は決してオーコンノル一輩の人にあらず。皆な國會の内外に於て名聲を有し政治上高等の位置に立ちしものなり。されば券狀黨の精神に於ては、如何に純潔の政治的及び詩的熱情の存するありしやを知るが爲め、又當時の勞力社會を驅りて之に加入せしめたる貧困の狀態の如何に慘怛たりしやを知るが爲め、クーパー氏の自傳の如き書を讀むは甚だ有益にして又必要の事といふべし。又エヴネズナル、エリオット(Evener Elliot)の非廢物條例の歌を讀んで當時パン税の勞力社會の爲めに如何に嫌惡せられ彼等が

之を以て一階級の利益の爲めに維持する所の偏頗なる法律と見做したる所以を知るも亦た甚だ緊要なり。蓋し是等の勞力社會の目より之を見れば當時英國の憲法は唯だ困難の勞働と半饑饉とを意味したる者なりしなり。

是時に當り勞狀黨の機關新聞は盡く起て其運動を保護したり。フエーヤガス、オ
 ンコンノルの所有監督に屬せるノルザン、スターア新聞(北斗星)は其勢力人望最も大
 なりき。而して何れの都會も皆勞狀黨の機關新聞あらざるはなかりき。勞狀黨
 は又た各所に集會を催はし席上往々にして激烈の言語を以て演説する者あり。
 彼等は夜間松明を以て集會するの例を開き會場に赴く者は概ね武器を帯びたり。
 而して過激の徒輩は干戈に訴へて其目的を達すべしと主張する者往々之れ有る
 に至れり。バルミンクハム Birmingham に於て、政府官吏の勞狀黨の運動を鎮壓せ
 んとするに方りてや、乃ち一の騒動を惹起したり。エヴェネチザル、エリオット氏及
 其他有識者の勞狀黨に同情を表する者は激烈の腕力に訴へて其の目的を達せん
 とするの愚を切に諭したる者ありと雖も、當時の勢は激烈の演説をなす者は從て
 益々人望を得るの狀なりしかば、有識者の言も殆んど之を制する能はず。勞狀黨

と中等社會の自由黨及び非穀物條例黨の領袖との間に一致運動の計畫を試むる
 者ありしが、勞狀黨の過激なる爲め皆な失敗に歸したり。即ち勞狀黨は決して其
 勞狀を抛棄せざるなり。且つ黨中腕力に訴へて勞狀の許可を見んと公言する者
 頗る多かりき。是に於て政府は勞狀黨の領袖及過激の演説をなす者を處刑して
 之を鎮壓せんと欲し、若干の人々を捕へて之を嚴刑に處したり。ヘンリー、ピンセ
 ント氏亦た捕はれて、ウエールス(Wales)のニューポート(Newport)の獄にあり、勞狀黨
 は之を救ひ出さんとして、遂に一大暴擧を企てり。此一擧や實に叛亂に近き運動
 たりしなり。

ニューポートの周圍には礦業に従事せる人民甚だ多く、而して工夫は當時實に腕
 力勞狀黨の大部分を占めたり。是等の腕力派は部署して三隊となり、期を刻して
 一所に集まり夜半後二時を以て、ニューポートに向ひ監獄を襲ふてピンセント及
 び其の他の同志を救ひ出さんとの約を定めたり。而して其の指揮者はフロスト
 (Frost)氏たり。フロスト氏はニューポートの商人なり。始め一官吏たりしが激烈
 の政治演説をなしたるを以て、職を免ぜられたり。此時に至るまで氏は實に性質

品行共に方正の人なりき。暴徒の事を擧るの期は實に一千八百三十九年十一月十四日なりき。而して斯の如き企圖は概ね相互の誤解若しくは躊躇を免かれざる者なるが此一擧も實に約の如くなる能はずして、一隊の人々は期に及で會する能はざりき。是に於てか暴徒のニューボートに入るや政府は既に十分の準備をなして之を待てり。フロスト先づ第一隊を率ひて市に入り第二隊少しく後れて進みしが、第三隊は甚だ後れて事を共にする及はず。既にして暴徒と政府の兵隊及警吏との間に戦闘起りしが、暴徒は忽ちに撃破せられ、死者十人、傷者五十人を出して逃走せり。遂に後れて至る第三隊の一部に遇ふ。此騒動に於てニューボートの知事及其廳吏兵卒等の勇氣を奮ふて暴徒を斥けたるは實に稱すべき者ありき。知事フィリップス(Phillips)氏は銃創二を被れり。翌日暴徒の首魁フロストは捕はれ共謀者の若干も又た捕はれたり。千八百四十年六月六日其審問を開きしが、罪状は實に謀反罪なりき。蓋し此暴徒の一擧は單にピンセント等を救ふを以て目的とせし者にあらず。別に一大叛亂を企て、大に爲す所あらんとせしは疑ふべからざるに似たり。腕力派券狀黨は是より先き既に此叛亂の計畫を談じつ

ゝありしなり。當時腕力派の數殆んど一方に達し皆な銃鎗劍斧等の武器を携へたり。若し誤解若しくは躊躇の爲め、其計畫に齟齬を生せずして、定期に集會したらんには實に畏るべきの結果を生じたるや得て疑ふべからず。彼等の罪實に重且大なり。されば陪審官は首魁フロスト(Frost)、ウィリアム(William)及びジョーンズ(Jones)の三人を謀反罪に問ひ、死刑の宣告を爲したりしが、後ち死一等を減じて、終身追放の刑を以て之に代ふるに至れり。是れも亦た其後減刑せられ、若干年の後ち券狀主義の勢力既に亡ぶるや、フロスト氏は許るされて英國に歸るを得たり。氏の英國に歸るや時勢全く一變し、世間又た全く氏を忘れたり。此時に當りて非穀物條例の運動は既に成功し革命の時代は全く無事にして経過し去り、フエーヤーヤガス、オーコンノルの時代は遠く昔時のことと爲れり。

然りと雖もフロスト、ウィリアム及びジョーンズの審問及所刑は當時以て券狀黨の運動を中止せしむるに足らず。否な啻に中止するの効なかりしのみならず却て其勢力を助長し、運動の範圍は益々擴張せらるゝに至れり。トーマス、クーパー氏の如き以前は未だ曾て券狀黨の集會に出席したるとなく。新聞紙によりて知

るの外勞狀主義の何たるを未だ知ざりしが、ニューボートの一舉あるや氏は集會にも出席し其他従前とは大に其舉動を異にするに至れり。是れ其一例なり。此時に當り政府は實に強硬策を以て勞狀黨に對するを怠らず、全國の勞狀黨の重立ちたる人々は或は捕へられ、或は處刑せられ其數幾百の多きに上れり。然かれども勞狀黨の領袖の處刑は偶々以て其人望を高うして益々勞狀黨の運動を猖獗ならしめ、政府の目的は全く齟齬したるを見る。之れと共に政府の不入望は益々大となり、勞働社會は益々進歩黨に反對の氣を高め、皆な以爲らく、進歩黨の始め自由主義を唱道したるは唯だ自家の目的を達せんか爲めのみ。其中心に於ては反つて保守黨よりも非自由主義に傾けり。勞狀黨の領袖にして處刑せられたる者、刑期終りて出獄するや乃ち再び一人の俠雄を以て目せられ、同時に勞狀主義の運動を益々猖獗ならしめたり。一千八百四十一年の國會改選に於て勞狀黨の大多數は、其過激なる領袖の意見に基き全力を傾けて、保守黨を助け遂にメルボルン内閣を顛覆したり。且又一方に於ては都會及地方に於ける勞力者の一般の不平は大に勞狀黨の黨勢を擴張せしめたるや論なし。製造業の行はるゝ諸都會の中に

は非常に貧窮せる職工及び編物師等あり。賃銀は到處に低廉にして、彼等は到底自活する能はず。又農業地方に於ては新救貧法の不正を訴ふるの聲尤も激烈なり。彼等は其主義に於ては必ずしも是ならず。或は又は過大の言によりて煽動せられたるものなきにあらずと雖も其勞狀主義の運動を助くるに於て新たに一大勢力を供したるは得て疑ふべからず。是時にあたりて勞狀黨は中等社會及其政治上の首領を信任せざると尤も甚しく、當時正さに勃興しつゝありし非穀物條例の運動の如きは、其性質諸都會の貧民の中に尤も熱心なる賛成者を得べき者なるに、却て之が爲めに排斥せられ或は之に正面の反對をなす者さへありき。勞狀黨の温和なる一人曾て之に對する自家の感情を陳べたるにあり。曰く「余輩は穀法の排斥に反對せず。否な余輩は我が勞狀の許可を得たる後は穀物條例及其他の惡法律を廢棄すべきなり。然かれども今若し諸君にして自由貿易論者を助くる爲めに勞狀運動を休止するが如きとあるも、自由貿易論者は後日勞狀の許可を得んが爲め、諸君を助くるとなかるべし。我勞狀黨の諸君は決して再び中等社會に欺かるべきにあらず、諸君は初め議院改革案を通過せしむる爲め中等社會を助

けたり。而して當時彼等が諸君に向てなしたる善き約束は何くにあるか、再び彼等の詐欺に耳を傾くる勿れ。願くは諸君の券状を固持せよ。諸君は参政權なくしては全く一の奴隸のみ云々と、蓋し當時券状黨は其自然の領袖に棄てられたるを信ぜり。彼等既に有議の首領を戴くを得ず。是に於てか社會主義の風は頻りに其中に侵入せり。彼等の中には憤怒失望の餘り邪言盛語頻りに行はるゝに至れり。トーマス、クーパー氏當時諸都府の券状黨の工人中に行はるゝ、猛惡の感情激烈の精神を説明するに足るの一奇話を記せり。クーパー氏は其友人と共に一日レイセスタアに於て集會を催ふす。席上宗教熱心の貧しき編物師あり。先づ起て衆人に告げて曰く『願くは諸君今少しく忍耐せよ。全智全能の上帝は確かに諸君を速かに救ふべし』と、坐中忽ち大喝する者あり。曰く『全智全能の上帝を説くを止めよ。斯くの如きものはなきなり。若し之れありとせば、彼は今日の如く我々を困窮ならしむるとなかるべし』と。忽ちにして先きの編物師はクーパーの家に飛び込み、暴ら／＼しく椅子に身を投げかけ叫んで曰く『余は速かに絞死せんと欲す、此二日間余は冷かなる芋を食ふて生活したり、今朝は全く餓えて生芋を食

せり。願くは一片のパンと一杯の珈琲を與へよ、然からざれば余は餓死すべし』と。クーパー氏の此時の狀を記するの記事は頗る簡明にして力あり。券状主義に關する氏の記事は克く券状主義の情狀を盡したるものなり。其一節に曰く『日曜の夕、マアケルト、ブレイスに於て余の爲す講論は今や如何に激烈になりしぞ、余の心は今や屢々憤怒を以て焼くが如し。余は之を言明する方法を知らず。余は全く同感の情より他の更に激烈にして粗暴なる人々と同様なる劣等の思想に陥いらんとするの傾向を覺ゆるに至れり』云々。

斯くの如くにして券状黨の運動は進行せり。余輩は之に伴ふ一切の事件を詳説するを須みず。或地方に於ては、製造場の同盟罷工となり。或地方に於ては社會黨の大集會となり。其黨員の熱心は往々にして高尚美德の光采を發したるものあり、或は全く飲酒を禁じて、其目的を達せんとしたるものあり。曰く『我輩勞力社會が克己の性に富み、自由を與ふるに足ることを自から證明するにあらざれば、我輩の運動も成功すると能はざるべし。願くは飲酒を禁じて、十分克己の性あるを天下に示さん』と。又一方に於ては失望不平の餘り上帝なしと斷言して不信教の徒

となる者あり、或は一揆騒動を企つる者あり。而して彼のフロスト及其徒黨の如く公然叛亂を企つる者は、再び出でざりしと雖ども、政府をして復た刑獄に依頼せざるべからざるまでに治安を妨害し社會を騒動する者は頗る多かりき、政府の彼等を逮捕繫獄するや頗る残酷を極めたる者ありき。クーパー氏の在獄談は悲惨にして殆んど讀むに堪へざるなり。當時政府が獄吏をして徒らに囚人を虐遇せしめたるは、其意果して何くにありや、是等囚人の過誤は如何に大なるにもせよ。其中心は明かに正直にして誠實なる者なるに、徒に之を獄中に沈吟せしむるは余輩未だ政府の見を知る能はざるなり。當時券狀黨は、少なくとも諸都會の勢力者を代表せし券狀黨は其中心に於て英國の政治を以て全く貧民の困難に無頓着なる貴族及富人の利益のみを計るものと見做せしは明かなり。又た一方に於て所謂貴族即ち貴族富人の尤も多くは是等券狀黨を以て、狂暴放恣殆んど制すべからざるの種族となし、之をして其好む所を爲さしめば、王位を顛覆し國教を破滅し、凡て社會の秩序を破壊するの匪徒なりと信せしや、又た明かなり、即ち二者各々他を誤解して互に畏惡の念を斷たざりしなり。ヂスレーリ氏が其小説中に説ける如く、

當時英國は實に二國民に分れたり、貴族と貧族と即ち是れなり。此區別は少なきども諸都會に於ては明かに存在したるものにして兩者各、異邦敵國の互に相畏惡するが如く、貴族は貧族を畏惡し、貧族は貴族を畏惡せしなり。

第六章 宮女問題

既にしてメルボロン内閣の運命は益々傾けり、サーロバート・ピール(Sir Robert Peel)氏は其黨人を集めて各處に大集會を催ふし、之に向て自から保守黨を改造したりと稱し、大に天下に向て其黨勢を誇張せり。さなきだに進歩黨の位置は日々困難に陥り、佛人の所謂黨議なるもの殆んど盡き、更に天下に向て新主義の發表すべきものを有せず、彼等其初めに當てや國政の改革者にして、政權を取りしものなるが今や更に改革の以て天下に唱道すべきものを見ず。夫れ英國の政事に於ては改革の後には必ず之れが反動を來たすは古今一轍にして、何れの改革者と雖も必ず其事業に伴ふ反動を免かるゝ能はず。されば時に當り進歩黨も亦た其改革事業に對して反動を招き之に對するの策を運らざるべからず。單に反動に對するの策を運らざるべからざるのみならず、更に之れが防禦を力めざるべからざ

るものあり、前年クラッドストーン氏の其改革案を通過するや氏は直ちに之れが反動の勢力に逢着せしが、メルボルン内閣の進歩黨及び卿の位置と當時のクラッドストーン氏の位置とは大に異なる所あり。クラッドストーン氏は改革を成就して其黨員の要求を充たすを得たり。乃ち氏は自家を利する爲めに黨員を利用して一旦其目的を達せし後ち黨員を棄てたりとの怨望を黨員より買はざるを得たり。然るにメルボルン内閣の進歩黨の境遇は之れと異なり、急進の自由派及び券狀黨の全躰並びに一般の勞力社會は皆な進歩黨を厭惡して之を攻撃したり。初めダルラム卿が進歩黨内閣の下にありて尙ほ政治的勢力たるを得し時に於ては、自由派の人々は多望を内閣に擧げたるものありしと雖ども一旦卿の勢力衰ふるに及びては彼等皆な進歩黨内閣に對する利害の念を失へり。而して一方に於てオーコンノル氏の幫助はメルボルン卿及び其黨員に取つて毫も利益なきのみならず反つて非常の不利を之に與へたり。

進歩黨内閣の位置、境遇既に斯くの如くなるに、其大臣は更に種々の失策に因て益々其位置の困難を加へたり。第一ジャマイカ處分法案は彼等を驅りて非常の迷

惑の位置に陥らしめたり。本案は一千八百三十九年四月九日之れを國會に提出したるものにして其目的は五年間ジャマイカの國會を停止し、該殖民地の政治は一時之れを其太守及行政會並びに三名の有給官吏に委任し以てジャマイカ島の政治を一時執行するにあり。換言すればメルボルン内閣は五年間ジャマイカの憲法を中止するの議を提起したるものなり。而して何れの地たるを問はず一時其立憲政治を中止せんとするに至りしは進歩黨内閣の怯懦も亦た甚だしと謂ふべし。斯くの如き政策は當時或は其の必要ありしならむ、然れども進歩黨若しくは自由派の内閣にして之を行はば、其羞辱を買ふべきは當然のみ。而して之れが爲め其政敵に利益を與へ、之れをして攻撃の便を得せしむるは又た甚だ明かなり。則ち自由主義若しくは進歩主義の政府にして憲法中止若しくは專制政治を實行して舊保守黨の政略を襲踏するが如き事あらば、所謂自由政治の名何くにあるや、また進歩主義の實何くにあるや。彼のラベガス (Laberge) 大臣となりて其君に世の不平を鎮壓する唯一の方法は大砲を使用するにありと、斷言せる時其君モナコテ (Monaco) は果して爾の言の如くんば、余は舊大臣及舊專制主義を維持するも亦た可

なりと云ひしが、我が英國の自由主義の内閣にして憲法中止の策を行ふが如きは之れと其趣きを同うするものといふべきのみ。

按ずるに當時の進歩黨内閣がジャマイカ法案を提出したる苛酷の政略に就きては、多少恕すべきものあり。奴隸貿易の廢止以後ジャマイカ島の人民は直ちに其法律に規定するが如き事を實行するとを得ず。則ち彼等は縱令法律に規定すればとて其從來の奴隸が法律上俄かに己等と同等の人民となりしを見て中心より其然る所以を了解する能はず。アメリカ南北戦争及び奴隸解放の後米國の南部諸州に於て、吾人が之を實見せし如くジャマイカに於ても其人民は名義上放抛したる權利を實質に於て復び之を得んとを力めたり、此事や固より不正にして恕すべき所あるを見ず。然かれども人情の上より之を見れば實に不得已のあるなり。亦は一方に於てジャマイカの黒奴の中には其新たに權利を得たることを了解せざるまでに、無智蒙昧なるものあり。或はまた其權利を主張するに於て、喧騒に過ぐるものあり。則ち殖民地人民は奴隸解放前に同じく黒奴の男女を苦役し鞭撻するものあり、而して黒奴は之を訴ふるの權利あるを了解せざるものあり。或

は其新に得たる平等の權を主張するに於て遠慮もなく狂呼するものあり。此際
に於て太守及び官吏一般に奴隸を保護するに熱心なりき。而して、其結果はジャ
マイカの國會と本國政府の代表者則ち太守及其官吏との間に始終紛争を起すに
至れり。而してジャマイカ國會は日一日より狂暴專恣となり。本國國會がジャ
マイカの監獄改良を目的として一法案を通過せしが、本案其者は甚だ必要なりし
に、ジャマイカ國會は之れに服従するを拒みたり、斯くの如き事情の下に於てメル
ボルン内閣はジャマイカの憲法中止の議を國會に提起したるものとす、當時ピ
ル氏及保守黨は之に反對を唱へ多數の急進派議員も之に反對したり。反對者の
論ずる所は政府斯の如き過激の手段を施さるもなほ穩當なる方法は他に夥多
之れありといふにあり、而してメルボルン内閣は當時全く信用を失ひたれば、斯く
の如き政略を實行するに十分の多數者を國會に得る能はず、則ち内閣は甚だ微弱
にして信用なければ何人とも雖も之に向ひ石を投ずるを得たり。されば本案の票
決に及びて内閣は僅かに五名の多數を得たるのみ、是れ實際の失敗なりしかば内
閣は遂に辭職するに至れり、當時内閣の失敗は疑ひもなく屈辱にして其辭職は不

得己のことたり。然るに彼等は其後直ちに復職し、其復職の事情や實に前の屈辱をして益々甚だしからしめたるを見る。而して之れが爲め内閣將來の運命は以前に比して遙かに困難の域に沈みたるものとす。

進歩黨の復び内閣に入りたる事情は、甚だ奇異なりしものとす。而して余輩は之を單に進歩黨の復職といふべく、復権と稱するを得ざるなり。何となれば彼等は決して復び實際の權力を得たるものにあらずればなり、抑も進歩黨は何に由りて復職を得たるやといふに彼の宮女問題と稱せらるゝ有名の爭議に因て奇怪にも復び内閣に入るを得たるものなり。初めメルボルン卿の辭職するや、女皇はウエリントン公を召して、内閣の組織を命せしが、公は保守黨内閣の政治を行ふの大困難は庶民院にあるを以て、庶民院に大勢力を有するロバート、ピール氏を召して之れに内閣の組織を命せんとを奏したり。是に於て女皇はピール氏を召す。ピール氏の召に應じて來たるや、女皇は淡泊に之に告ぐるに、其前大臣の行爲は全く其贊成する所なれば、今之を野に退くるを悲むと雖も、憲法上の慣例に従ひ、其辭職を許るし、ピール氏に内閣の組織を委任することを以てせり。此言は眞面目にして嚴

格なるピール氏に取りては寧ろ驚くべき所なれども、氏は年少女皇の淡泊なる言を聽きて不快に感ずるが如き人にあらず。是を以て其内閣員として女皇に薦奏すべし人々に關しては、商議も容易に纏まるべき形勢なりしが、ピール氏の宮廷の女官に注目するに及びて、意見の女皇に合はざるものあるに至れり。則ちメルボルン卿の夫人及びメルベス卿の妹が最も女皇に近侍するの女官なるを見て之を黙々に付する能はず。當時保守黨の政略を行ふに於て尤も困難とする所は蓋し愛爾蘭にあり。愛爾蘭に於ては保守黨の政略は進歩黨の政略に全く反對せるものなり。而して前の愛爾蘭太守は則ちノルマンビー卿にして、愛爾蘭大臣は則ちメルベス卿たり。今ピール氏が内閣を組織して愛爾蘭政略を行はんとするに當りて已れたる反對の意見を有する政治家の妻若しくは妹が女皇の周圍に侍して之れと最も密接の關係を有するを見て甘心する能はざりしは固より當然と知ふべきのみ、此意見も最初より女皇の明知する所となりしならんには別に非常の困難を内閣組織の商議の上に見るとなきを得たりしなるべく、亦た二人の貴女も斯くの如き事情の下に從來の位置を保たんとは思はざりしなるべし。然るに不幸

にして此點に關する商議の初めに於て双方の間に誤解を來したり。ピール氏の意は唯だ宮中に高官を有する貴女の解職を望みしに過ぎず。決して下級の女官を悉く免せんと欲せしにあらざ、則ち女皇の寢殿に侍する高等の女官以下は必ずしも之を更替せんとしたるにあらざ。然るに或事情の爲め女皇はピール氏の眞意を了解する能はずして、以謂らくピール氏は其主義の上より凡て女皇の親近せる女官を悉く免せんとの意見を有せるものなりと。是に於て女皇はマヨノン、ラッセル卿を召して其意見を諮詢せしにラッセル卿は亦たピール氏の眞意を知らず、表面の事情に従て其意見を述べたれば女皇は遂に意を決してピール氏に對へて曰く「朕は從來の慣例に背き亦た朕の感情に悖ると思惟するの手續に同意する能はず」とピール氏また固く其意見を取りて動かず、是に於て保守黨内閣を組織するの機會は滅びたり。而してメルホルン卿及び其同僚は呼返されて復び内閣を組織することゝなれり。因て彼等は内閣に會議を開き朝廷及び宮中に大官高職を有する國會議員は内閣の更迭と共に進退すべきものなれども、其女皇陛下の宮中に侍する女官は内閣更迭の爲めに、影響を蒙るものにあらざるの議決をな

したり。

此問題は自然國會の兩院に於て討議の問題となるに至れり。蓋し此問題に於てロバート、ピール氏の意見は疑ひもなく正當にして若し氏にして他の誤解を招くとなくして其眞意のある所を明かにするを得たらむには何人も之れに抗爭するものはなかりしならんも、氏は余輩今日より之を觀れば甚だ晒ふべき誇大の言を以て自家を辯護し、此宮女問題を恰かも其内閣の名譽のみならず一國の安危に重大の關係を有するが如く論せしかば、従つて種々の反對者を生ずるに至れり。ピール氏は曰く「諸君請ふ試みに往時に遡つて之を觀察せよ、譬へばピット若しくはフォックス若しくは其他我國の大臣を假定して考一考せよ、則ち今茲に人ありて國家の大事に責任を有するの大臣となるに當り、他人の妻而かも最も畏るべき政敵の妻が君主に最も近侍する官職に在るを見て之を黙々に附して獨り大臣と爲るを得べきや。否々余は到底其能はざるを知る。余は決して之れに同意する能はず。理想よりも更に力強き感情は斯る場合に於て余の英國の大臣となるは余一個の名譽の爲め亦た公共の利益の爲めにあらざることを余に告ぐ」と。ピール氏の

如き感情の爲めに激越すると最も少なき政治家の口より斯くの如き言語の出でたるは寧ろ怪むべきに似たりと雖も、一方に於てメルボルン卿も亦た向しく誇張の言を以て自家を辯護せしなり。曰く「余は左の理由によりて復び内閣に入る。他なし余は國歩の困難及び不幸の際に於て我君主を棄つる能はず。特に人の女皇の到底同意する能はざる要求を女皇に向て請求するの時に於て余は決して我年少女皇を後に顧みて去るを欲せず。此等の人々の要求は實に女皇の一身上の名譽と兩立せざるのみならず若し之に従へば女皇の治世をして常に政黨の消長盛衰に因て影響を蒙り、女皇内廷の生活をして常に不幸不快の生活たらしむるは明かなり云々と。

此問題は大に國家の人心を動かし是非の論紛々として四方に起れり。自由派の論者は或は曰く「斯くの如き問題に於て君主の感情如何を顧慮するは甚だ非なり。國務大臣は自から國家の利益と信する所を行ひ、君主は專ばら大臣の意見に従はざるべからず」と。又一方に於てオースコンソル氏の如きは女皇の決心を贊稱し、上帝に向て其の所謂年少女皇の幸福を祈れり。氏の言に曰く「年僅かに十九の年少

女皇は精神純潔にして清白なると雪の如く此問題に處するに方りては其頭腦に問はずして脉々たる少女の感情に訴へたる者なり。是時に當り多年女皇に侍し、女皇の幼時に於て之を保育し其病疾の時に於て之を看護し、女皇の漸く成長して容色の美日月と共に増長するを見て無上の樂を爲したる年來の侍女が將に宮中を退はれんとするを見て女皇の心は乃ち其脉々たる柔情を以て女皇に告ぐるに若し女皇にして此等の侍女と離別するを得ば心其者ども離別するを得べしとの事を以てしたるは固より怪むに足らず。是時に於て女皇たるもの焉ぞ能く此等親近の侍女を舍つるを得んや云々と。又フイヤガス、オースコンソル氏の如きは更に一步を進めて放言して曰く「若し保守黨の人にして新任の女官を宮中に入れたるに於て年少女皇を其掌中に獲るか如きあらば彼等は直ちに之を顧して殘忍なるカンパネラ公を王位に即かしむるに至るべし云々と。而してオースコンソル氏は是時年少女皇に侍する女官のメルボルン内閣の愛爾蘭策に贊成者たること及びビートル氏並びに保守黨が之に反對の意見を有することと信する所以を聲明して毫も感懐する所なかりき。又オースコンソル氏の言は今日より

之れを視れば愚妄殆ど笑ふに堪へずと雖も、亦た當時の有識者は同じく之れを以荒唐無稽の言と爲したるへきは明かなりと雖も、一般人民の中には之れを以て正鵠を得たるの言と爲したるもの甚だ多かりしは得て疑ふべからず。即ちピール氏の宮女更迭を主張するは其意女皇を掌中に收め、之に因て縱令廢立を行ふに至らざるも凡て自由主義の意見に對し女皇の心を毒し、以て保守黨得意の陰謀を遂げんとするに在りとの意行を有するの人々は決して國民中に慥なかりしにあらざ。

メルボルン卿及び其同僚を攻撃するの斯くの如き好機會に於てプローハム卿の黙視せんことは到底あり得べからざる所なり。乃ち卿は大にメルボルン卿を攻撃し君主一身上の感情の爲めに自由主義及び國家の利益を犠牲に供したるものと爲したり。プローハム卿は曰く「余輩今日まで我國を以て君主及び國會の智識を以て其政を行ひ、君主一身の感情の如きは國家の政治に於て全く之を口にせざるの國と信せり……余は一千八百三十九年の進歩黨が我黨は女皇の周圍に陣地を作り、庶民院の如きは之を念頭に置かず、一切の議案政策を顧みず、政治主義は

之を大に投與し、國民の信任は之を度外に附し、唯だ王位の周圍に陣して自家を防守するを專一とせよと言ふべしとは思はざりき。余は又斯くの如き言語が專ら國王を愛して其官職を獲るを務め、國民は王の爲めに存するものにして王は國民の爲めに存するものにあらずとの主義を懐く非立憲的保守黨の口より出でずして進歩黨の口より出でんとは思はざりき。始めマヤマイカ處分法案は當時必要緊急の政策として國會に提出せられたり。政府は其存亡を賭して之か通過を務めたり。然るに遂に之を通過する能はず。故に政府は其の全く庶民院の信任を失へることを信じたり。當時政府は實に之を以て緊急必要の議案と爲せしなり。今日に至りて此議案は果して必要緊急の度を減じたるか。嗚呼彼れも一時是れも一時なり。マヤマイカ問題は一轉して新奇と爲れり。主義は凡て之を拋棄したり。而して是れ皆女皇の寢殿に侍する二貴女の故を以てなり云々と。是時に當りヴィクトリア女皇はメルボルン卿及び其同僚の爲め最も不可の位置に陥りたるものなり。夫れ當時人民の宮女問題を考究すること益々深ければ、ピール氏の正しくして政府の非なること愈々明かなり。ピール氏は始め其真意の在

る所を明かにする能はず、又年少女皇の當時の位置は古來其類例を見ざる所にして、大臣責任の主義純粹の意義に於て我國に行はるゝに至りしより未だ婦人にして王位に上るものなかりしかば、此問題を決するに足るべき先例を發見するの困難なりしは明かなりと雖も、世人の注意細心して此問題を研究するに從て、ドール氏の意見の正當なることは益々明かなるに至れり。然れは何人と雖も始め進歩黨の取りたる位置を辯護する能はず。進歩黨も亦た實際可成的速かに退かんとを望みしなり。而して此問題は其後皇嬪アルバート親王の發議したる所に本つき双方の交譲を以て僅かに決定するを得たり。其條件に曰く。

「向後内閣更迭の場合に於て女皇は宮中の組織に關しては新任首相の意見に聽き從來の女官の反對黨に密接して在野黨の首領をして其就職して國家の政治を行ふに不便を感せしめたるものは辭職せしむべし」と。

然り而して進歩黨の復ひ内閣を組織するに當りては既に全く國民の信任を失墜したるものなれば、今後其職に留まるには新たに一種のサヤマイカ處分法案を製して之を國會に提出し以て多少其面目を裝飾せざるべからず。彼等は始めサヤ

マイカに對し相當の處分をなすにあらざれば其職に留まる能はざることとを公言せり。今復ひ内閣を組織するに及んでは即ちサヤマイカに對し或處置を行はざるべからざるは自然の數なり。是に於て彼等は一種の新法案を提出せり。是れ其通過に便せんか爲め前議案に大改良を加へたるものにして本來のサヤマイカ法案とは全く其面目を異にせるものなり。蓋し宮女問題のためサヤマイカ問題は全く度外に付せられサヤマイカは本國の力を借らずして自から其政治を行はざるべからざることとなれり。本國の政治家は更に重大の事件に其心力を注がざるべからず。サア、ロバート、ピートル氏はノルマンビー夫人宮中に在るの間は國政を行ふ能はず。進歩黨は夫人なくしては國家を治むる能はず。本國の政治家は此大問題のために全くサヤマイカ問題を抛棄するに至りしなり。然りと雖どもメルボルン卿及び其同僚が復職してサヤマイカ法案に關し其最初の位置を棄てたるの一事を以て之を攻撃することフローハム卿の如く殘酷なるは果して其當を得たるものなるや。メルボルン内閣の動作は果してフローハム卿の殘忍なる非難を償するや否や。余輩は必ずしも其然るを認むる能はず。メ

ルボルン卿にして謀こゝに出でずんば何を以て當時に處するを得べかりしや。蓋し卿等にして其復職を拒むとせば其結果はピール氏庶民院に於て少數黨たるの事實明白なるにもかゝはらず起て大臣となるの外なかるべし。而してピール氏は其政敵の仁心によるにあらずんば到底庶民院に位置を保つ能はざるは明なり。然れども當時は決して政治上に於て政敵の仁慈を望むべき時にあらず。故に假令ピール氏にして内閣に入るも唯だこれ庶民院に於ける反對投票の爲めに直ちに辭職せざるべからざるに至るは明かにして即ち氏は唯だ辭職するため首相となるにすぎず。一千八百七十三年クラッドストーン氏のアイルランド大學法案に破れたる時の境遇はメルボルン卿の當時に於ける境遇と頗る相似たるものあり。クラッドストーン氏の大學法案に破るゝや直ちに辭職し女皇は氏の言に聽きヂスレリー氏を召して内閣の組織を命したり。然るにヂスレリー氏は當時庶民院の情狀を以てしては國政をなすに困難なるを知るとともに其自家に便利なる條件は之を得るに困難なるを悟りしかば、内閣組織の任を辭したり。是に於て女皇は復びクラッドストーン氏を召し之に内閣の組織を命じ氏は遂に

其命を奉じたり。而してメルボルン卿は當時其必要なりと公言せしマヤマイカ法案を通過するを得ざるを知りて復職したりと假定し得べきもクラッドストーン氏亦其大學法案を通過し得べき望毫も之なくして再び首相となりしは甚だ明かなり。然るに當時クラッドストーン氏が斯くの如くして復職したるを見て何人も之を不可とするものなかりしなり。即ち其始め必要と信じて内閣の存亡を賭したる大學法案は庶民院に於て否決されたりと雖ども女皇の命に従ひ國務の便利を思ふて再び内閣を組織したるは當時の事情に於て氏の最も是なりと信ぜし所を行ひしものにして之に向て何人も異議を挟むものなかりしなり。

然ればメルボルン卿の辭職後直ちに再び内閣を組織したるは必ずしも深く之を尤むべきにあらずと雖ども然れども是等の事情のため又政敵の攻撃のためメルボルン内閣の國民のために嫌惡せらるゝに至りたるは得て疑ふべからず。國內の人民は尙ほ女皇の行爲に對して同感を表し宴會に於ては其万歳を祈り女皇が其の宮女を斥けざるを祝したるものなきにあらずと雖も、内閣は國民一般のために奇怪の地位に立てる者と見做され某記者の所謂女皇に奉仕する貴婦人の衣裳

の下に隠れて其權力を保つものなりと嘲笑せられたり。而してフローラ、ヘスチングス嬢の死するや進歩黨内閣に對する國民の感情は益々不快となれり。ヘスチングス嬢の死は内閣組織の後直ちに起れる事實にして當時實に悲むべきの一慘事たり。當時此貴女はケント公爵夫人の侍女にして無根の嫌疑を被りしものなるが無根なりと雖も蓋し當時の事情より之を見れば嫌疑を來すべき理由は多少之ありしものなり。是れ古書なるダイヤナ女神侍女カリストーの物語を顛倒したるが如きものなり。フローラ、ヘスチングス嬢は無罪の證據明白となりて全く白日の身となりしも其後直ちに死亡せり。是れ其固有の疾病に原因せるは勿論なるべきも嫌疑を蒙りて屈辱に陥りたるため大に其病勢を助け死期を早めたるは得て疑ふべからず。此事件に於ては何人も非難を被るべき理由固より之なく當時の内閣も決して他の非難を招くべき行爲なかりしは明かなり。又女皇及びケント公爵夫人の周圍に侍する人々が多少表面の理由あるが如く見ゆる風説の眞偽を究むるため苦心して相當の所置をなさんことは固より當然なり。然れども此事件は頗る悲惨の出來事にしてヘスチングスは其無罪の宣告を得たる後

直ちに死したれば其母の哀訴は最も痛切にして之に答辯をなすべき大臣は實に苦痛の位置に立てり。ヘスチングス侯爵夫人の請求は頗る不當にして其フローラ、ヘスチングスに對する殘酷なる隱謀ありと説き宮中の侍醫某氏を免職して其罪を糾すべしと云へるが如き實に不當の請求たり。且つ此侍醫の報告によりてヘスチングス嬢に對する嫌疑の無根なることは大に明白となりしと思ふときは夫人の哀訴の不當なるは益々明かなり。是に於てメルボルン卿は夫人の請求は古來先例なく甚だ不穩當なれば夫人の家門位階及び品格等に對し相當の尊敬を致すも其要求に對しては唯だ夫人の書を落手せりとのことを通知するの外何等の返答をなす能はずと答へたり。此事件は當時宮中の誹譏事件と稱せられ宮女問題の起りし前世に知られたりしがフローラ、ヘスチングスの死は宮女問題の後幾何もなくして起れり。而して斯くの如き事件三四相續きて起ることありとするも之を以て唯だ其時を同うせる内閣を非難するは固より不當なるを免かれずと雖ども然れども大臣が實際其監督を行ふべき事件の外は世論に對し決して責任を負はざるの時代は更に進歩したる時代にして當時は未だ斯くの如き時世に

違せざりしものとす。

第七章 女皇の結婚

一千八百四十年一月十六日女皇は國會に親臨して開會を命じ且つ其従弟サクセ
 コーバルク、ゴタのアルバート親王と結婚せんとする旨を告げたり。是れ女皇が
 其國民の利益及び其一身を幸福に導くの着歩と信じたるものなり。既にして庶
 民院の開議に及びサア、ロバート、ピール氏は論じて曰く「我女皇陛下は其公務を果
 すと共に其一身の感情を満足するを得へき愛情に基くの婚姻を結び將來の幸福
 に最も完備の保障を得る多幸の運命を得給ひたるものなり」云々と。ピールの此
 言は實に事物の真相を説破したるものなり。此婚姻は實に愛情の上に成立せる
 婚姻なり。最も下等社會の間に結ばれたる婚姻と雖ども斯くの如く全く愛情の
 結合よりなるものはなく、斯くの如く淳潔にして世俗的の觀念を放れたるものは
 なきなり。是より先き女皇の従弟を愛する其歲月既に久しかりき。従弟は女皇
 と年齢殆ど相全じく唯だ女皇は三ヶ月と二三日先つて生れたるのみ。従弟はフ
 ランシズ、チアールズ、オーガスタス、アルバート、イマニエエルと云ふ。サクセコー

バルク、サルフェルド公エルチストの第二子にして其の母はサクセ、ゴタ、アルテン
 ベルク公オーガスタスの女ルイサなり。一千八百十九年八月二十九日ローズノ
 一の宮殿に生る。宮中の歴史家の記する所を見るに産婆マダム、シーポールドは
 二三月前女皇の誕生を周旋したる手を以て此時アルバート親王の誕生を助け前
 年クント公爵夫妻の結婚式に立會ひたる僧プロフェツソル、ゲンズラーは親王の
 洗禮を行へりと云ふ。ヴィクトリヤ公主とアルバート親王の婚姻は兩家の始めよ
 り希望せし所なりしがヴィクトリヤ公主が明かに其従弟を愛するの傾向を示すま
 では結婚のことを説かざるべしと決心せり。一千八百三十六年アルバート親王
 其母に伴はれて英倫に來り始めてヴィクトリヤ公主に面接せしが公主は其一家及
 び親戚朋友の最も希望せし如く親王を愛するの舉動を現はしたり。後三年を経
 てアルバート親王は再び英倫に來りしが此時女皇は其叔父なる白耳義王に書を
 送りて曰く「アルバートの美は最も驚くべし而して彼は最も愛すべく又最も飾り
 氣なき人なり。約言すれば彼は人を惱殺するの人なり」と。其後幾何もなくして
 女皇は其親信するスト、クマル男爵に書を送て曰く「朕は何事より書き始むべきを

知らざるほど恥かしく感ずるなり。然れども書中の報道は汝の寛恕を得るに充分なりと信ず。アルバートは全く朕の心を得たり。而して今朝兩人の間に一切決定せられたり」と。此前提も文皇は其意思をメルボルン卿に通告し卿は直ちに之に賛成を表したり。蓋しかゝる婚姻に反対する人は決して之なかりしものとす。

アルバート親王は如何なる小女の心をも得べき少年たり。親王は天質優美端麗にして如何なる少女と雖ども之れを一見すれば皆な其心を奪はるべし。凡そ親王家たるものは容貌少しく美にして稍々學藝を有すれば能く朝廷の貴女等をして感嘆措く能はざらしむるに足るべき者なり。然るにアルバート親王は假りに農夫若しくは庖丁の子なりとするも其容貌の美は以て人を感動せしむるに餘りあり。親王は周到の教育を受けたれば文學美術及び科學等一として之に通ぜざるなく、即ち歴史美術音樂等より化學植物學等に至るまで皆な専門家の智識を得たり。其科學的智識と文學的智識とは偏長なく其並完全の發達を得たり。是れ實に半世紀以前の教育としては驚くべき所にして當時日耳曼に於ても所謂完全

圓滿の教育制度は未だ企畫せられざりしにアルバート親王の斯くの如く周到の教育を受けたるは實に感嘆するに足れり。親王は是より先き既に各國の憲法史の研究を始め實際の政治上に心力を用ゆるの準備をなしつゝありき。親王は實際的才能に乏しからず頗る實務を愛するの性に富めり。此事實は其晩年に於て實際明かとなれり。親王は農事を愛し器械及び工學の發達に就て深く興味を感ずるの人たり。蓋し親王は詩人と學者と事務家を兼ねたる人なり。而して平生の嗜欲は平易淡泊に其生活は高尚優美にして美術及び詩文を弄して天然を樂み靜かに一日を送るを樂めり。親王は鳥語を聞て樂しみ獨坐風琴を弄して悠々自適せり。然れども又政治哲學者の資格に富み人の政治論を聞くを樂しみ且つ其是非を辨別するの識力を有し曾て誤謬の論は恰かも音樂の節奏を誤るが如く其神經を刺撃すと云へることあり。親王は少年の時より品行最も方正にして少年の罪過の如き曾て之を犯せしことなく、少年に普通なる愚行痴態の如き全く之を知らず。其女皇と結婚するの時は年齒未だ若かりしと雖ども能く克己の性を以て其義務と信ずるものを行ひ、其操行の堅確なる老者と雖ども及ぶ能はざるも

のありて少年にありては殆んど見る能はざるところなり。親王は如何なる嗜好と雖ども如何なる習慣と雖ども苟くも女皇と結婚したるより生ずる義務を行ふに妨害を興ふるものは盡く之を抛擲し、薄正潔白の生活をなし一毫も亂るゝ所おらず。されば其困難の義務を守り其決心を固守するに於て親王の如く誠實にして志操の堅確なるものは古今前に其人あるを知らず。親切の夫となり慈愛の父となるが如きは親王に取りて易々たる事にして其温良誠實仁愛の性質より自然に起る所にして固より一の務とするに足らず。されば其當初幸福なる結婚の生活をなしたること我ヴィクトリヤ女皇の如きものは世界の女皇中に一人もこれなかるべし。

ヴィクトリヤ女皇とアルバート親王の結婚は一千八百四十年三月十日に行はれり、結婚式の前數日親王の英國に上陸せし時及び其當日は國民一般に之を歓迎奉祝すると頗る熱心なりき。然れども英國の政事家は盡く皆な親王に對し熱心誠實の感情を有せしか否やに就ては多少の疑なき能はず。是より先き或社會の中にはアルバート親王は新教徒に非ず。親王は實に羅馬教會の信徒なりといふ最

も無聲の風説行はれたるとあり。又或社會の中にはアルバート親王は宗教上に於ては無神論者にして政治上に於ては急進黨に屬すとのことを信ずるものあり。不幸にして女皇の結婚を行ふの意思を樞密院に宣言するに方りても其書中にはアルバート親王の新教徒たるを言明せず。當時内閣は蓋し以爲へらく「國內政黨の首領は皆なアルバート親王の宗教改革以來著名の新教徒たるサキソン家の一支族に出でたることを其黨員に諭すの歴史的智識を有すべし」と。アルバート親王の千八百三十九年十二月七日書を女皇に送るや陳べて曰く「一千五百二十六年ルイテルの一たび世に現はれてよりユールバルク家には一人の舊教徒を出さず。加之サキソニーの賢人と稱せられたる司選侯フレデリックは世界最初の新教徒なり」と。當時内閣は英國憲法の君主の羅馬舊教徒と結婚するを禁止、犯す者は王位を失ふとを規定するを以て女皇の結婚を云ふ時は必ず新教徒との結婚なるは勿論なりとなし、憲法の規定は則ち之れが保證となすに足るべしと信ぜしや疑ふべからず。是れ誠に至當の想像なれども實際の上には於ては想像の如くなる能はざりき。左れば此時内閣にして國會及び一般公衆はアルバート親王及び其祖先

の事は毫も之を知らず、又王室の舊教徒と結婚するを禁ずる憲法上の規定あるを知らざるものと假定し、公式に従てヴィクトリア女皇は新教徒と結婚することを宣言せしならんには甚た得策なりしものと謂ふべし。是より先き賢明なる白耳義王レオポールドはアルバート親王の新教徒たるの事實を宣言書の中に特記すべしとのことを忠告せしが遂に其議を用ふるに及ばず。是れ蓋し首相メルボルン卿の無頓着にして善良なる性質より人民は敢て異議を挟むものなかるべく、萬事皆な圓滑に行はるべしと假定せしものなるべし。左れば卿はアルバート親王の新教徒たることを特記するが如きは誠に僞飾に過ぎずと爲し樞密院に下したる宣言書にも亦國會に對して爲せる宣言にも親王の新教徒たることを言明せず。是に於て其結果は貴族院に於て勅語奉答文を討議するに方り一場の爭論を起し頗る失躰を來したり。而して此爭論は始めより注意せば容易に避くるを得べかりしを思へば一層遺憾のことたるを見る。貴族院に於てウエリントン公は女皇の將來の夫婦は舊教徒たりや否やとの問を起し且曰く『内閣が其愛蘭黨及び舊教徒の己を助くるもの、歡心を失はざらんがため故意に新教徒なる語を宣言書に

載せざるものなり』と。而して此非難の爲め當時オィコンネル氏の援助に因て其職を保つと稱せられたる内閣大臣に對する人民の惡感情は一層の大を加へたり。ウエリントン公は進んで一勳議を起し、女皇に奉呈すべき感謝狀には新教徒なる語を記入すべしと論せり。之に對しメルボルン卿は其人の當時新教徒なるのみならず、其祖先は歐羅巴に於ける最も有名の新教徒たる親王を特に新教徒なりと記載するの必要なしとの説を主張せしが、ウエリントン公の意見は遂に貫徹したり。始め内閣が宣言書に新教徒の字を除きたるは議見の淺きと策略に乏しきを最も明かに暴露したるものとす。

其後親王の歸化法案を貴族院に提出するに方り又失躰の論争を生したり。本案は其目的唯だアルバート親王の歸化に關する規定をなすにありしが、其中の一條項を以て國會若しくは其他女皇の適當と考ふる場所に於てアルバート親王に女皇の次に坐位を占むるの權を終身與へんとしたり。ウエリントン公及びプロハム卿は此點に於て大に反對を唱へたり。而して其反對も實は内閣大臣の議見に乏しく且つ通常の禮法をも忘れたるによりて一層其氣焰を高めたるものなり。

何となれば内閣は預じり國會に何等の通知をもなさずして一歸化法案を以て爾かく宏大にして新奇なる權利を君主に與ふるの議を突然提出したるものなればなり。此事件は結局該法案を唯だ一の歸化法案たるに止め坐位の問題は之を君主の特權によりて決定すべきものとなし其終りを告ぐるを得たり。即ち此問題は親王は向後凡て集會の席に於て又其他凡ての場合に於て國會の議定法律を以て特に規定するものを除くの外は女皇の次に坐位を占むべしとのことを女皇の特權を以て定むるととなり、各政黨は皆な是に同意して結局を告げたり。此時内閣にして始めより正當の見識を以て事に従事せしならんには固より爭論を生ずべきにあらざらしなり。而して我國の如く其立憲制度は概ね先例より成るの國に於て國民が内閣の急に之を實行するを便利とする新制度を見て毫も異議を挾まずして直ちに全意するか如きは決して豫期するを得べきものにあらざ。然るに當時の内閣は斯くの如き新規定を設くるも國民は敢て異議を挾むことなかるべしと想定す無稽も甚しといふべし。内閣の失策は之れに止まらず。アルバート親王の年金を定むるの議案を提出するに及んで再び國民及び王室の不満足の原因を作れり。前例によれば年金は五万磅たり、即ち皇后チャロット(Queen Charlotte)皇后アデレード(Queen Adelaide)の時の如き又レオポルト親王(Prince Leopold)のチャロット公主(Princess Charlotte)と結婚せし時の如き皆然りと爲す。然れどもアルバート親王の年金を定むる時は内國の産業非常の不景氣に陥りたるの時にありき。又庶民院に於て節儉を以て不名譽となし、王室に對する忠義のためには國會議員たるもの國王の名に於て大臣の請求する金額には一言の異議もなく之を承諾すべしとの主義行はれたるの時は既に過ぎ去れり。即ち當時國會は漸くにして國民の財本の監督者たる責任を重んずること深く、議員は皆な納稅者の金を無頓着に費消するを得ると思惟せざるに至れり。此時に當り内閣が以前一言の異議もなくして巨額の金を出したるを見て今も尙ほ國會は一議にも及ばずして巨額の金を出すべしと假定するは實に思はざるの甚しきものと云ふべし。是時内閣にして始めより相當の見識を有したらんには此年金問題も爭論なくして速かに決するを得たりしならん。然れども内閣は常の如く無分別なりき。今日に於ては斯くの如き場合に於て内閣は直ちに在野黨の首領と協議を遂ぐるなり。

原因を作れり。前例によれば年金は五万磅たり、即ち皇后チャロット(Queen Charlotte)皇后アデレード(Queen Adelaide)の時の如き又レオポルト親王(Prince Leopold)のチャロット公主(Princess Charlotte)と結婚せし時の如き皆然りと爲す。然れどもアルバート親王の年金を定むる時は内國の産業非常の不景氣に陥りたるの時にありき。又庶民院に於て節儉を以て不名譽となし、王室に對する忠義のためには國會議員たるもの國王の名に於て大臣の請求する金額には一言の異議もなく之を承諾すべしとの主義行はれたるの時は既に過ぎ去れり。即ち當時國會は漸くにして國民の財本の監督者たる責任を重んずること深く、議員は皆な納稅者の金を無頓着に費消するを得ると思惟せざるに至れり。此時に當り内閣が以前一言の異議もなくして巨額の金を出したるを見て今も尙ほ國會は一議にも及ばずして巨額の金を出すべしと假定するは實に思はざるの甚しきものと云ふべし。是時内閣にして始めより相當の見識を有したらんには此年金問題も爭論なくして速かに決するを得たりしならん。然れども内閣は常の如く無分別なりき。今日に於ては斯くの如き場合に於て内閣は直ちに在野黨の首領と協議を遂ぐるなり。

即ち今日に於て君主に關係ある者に年金を與へんとするに方りては國會に於ける政府在野の兩黨充分に協議したる上其の議案を國會に提出するの例にして是れ世人の等しく認知する所なり。即ち此時庶民院の首領は預じめ反對黨首領の同意を得て議案を提出し反對黨の首領は直ちに之に賛成するを例とす。然るにアルバート親王の年金を議するに方り内閣は預じめ一言の協議を反對黨に求めず、突然其議案を提出するの愚をなしたり。即ち彼等は先づ無分別を以て年金法案を提出し之に次々に其討議に於て毫も禮讓の道を盡さず。即ち彼等は至當の反對者を罵りて皇室に對して忠愛の念なきものとなし、有理の反對論を以て勤王の精神を欠くものと論じたり。左れば彼等は反對黨を激して女皇及びアルバート親王に不快を感せしむるの言論をなさしむるの目的を以て斯くの如き言語をなしたりとの疑を受けしが、此疑も當時の事情より之を觀れば多少の理なきにあらずと思はしむるものあり。是時ヒューム氏は五万の年金を減じて二万一千磅となすべしと主張し其議は否決せられたりしが、次でコロケル、シブホルプ氏(Oliver Sibthorp)三万磅の議を提出し、サア、ロバート、ピール氏併に其他在野黨の名士の

賛成を得て此修正議は通過したり。以上の出來事は女皇の婚姻に伴ふ吉兆なりと云ふを得ず。女皇及びアルバート親王は是等のため多少不快を感じたるは勿論と云ふべく、特に女皇は親王よりも其影響を感ずること甚しかりしや得て疑ふべからず。アルバート親王は當時善く英國の政治制度の狀態を認識し是等の事件を見ても尙ほ好感情を示し、當時庶民院が大臣の提議に反對を唱へたるは決して親王に對し悪感情を抱くに原因するにあらざる所以を覺悟したり。坐位問題の如きも至當の方法に於て討議せらるゝに及んでは容易に決定せられたり。但しアルバート親王に皇婿即フランス、コンソルト(Prince Consort)の稱號を獻じたるは其後多年の後なりとす。

結婚後數月にして女皇の嗣子を遺して崩じたる場合に於て攝政を置くことを規定するの法案は國會を通過したり。此時内閣は反對黨の首領と協議したればアルバート親王は在野黨の同意を得て攝政と稱せらるゝに至れり。是れチャールズト公主とレナポルド親王との場合に於て適用したる先例に従へるものなり。是時女皇の叔父サセックス公獨り貴族院に於て之に反對を唱へたり。本案の通

遺はアルバート親王に取て頗る重要な關係を有せるものなり。是によりて親王は英國に於て其從來有せざりし位置身分を有するに至れり。又本案は一方に於てアルバート親王の年金及び坐位問題の討議以後數月間に於て大に保守黨の親王に對する尊敬心を増長したることを證明したり。アルバート親王の一旦皇婿となるや全く黨派政治の外に超然たるの決心を以て世に立てり。親王は立憲國の女皇の夫婿として其位置を取り自から女皇の内私の顧問員にして又無官の補弼たらんことを誓ひ、此目的に其一身を委ねて決して其節を變ずることなかりき。親王は此職務の外美術教育の事に熱心し恰かも主務省なき文部大臣の位置を取れり。即ち親王は教育の擴張美術の研究及び工學の進歩に關する凡ての企圖運動に於て單に之に關係するを喜びしのみならず往々にして其首唱者となりて盡力したり。然りと雖ども親王は始め國民のために其の人物の真相を看取せられず久しき間國民の人望を得ず。而して其國民全體の人望を遂に能く得たりや否やは疑なき能はず。國民が親王の全く公平無私の人にして其日常の生活の誠實にして其義務を重んずること最も深き人なるを看破せしは親王の死後にありき

蓋し通常の人より之を見れば親王の性質は消極的徳義の外別に善性を有せざるものゝ如くなりき。世人は親王を以て冷淡にして感情に乏しき嚴格の人となせり。親王の舉止動作は其親友と共に居るの外は恭敬にして稍や怯懦なりき。而して其親愛する人々と居るに方りては即ち放恣輕快にして兒童の如き舉動をなせり。然れども一般の公衆に對しては親王は誠に嚴格にして冷淡なりき。左れば嚴格恭敬の下に其の天性の温和を隠くすものは獨り彼のペンヂニスに止らずと云ふべし。アルバート親王は其天與の才能と其強勉の性質と新思想を歓迎するの性を以てして遂に英國制度の真相を了解する能はず。其親信する友人にして又顧問たるストックマル男爵の如きは此點に於て親王を導て正當の見識を得せしむるに適せず。即ち二人共に英國憲法の中より整然たる組織を求めんとし、若くは其中より之を求めて平生其指南車とすべき摘要を得んことを勉めたり。然れども英國憲法は決して其中より整然たる組織を發見し得べきものにあらず。又學者が其備忘とすべき法則を摘要するを得るが如き成典にあらず。アルバート親王は斯くの如き人なりと雖ども始め英國人が親王に對し冷淡なりしは其原

因必ずしもこゝに存するにあらず。別に自から其原因あり他なしアルバート親王は一個英國人の風儀を有せず而して英國人は當時尙ほ今日と同じく英國人の風儀を有せざるものには深く親任すべからずとの思想を有せり。是れ實に今に於ける英國人の僻性なり。アルバート親王は所謂通常の交際社會に於て輝くの人にあらず。親王は或事物に就ては能く談じ能く語るを得。然れども皆無に就ては談話するの才能を有せず。而して親王又斯くの如き才能を練磨するの心を有せざるに似たり。親王は舊物に對し新奇改良の事を云ふを好めり。是れ舊物に慣れたる固定の志望を有する人の甚だ忌む所なれども親王は毫も是等の人々に介意せずして其好む所に任せり。左れば是れがため多年の間親王は他人の爲めに其眞性質を知られず。假令全く誤解せられずとするも又決して完全に其性質を認識せられず。爲めに有力なる社會の人々にして往々親王の言ふ所に異議を唱へ親王の爲す所に疑念を抱くものありき。蓋し親王は上等社會よりも却て下等社會の爲めに最もよく其本質を了解せられたるが如し。親王は又保守黨否な進歩黨よりも急進黨の中に其賛成者を發見するを得たり。

アルバート親王の嘗て最も熱心したる改革の一事業は軍人間に於ける決闘を廢止し或る仲裁裁判所の法を設けて之れに代へんとしたるにあり。親王は其所謂名譽ある仲裁裁判の制度を設立するの効を奏せずと雖ども其熱心の功はウエリントン公及び政府在野二黨の首領をして大に此問題に注意せしめ決闘の習慣を減殺するため大に其勢力を利用するを得たり。蓋し親王の法案は頗る奇妙にして當事の政治家の注意を引くに足らず又之を實行して功力あらしむるには頗る實際の困難ありしは疑なかりしなり。然れども其熱心はウエリントン公及び其他の大政治家の注意を惹き其勢力を借りて其目的に應用するを得たり。是れ親王に取て頗る偉なりと云はざるべからず。親王の傳を記するもの或は決闘の廢止を以て全く親王の盡力の効なりと云ふ者あり。是れ其實に過ぎたるの贊辭なり。親王の功を賞せんと欲せば唯だ親王は其出來得る丈けを成し親王の盡力は決闘廢止に與りて確實の効ありと云はゞ足れり。決闘の全く廢止に歸したるは是れ實にヒクトリアや女皇朝に於ける文明開化の進歩の甚だ駿速なりしを證する者と云ふべく吾人は此一事に因て近代文明の如何に長足の進歩をなしたるか

を見るべきなり。始め女皇の位に即きし時及び其後若干年の間は決闘の餘習な
 は甚だ盛にして、女皇の即位當初に於ける小説及院本等に於ては決闘談は實に其
 要部を占めたり。當時政治上の争には必ず決闘の伴ふあり、選舉競争の時の如き
 決闘は實に其常事なり。又骨牌の諸戯に於て争の起るや酒徒は決闘を以て其正
 邪を決すること往々にして之あり。左れば當時決闘は人の破産もしくは脱走と
 同じく通常世話の好題目なり。女皇の初年に於て有名なりし政治家は概ね皆な
 決闘をなしたる人なり。ピール及びオーコンネルの二氏は某所に會して決闘を
 なすの約を結び、ヂスレリー氏はオーコンネル氏に決闘を申込み其子にも決闘を
 申込みり。オーコンネル氏も亦嘗て決闘して人を殺したることあり。ローエバ
 ック氏は則ち決闘のため亡びたり。ユナデン氏は嘗て決闘を申込み笑て之を
 斥けたるとあり。今日に於ては決闘を以て是非を決するは恰も巫女の火刑又は
 罪人の手を物に觸れて其邪正を判定するに等しく野蠻無稽の方法たるを免かれ
 ず。嘗て國會に於て決闘の談止みしより既に多年を経たれば今日に至りては人
 の再び決闘を以て争論の是非を争ふものなし。然れども短日月の間に社會公衆

の感情及道德の趨勢斯くの如き著しき變化を來したるは決して一人の力にあら
 ず。又決して一階級の人々の力にあらざ。即此變化や全く教育の進歩文明の發
 達に伴ふ一現象にして之を詳言すれば新聞、書籍及び學者の講談並びに鐵道電信
 等の便の開くるに從て自然生じたるの結果なりとす。

今本章の終りに於て兇徒の女皇の生命の上に試みたる兇行の一二を記述せんと
 す。思ふに此種の事件を記するには茲を以て最も適當となすべきか。而して兇
 徒の女皇に危害を加へんとしたるもの唯だに一二に止まらざりしと雖ども一と
 して政治的意味を盡せるものはなく、皆な狂人の所爲もしくは虚名を博せんとす
 る狂人に近き愚人の舉にあらざるはなし。第一の舉は一千八百四十年六月十日
 エドワード、オクスフォールドの兇擧なりとす。オクスフォールドは十七歳の少年
 にして女皇がアルバート親王と共に憲法岡コンスタチオンヒルに車を驅りしとき女皇に二發の銃射
 を試みしが二發共に充分標準を計りて發射せしが幸にして皆な中らず。彼は平
 生政治犯人を以て世人に評せられんことを願ひ、殆んど狂人に近き年少の暴漢た
 り。之を審判するに及び陪審官は之を以て狂人となし、癡狂院に囚繋して女皇の

許を得るまで出る能はざらじめたり。オクスフォードは懷中に文書を携へ中に
 惹き英倫と稱する秘密結社の事を記し、該社は國王を暗殺するを以て其一目的と
 なることを記せしかば一時非常の驚慌を起せしが審判に及んで其全く無根の事
 なるを明かにし人心の驚慌を一掃せり。又當時愛爾蘭の舊教徒の新聞はオクス
 フォードを以てカンペーランド公及びオレンジャメンの使囑に出るとなし、其目
 的は女皇を暗殺してカンペーランド公を王位に登らしむるにありと公言せしが
 是れ當時國民一般の如何の感情を以てオクスフォードの兇擧を目せしやを説
 明するの一助となすに足る。オクスフォードの一度審問を経るや其何人の使
 者にもあらずして全く虚名を愛する狂暴の心より出でたるを明かにするを得た
 り。此時陪審官のオクスフォードを以て狂人となせしは多少當時の事情を酌量
 する所ありしや明かなり。何となれば此少年の醫學上の意味に於て實際狂人な
 るべしや否や彼は果して其狂行に對し責任なきものなるや否やは頗る疑なき能は
 ざ。然れども當時にありては彼を以て一個の狂人となすの最も得策たるを知る。
 而して其結果も不満足にはあらずき。セオールド、マルチン氏アルベート親王

の傳を書するに方り反對の説を述べたり。氏は通常人を以てオクスフォードを
 所刑するの反て得策なりしことを論せり。氏の言に曰く「オクスフォードに斯
 くの如く寛典を與へたる結果は如何と云ふに一千八百四十二年フランス及び
 ピーソンの二人同じく女皇に危害を加へんとするの兇擧を爲したるを聞てオクス
 フォードは若し余にして絞殺せられたらんに後日女皇を狙撃するの人は再
 ひ出でざりしなるべしと云へり。是れオクスフォードに與へたる寛典の結果を
 最も能く説明するものなり」と。然れども刑法の一般の効力に關するオクスフォ
 ードの此一言は果して眞面目に注意するの價值ありや否やは頗る疑なき能はず。
 各國の事例を見れば此半狂人の論とは全く反對の事實を示し、君主に危害を加へ
 んとする兇人に嚴刑を科するも以て他の兇人を防止するに足らず。即ち一兇人
 を前に嚴罰するも兇惡の人物の後に再び出るを禁ずる能はざるの事實明かなり
 也。一千八百四十二年五月三十日ドルリ、レイン市の器械師の子ジョン、フ
 ランシスと云ふもの女皇の馬車に駕して憲法圖を下るに方り前年オクスフォ
 ードの兇行を企てたると同一の所に於て短銃を以て女皇を狙撃したり。此とき

兇徒は輦車を去る僅かに數歩なりしかは頗る危険なりしか幸にして馬車の疾驅せし爲め無難なるを得たり。此時女皇は甚だ沈重自若なりき。是より先き一夕此兇人は輦車に近きて短銃を出せしことあり。彼は當時發砲に及ばざりしか女皇は此時より多少戒心せしかば其兇變に遭ふに及んでも自若として動かざりしなり。フランスは直ちに通達せられ審問に付せられたり。年僅かに二十二の少年にして初め法廷に於て審問を受くるに方り其目的を誇大にし多少演劇的弑逆人の風を裝はんとせしが、大逆罪を以て死刑を宣告を受くるに及び忽ち絶倒し人事不省にして法廷より運び出されたり。然れども此宣告は實際施行するに至らず。其携へたる短銃は果して彈藥を裝置せしや否や、又其兇行は單に虚名を博せんとする一種の演劇にはあらずるか頗る疑問の存する所なりしかば、女皇も死刑の宣告を執行するに及ばざらんことを望みたれば遂に終身流刑を以て之に代ふるに至れり。此減刑の世に公にせらるゝや其次日ヒーンと名つくる駝背の一少年同じく兇行を試みたり。女皇のハツキンク公の客殿よりチャプル、ロイヤルの寺院に行幸するに方り、ヒーンは車駕に近きて短銃を出せしが未だ發砲せ

ざるに先ち傍に立てる勇敢なる一少年の爲めに其手を支へられ、次て捕縛せられたり。短銃を檢むるに火藥を填め紙を以て之を密封し且つ陶器の細片をも込めたるを發見せり。此出來事を一見すればマルチン氏の論は正當なりと稱するを得べきが如く、ヒーンの兇行はフランスの減刑の報、公にせられたる次日之を行ひたれば前者に對する寛典は後者の兇行を誘致するの原因たりとの醜となすを得べきが如し。然れども始めヒーンの兇行をなすの決心を起したるはフランスの減刑前數日にしてフランスが恰かも死刑の宣告中でありし時なりとの事實は明かとなり、且つアルベルト親王も此事を記せしことあり。左ればマルチン氏の論は遂に其可を見る能はざるものと云ふべし。フランスの罪に關してはアルベルト親王の意見は之を死刑に處するは司法手續を以て人を虐殺するに外ならず、何となれば死罪を構成するには充分殺傷の故意を以て之を行はざるべからず。然るにフランスは殺傷の意なきものゝ如く、又全く之なしと云ふ能はざるも、其有無は甚だ疑はしきを免かれずと云ふにありき。親王は此時女皇と同乗せしものなれば女皇に對するの危害は其身も亦た共に之を感じたる人なれども

此等の兇行を處分するに就ては則ち斯くの如き公明の意見を有せしものとす。蓋し斯くの如き兇暴の行を以て女皇及び國民を驚したる兇人の野心は決して刺客の野心にあらざりして唯だ一個輕佻の虛名者の野心のみ。左れば女皇も能く兇行の性質を了解し嘗て謂へることあり『是等の兇行を單に大逆罪として之を處罰するの法律にして改正せられざる限りは朕の生命に危難を加へんとする兇行は向後と雖ども其起るなきを期すべからず』と。是れマルチン氏の記する所なり。蓋し國事犯と云ふことは徒らに虛名を好むの徒若しくは狂者に取りては多少其心を誘導するに足るものあり。且つ當時斯くの如き國事犯は一旦有罪の宣告を受くるも概ね其宣告の如く處刑せざるを常とせり。是等の事情は多少兇暴を生ずるの原因たらずとなさず。是に於て女皇に危害を加へんとする兇行は犯人其惡意なくして唯だ虛名を博せんとするに出るものなりとするも之を罰するに嚴酷にして不名譽なる刑罰を以てし、一度宣告をなせば必ず其宣告の如く之を所罰するとなしたり。是れ實に適當の改正なりと云ふべし。此改正はサー、ロバート、ピール氏の提出案に依り始めて成就せられたり。本案は女皇に危害を加へんとするの兇徒は七年の流刑もしくは三年以内の禁獄に處し、且つ朝廷の命ずる所に從ひ犯人は公私の場所に於て之を管つととなしたり。但し刑期中鞭笞は三回に越ゆるを得ざることとなしたり。ヒーンは則ち此法律の制裁を受けミルバンはバンテンシヤリの獄に十八ヶ月の禁獄を命ぜられたり。然れども女皇に危害を加へんとするの兇暴は之を以て終るに至らず。一千八百四十九年五月十九日憲法圖に於て愛爾蘭の瓦工ハミルトンと云ふもの短銃を以て女皇を狙撃し七年の流刑に處せられたり。此時ハミルトンは短銃に唯だ火藥を込め彈丸を込めざりき。一千八百五十年五月二十七日女皇の車駕カンブリッジ公の邸宅を去るに方りロバート、ペイトといふものステッキを以て女皇の面を打ちたり。ペイトは嘗て輕騎隊の副隊長たりし人なり。彼は其罪を以て七年の流刑に處せられたり。此時判事はペイトの狂人たりと云ふの辯護に重きを置き付加の管刑を免除したり。後一千八百七十二年二月二十九日アーサー、オーコンノルと云ふ十七歳の少年、女皇の出遊してベッセンクハムの宮殿に入らんとする時女皇に短銃を擬したり。然れども其短銃は古物にして使用に任へず若しくは管を加ふるの力なきも

とす。此等の兇行を處分するに就ては則ち斯くの如き公明の意見を有せしものとす。蓋し斯くの如き兇暴の行を以て女皇及び國民を驚したる兇人の野心は決して刺客の野心にあらざりして唯だ一個輕佻の虛名者の野心のみ。左れば女皇も能く兇行の性質を了解し嘗て謂へることあり『是等の兇行を單に大逆罪として之を處罰するの法律にして改正せられざる限りは朕の生命に危難を加へんとする兇行は向後と雖ども其起るなきを期すべからず』と。是れマルチン氏の記する所なり。蓋し國事犯と云ふことは徒らに虛名を好むの徒若しくは狂者に取りては多少其心を誘導するに足るものあり。且つ當時斯くの如き國事犯は一旦有罪の宣告を受くるも概ね其宣告の如く處刑せざるを常とせり。是等の事情は多少兇暴を生ずるの原因たらずとなさず。是に於て女皇に危害を加へんとする兇行は犯人其惡意なくして唯だ虛名を博せんとするに出るものなりとするも之を罰するに嚴酷にして不名譽なる刑罰を以てし、一度宣告をなせば必ず其宣告の如く之を所罰するとなしたり。是れ實に適當の改正なりと云ふべし。此改正はサー、ロバート、ピール氏の提出案に依り始めて成就せられたり。本案は女皇に危害を加へんとするの兇徒は七年の流刑もしくは三年以内の禁獄に處し、且つ朝廷の命ずる所に從ひ犯人は公私の場所に於て之を管つととなしたり。但し刑期中鞭笞は三回に越ゆるを得ざることとなしたり。ヒーンは則ち此法律の制裁を受けミルバンはバンテンシヤリの獄に十八ヶ月の禁獄を命ぜられたり。然れども女皇に危害を加へんとするの兇暴は之を以て終るに至らず。一千八百四十九年五月十九日憲法圖に於て愛爾蘭の瓦工ハミルトンと云ふもの短銃を以て女皇を狙撃し七年の流刑に處せられたり。此時ハミルトンは短銃に唯だ火藥を込め彈丸を込めざりき。一千八百五十年五月二十七日女皇の車駕カンブリッジ公の邸宅を去るに方りロバート、ペイトといふものステッキを以て女皇の面を打ちたり。ペイトは嘗て輕騎隊の副隊長たりし人なり。彼は其罪を以て七年の流刑に處せられたり。此時判事はペイトの狂人たりと云ふの辯護に重きを置き付加の管刑を免除したり。後一千八百七十二年二月二十九日アーサー、オーコンノルと云ふ十七歳の少年、女皇の出遊してベッセンクハムの宮殿に入らんとする時女皇に短銃を擬したり。然れども其短銃は古物にして使用に任へず若しくは管を加ふるの力なきも